

轉法輪法解

李洪志

本書『法解』は法を伝えた初期、新しい学習者を対象に解答した比較的簡単なものであり、次元が限られているため、ただ新しい学習者の参考用とします。

李洪志

一九九七年七月十六日

目次

北京『轉法輪』出版式典での説法	3
長春での説法 質疑応答	43
鄭州での説法 質疑応答	52
濟南での説法 質疑応答	71
延吉での説法 質疑応答	101
広州での説法 質疑応答	136

北京『轉法輪』出版式典での説法

李 洪 志

一九九五年一月四日

まずは皆さん、新年あけましておめでとうございます！

在席の皆さんの中に古くからの学習者もいれば、講習会に参加したことのない人もいますが、いずれも法輪大法についてある程度の認識を持っています。先ほど、スタッフは法輪大法の一九九四年度の総括を行い、存在する問題についても大まかに話しました。不足するところは、今後の仕事の中で大法を広めながら改善しなければなりません。功法全体の発展の形勢から見ると、急速に広まる様相を呈しています。影響もますます大きくなり、急激に増加しており、広まる速度も非常に速いのです。私が功を伝え始めてから現在まで、まだ二年余りしか経っていません。しかも初めのころは病気治療、健康保持という低い次元の気功として伝え始めたのです。それは皆さんに認識の時間を与えるためです。最初私が出てきた目的はすなわち、高い次元の功を伝え、高い次元に人を導くためだと話しました。本当の高い次元での修煉についてはまだ誰も説いていません。もちろん、初めの頃は我々も気功という低い次元での形で広めていました。その目的は皆さんに認識の時間を与えるためです。特にこの一年、私は主に法を説いてきました。ですから、学習者はみな知っていますが、私は高い次元のことについて説いており、ほかの人が説くことのできないことを話し、本当の修煉、いかに修煉すべきかについて言及したのです。というのも、修煉方法も沢山あり、長年にわたって普及していますが、どのように向上するかという問題に直面しています。いつも従来 of 理論に留まったままではいけません。今まで、多くの方が煉功にあたって心性の修煉および徳を重んじていないため、様々な混乱が起きました。

我々は佛家大法ですから、佛家の理について話します。釈迦牟尼佛は、末法時期には魔が出現し、常人社会をかき乱すと話したことがあります。本当のところ、釈迦牟尼はお寺に魔が現れて彼の法を破壊すると言っているだけでなく、この意味だけでは

なく、普遍的でもっと大きな理を説いたのです。皆さん考えてみてください。現在のこの時期、人間の道德水準はここまで退廃してしまい、人と人の間のトラブルはここまで激化してしまい、利益に目が眩み、金のためならなんでもやりかねないという状況になっており、社会の風紀は日増しに悪化しています。現在、人と人との関係も非常に緊張しています。しかも、道德水準も腐敗墮落し、同性愛、性の解放、麻薬中毒、マフィアなど、ひどく乱れており、何でもあり、国内外はすべて同じです。中国の年配の方、年寄りの方には、まだ少し道德観念があり、この社会を維持しています。西洋ではマナーが重んじられているため、表面的なマナーは何とか保たれています。しかしながら若い世代、特に中国人ですが、まったく道德を重んじていません。皆さん考えてみてください。このまま続けば危険ではありませんか？

多くの大師、多くの予言者も人類に劫難や魔難がやってくると言いましたが、彼らの話はさておいて、皆さん考えてみてください。もしもこの社会がこのままいくと、危険ではありませんか？ 物事は極まれば、必ず反転します。このままいくと、これから人はどうなってしまうのでしょうか？ 私が伝えるこの大法は、高い次元では人の修煉を指導することができ、低い次元では人のあるべき道を指導することができます。間違いなくそういった働きがあります。ですから多くの学習者は学びたいと思い、奮って学んでおり、とても素晴らしいと感じています。というのも、本当の法が伝えられれば、人を済度することができるからです。しかも、学習者は深い感銘を受けています。単に理性からだけではなく、身体にも、素質にも、道德水準にも、大きな変化が起きたため、このように大きな影響が生じたのです。この大法は他の一般的な功法と違い、我々は本当に高い次元へ人を導いています。

現在、社会で多くの工場の従業員は大法を学んだ後、皆の心掛けが大きく変わりました。人々は人間がどうあるべきか、どのように徳を重んじるかが分かるようになったため、生産の向上に結びついたので。人の心がすべて善に向かい、一生懸命働いています。良い修煉者になりたいと思えば、基本から始めなければならず、まずは良い人になるのです。良い人はどこにいても良い人で、上司から与えられた仕事をきちんと完成させなければなりません。それは社会に尽くすことであり、必ずこのような促進作用があります。それというのも、私は高い次元へ功を伝え、高い次元での法を

伝えているため、人を高い次元へ導くことができ、更なる高い境地まで到達させることができるからです。

ですから、高い次元まで修煉することを望んでいなくても、この理を常人が一旦知ってしまったら、人はこの理に基づいて行動すべきだと気付くのです。というのも、人類の道德水準がどれほど危険なところまで滑落しても、この宇宙の理は変わらないからです。この宇宙の理が不変であるために、人類の道德が滑落したことが分かるのです。この宇宙の理まで変わってしまったら、人類の道德が滑落したことに気付かないのです。先ほど人類の道德がここまで滑落したと話しましたが、多くの人はまだ理解できません。特に講習会に参加している人は、往々にして最初の二日間では、私の説いていることをあまり理解することができませんが、講習会が終わり、常人社会を振り返ってみたとき、すべて理解できるようになりました。この社会にいれば、感じることができず、自分はまだ人よりましだと感じています。心性が向上してから振り返ってみたとき、初めてその危険性が分かるのです。なぜならば、大法にはこのような力があり、そういった働きがあるからです。ここまで至っても、人にはまだ善なる心があり、佛性もあるので、話すとすぐ理解できるのです。多くの人々が善に向かおうとし、学びたいと思い、もちろん多くの根基の良い人が更なる高い次元へ修煉しようとしているので、この功法が広まる過程にこういった勢いを形成したのです。

数年前、一部の人々が理不尽に気功を批判し、完全に否定する態度で気功に反対したため、気功は停滞期に入りました。二年前から、またブームになりました。以前ほどの盛況はありませんでしたが、それもかなりの人気ぶりでした。しかし、最近再び人気は落ちてきたようです。このようになったのは、誰かが反対したり、批判したりしたからではなく、あるいは行政手段でそうしたのでもなく、人々が冷静に考えるようになり、どれが本物なのか、どれが偽物なのか、どれが人騙しで害があるものなのか、人々はこれらのことを考え、冷静に対応できるようになったため、この状況になったのです。ですから、多くの偽気功師は人気がなくなって、金を巻き上げるための講習会も開けなくなりました。私が多くのところへ功を伝えに行ったとき、現地の気功科学研究会や人体科学研究会の責任者は「各地で気功講習会を開催しても、人が集まらなくて、気功は全体的に下降気味ですが、法輪大法だけは直線的に伸びており、しか

も非常に速いスピードで発展している」と言いました。もちろん、これはほかの人が言ったことですが、私はその言葉を借りているだけです。将来、さらに速く、さらに迅速に発展していくかもしれません。このことは私が出山する前から、すでに分かっています。将来どういう状態になっていくのかについても、私にははっきり分かっています。

総じて、法輪大法は法を伝える過程で、確かに学習者に対して、社会に対して責任を持っているからこそ、このような良い結果が得られました。先ほど、私は法輪大法の発展の形勢を簡単に話しました。在席の中に多くの新しい学習者もいますが、十分には理解できないかもしれません。多くの学習者は法輪大法の発展状況と、もっと多くの説法も聞きたいと思っています。私もここにいる新しい学習者に対して、この時間を利用して法輪大法について紹介し、併せて、皆さんに修煉の中の法理についても話してみようと思います。

皆さんも知っているように、練功は病気治療と健康保持という次元において、各流派の良いところを採り入れるということを説いています。誰もが練功して身体を鍛え、病気を治したいと思っているからです。各流派の良いところを採り入れ、誰のものであっても病気が治ればそれでよいのではないかと、常人がこう考えるなら何の問題もありません。私は異なる次元には異なる法があり、異なる次元の異なる法が、その次元の修煉者に対して異なる制約と要求があると説きました。常人はとりもなおさず常人という次元にいますので、各流派から良いものを採り入れて、健康増進を図り、これは何の問題もありません。実はこの気功は病気治療、健康保持のためだけのものではなく、もともと修煉なのですが、現代人の考えに合わせて、受け入れられるように、そしておかしなレッテルを貼られないようにするため、気功という名前が付けられたのです。気功は「文化大革命」の中後期から発展し、最盛期に至りました。そのころ本来の名前では、ひどく批判を受けるに違いありません。良いことをし、多くの人々が健康になるよう、病気治療と健康保持のことを行なっても認められません。あの頃、極左思想が横行していたからです。ですから、誰も本来の名前を使わず、皆が気功と呼んでいたのです。当然、気功には流派があり、各流派の修煉方法も同じではないので、様々な気功が現れ、いずれも元の名前を隠して、気功の名はこのように広まった

のです。

気功は修煉のためのもので、宗教の中の修煉方法もその一つです。修煉方法である以上、ただ病気治療と健康保持のためだけではありません。というのも、修煉は高い境地に至るためのものなので、それを用いて人の病気を治療すれば、当然素晴らしい効果が顕れます。とはいっても、なぜ多くの煉功者の病気が治らないのでしょうか？なぜ多くの煉功者の功が伸びないのでしょうか？それは気功が修煉だからです。修煉は常人の体操とは違い、常人の技能や体育運動でもなく、超常のものなのです。超常のものである以上、超常の方法で健康を保ち、高い境地に到達しようと思えば、超常の理によって指導されるべきではありませんか？とすれば、この超常の理はそのような指導と制約の作用を持っており、つまり常人の次元を超えるものなので、あなたは超常の理に基づいて行動しなければなりません。常人の次元のものは、努力をすることによって、またはお金を払えば手に入れることができます。または多く努力すれば、常人の技能のように得ることもできます。しかし、修煉はそうはいかず、人の心を修めなければなりません。あなたの心を修煉して、初めて向上することができます。必ず徳を重んじ心性を修めて、初めて向上することができるのです。

以前私はなぜ、人は心性を重んじ、徳を修めてこそ向上できるかについて話しました。それはこの宇宙にある理が制約しているからです。どういう理なのでしょう？すなわち、私が説いた、宇宙にある特性が存在しているということです。あたかも我々人間のように、人間の身体のように、肉体のほかに他の生命が存在して、初めて完全な人間を構成しているのです。身体だけであれば、ただの肉の塊にすぎません。性格、気質、特性、そして元神があって、初めて一人の完全な人間、独立した自我と個性を持った人間になるのです。この宇宙も同じです。我々が現在認識できる物質的な存在、すなわち星、銀河系、恒星、彗星、惑星など物質として認識されているもののほかに、ある特性が存在しており、精神的な存在とも言えます。概括して言うと、この法は下に行けば、とても大きくなり、言い方もたくさんあります。ただし、高い次元では極めて簡単で、三文字でこの特性を概括することができます。それはすなわち真・善・忍で、真善美ではなく真・善・忍なのです。

この特性はもちろんこれほど簡単なものではなく、多くのものに分化し、次元が低くなるほど複雑になり、膨大で煩雑になります。高い次元では三文字で概括され、すなわち「真・善・忍」なのです。空気中のすべての微粒子、すべての物質の最もミクロな粒子、土、石、鉄、木のかげら、さらにプラスチックを含めて、あらゆる物質の中、そして空気の中にもこの特性が存在するのです。常人はその存在を感じられません。常人は常人という次元にあるので、感じることはできないのです。ですから、この常人という次元を抜け出せば、その存在を感じることはできます。言い換えれば、超常の方法で病気を治そうとしても、その要求に従わず、その超常の状態での要求を満たすことができなければ、病気を治すことはできません。功を伸ばそうと思っても、その超常の理で自らを要求しなければ、つまり常人という次元を超える理で要求しなければ、永遠に功を伸ばすことはできません。

では、なぜ一部の道德水準の良くない人たちでも、功を持っているのでしょうか？一つは、その人自身の根基がもたらしたもので、道德水準が非常に低いため、自分の根基を消耗しているのです。消耗しきってしまえば、何も残らなくなります。それまでは、少しは残っています。もう一つは、憑き物がある人もいます。それは魔なので、この魔がある特定の時期、特定のとても低い状態で存在することは許されており、存在させる目的があるのです。魔がなければ人間に病気がなく、魔がなければ難もありません。人間には難があるべきで、病気もあるべきです。なぜなら人間自身が造ったものだからです。言い方を変えれば、その魔も人間自身が造ったものです。以前、人を騙したり、悪事を働いたり、殺生をしたことがあれば、それを返す必要があり、返さなければならぬのです。この宇宙には真・善・忍から派生した「失わなければ得られず」という理があり、得れば失わなければならず、借りは返さなければならぬのです。自ら失わなければ、強制的に失わせられることになります。この理が存在しているので、魔難があるのです。

先ほど、私は真・善・忍について説きました。佛家の修煉は、この真・善・忍の善に重点を置いて悟るものですが、真もあり、忍もありますが、善に重点を置いて修煉しているのです。善を修めれば慈悲心が生じます。慈悲心が生じれば、誰もが苦しんでいると見て、衆生をあまねく済度するという願望が起こります。この法は裾野を広

げればとても大きいものになり、衆生をあまねく済度するために、多くの人に伝わらなければならず、このように八万四千の法門が生まれました。道家は真に重点を置いて悟るもので、主に真を修めますが、善も、忍もあり、主に真に重きを置いています。ですから、道家は真実のことを話し、嘘偽りのないことを行い、真人になり、真を修め性を養い、返本帰真して最後に真人になります。真に重点を置いて修めています。真に重点を置いて修めているので、衆生をあまねく済度するという願望を持たず、道家では一人の弟子にだけ本当のものを伝えるのです。道教は近代に形成した一種の改良された宗教です。それまでの長い間、各期の史前文化に道教はありませんでした。ですから、道家は長い間ずっと、一人の弟子に伝えていました。一人だけに伝えるので、僅かな人にしか伝わらなかったのです。道家の法は下の次元で広まったとき、三千六百の法門が生まれました。比べてみれば、佛家は八万四千の法門があり、はるかに多いのです。

真・善・忍は善悪を量る唯一の基準です。この特性に同化すれば、功を伸ばすことができますが、同化できなければ、永遠に功は伸びないのです。このことはすでに説きましたが、修煉者なのか、常人なのか、この理で極めて簡単にまとめることができます。例えば、良い人と悪い人、そして修煉者をどのように区別するのでしょうか？この宇宙の特性に順応できる人が良い人であり、間違いなく良い人です。この宇宙の特性に背く人は本当の悪い人です。ある人は職場で良くない人だと言われ、一生苦を嘗め、誰からも侮られ、あるいはいじめられているかもしれません。あなたに教えませんが、その人は必ずしも良くない人とは限りません。一方、あなたは職場で皆に誉められ、何でも要領よくできますが、あなたは良い人であるとは限りません。宇宙の理こそ良し悪しを量る唯一の基準なのです。ですから、一人の修煉者としては、この宇宙の特性に同化できれば、すなわち得道した者であり、これほど簡単な理なのです。

人の功はまったく煉によって得るものではありません。みな気功を練習し、多くの努力を払い、朝早くから夜遅くまで練習しており、それで功が伸びると思っていますが、実際は少しも伸びていません。私のこの話を聞いて、多くの人が「あなたも人に煉功を教えているのではありませんか？ あなたは人に何を教えているのですか？」と驚くでしょう。皆さんも知っているように、「修煉」という二つの文字があります。

人々はその煉を重んじ、修を重んぜず、修という文字は煉に付けた修辭だと思っています。皆さんに言うておきますが、修が先で煉が後であり、修こそ第一に重要なのです。もしあなたが心性の修煉を重視せず、徳を重んじなければ、あなたには何のエネルギーもないのです！ あなたが心性の修煉を重んじなければ、まったく功などあるはずがないのです！ 本当のエネルギーはつまり功であり、次元の高さ、功力の強さを決めるものです。人の功の高さ、または佛教の中で言う果位の高さに関するその功は完全に修によってできたものです。僧侶が煉功していないのに、功が伸びるのはなぜでしょうか？ つまり修めているからなのです。

それでは、修とこの煉とはどんな関係にあるのでしょうか？ 後で我々が何を煉っているのかについて話します。修と煉の関係はどういうものなのでしょうか？ なぜ我々は修によって功を伸ばすことができるのでしょうか？ 「あなたは心性を修めることを言っていますが、それは人の考え、概念上、意識形態の中のことでないか、我々の言う煉った功は物質的なものではありませんか？ それらのもの間にはどんな関係があるのでしょうか？」と知っている人がいるかもしれません。皆さんに教えますが、理は高次元になると、低次元での見方で認識してはいけません。常人は常人の中にあつて常人のことを語りますが、はっきりと説明することができません。しかし常人を超えた立場から常人のことを見れば一目瞭然です。思想界や理論界では、物質が第一か、はたまた精神が第一かという問題について長い間議論しており、いつも物質と精神を分けて議論し、認識しています。私に言わせればそれは一つのもので、同一のもので、最も簡単な例を挙げてみます。今の人体科学も現代科学も人の考え、人の想像で生じたものは意念エネルギーであり、人間が発した意念はすなわち一種の物質であると認識しています。今ではこのことは広く認識されています。それが一種の物質であるとすれば、それは人の考えや精神ではありませんか？ あなたが思っている考えもそうではないのですか？ とすれば一つのものでありませんか？ これは分かりやすい例としてあげてみました。

先ほど、宇宙にこのような物質が存在し、同時にこのような特性も存在し、それは同じ性質で、同じものであると話しました。この特性に同化しなければ、修煉しても永遠に向上することができません。どういうことでしょうか？ 簡単な例を挙げまし

よう。この宇宙にある膨大な物質、各種の物質にこの特性が存在し、宇宙の中で均衡と制約の作用を働いています。人は常人社会にあつて生々世々で数知れぬ悪事を働き、私に言わせれば業を積み重ねてここまで来てしまったので、誰しも限りない業を抱えているのです。たとえば、瓶の中に汚いものをいっぱい入れて蓋をきつく閉め、その汚いものを出さなければ、ドブと水の中に入れたとたん底まで沈みます。少し出せば少し浮き上がります。もう少し出せばもう少し浮き上がり、出せば出すほど浮き上がってきます。汚いものをすべて出しきって蓋を閉め、水に入れば、強く押えても沈むことはありません。その位置に浮かんでいきます。そこがそれのあるべき位置だからです。私がこの例を通じて言いたいのは、人間は例外なく常人社会で良くないことをしているため、心が汚され、考えも汚されて、大きな業を抱えているのです。これらを取り去らなければ、心性が良くならなければ、この良くないものを造り続け、時々刻々造るのです。ですから心を良くし、その上、これらの物質、つまり良くないものを取り去り、常人の中で修煉するとき、苦を嘗め、筋骨を勞し、心志を苦しめることによって、初めて昇華し向上することができるのです。私が説いているこのことは、修めることによって向上するということで、あなたがその心を修めなければ、宇宙の特性に制約され、向上することができないのです。この功がどのように伸びるのかをさらに詳しく語ることもできます。

人間のことに言及すると、実は各空間にも人がおり、すべての空間に存在しています。時空の違いによって、身体が存在形式の違いもとても大きいのです。ある特殊な空間では私たちの身体の周囲に一つの場があり、その場の中に二種類の物質が存在しています。一つは徳です。徳は一塊一塊の白い物質です。徳の多い人にはその密度がとても高いのです。以前人々は、徳はイデオロギー的なものとして認識し、一種の思想境地だと言っていました。皆さんに教えますが、徳は一種の物質であり、完全に物質的な存在なのです。もう一つのものも同じ場に存在し、それは業力と言ひ、黒いものです。徳は善いことを行なったり、人にいじめられたり、苦を味わったりして、または苦しい目に遭うことによって得るものです。そして黒い色の業力は自分が悪事を働くことによって産み出されるのです。昔の人は根基の良し悪しを言うとき、この二つの物質の割合を見るのです。この割合はその人が常人社会で、修煉する人が言う根基の良し悪しを決める主な一面です。ただし常人の肉眼で見ることはできません。常

人は迷いの中におり、迷いの中から戻って行かなければならないのです。なぜなら、自ら落ちてここまで来てしまったのですから、何も見えない状況の中で元に戻るよう
に修煉しなければなりません。あなたに真相を見られてはならず、真相を見てしまえ
ば修煉できなくなります。悟りということがなくなってしまうわけで、修煉すること
もなくなってしまうからです。真相が見えたら、修煉をしない人がいるのでしょうか？
なぜ佛はいつまでもその次元に留まり、上に行けないのでしょうか？ 佛はす
べてを知っており、心性の修煉という問題は存在しないからです。迷いの中にいなけ
れば修煉はできないのです。自分がはっきり見えれば、初めてしっかり修煉できると
主張する人もいますが、もしはっきり見えていれば修煉できなくなります。さらに、
見えれば信じるが、見えなければ信じないと言っている人もいますが、我々はこうい
う人は悟性が良くないと思っています。

先ほど話しましたが、功は本当のところ人が修めることによってできたものです。
先ほども徳という場は人の身体の周囲に存在していると話しました。徳が多ければ功
を高く伸ばすことができ、徳が多くなければ、もちろん、苦を味わうことによって、
黒い物質を白い物質に転化することもできます。それは消えてなくなることはなく、
この物質は不滅なのです。つまり人間が修煉する時、その人の空間場の範囲内の徳を
功に転化させています。本当の功力の大きさ、次元の高さを決める功は自分の徳が転
化してできたものです。どのように転化するのでしょうか？ 昔、修煉者の間に「修
は己にありて、功は師にあり」という言葉があります。(気功界で語られている言葉
ではありません) どういう意味でしょうか？ すなわち、その一門で修煉したいと
いう願望さえあれば、何かを修煉したいという願望があつて、ただそう願うだけで、
実際には師父がやってくれるのです。意念活動を言う人もいますが、この意念やあの
意念をもってしては、何の問題も解決できず、ただ一つの願望にしかすぎません。本
当にあなたのために、鼎を立て竈を設け、薬を採集し、丹を結び、あるいは周天の循
環を形成させ、脈を通じつぼを開くなど、すべては師父がすることです。常人の思惟
には何のエネルギーもなく、常人の手ではこういったことはまったくできません。

本当に功を伸ばし、これらのものを形成する機制は、精密機器に比べても遥かに精
密で、とても複雑で、あなたにできることではありません。「修は己にありて、功は

師にあり」という言葉は秘密に伝えられていたものであり、これまでは低い次元にあっては知り得ないことでした。ですから師父があなたの修煉が進み、心性も向上し、あなたに対する宇宙の特性の制約が小さくなったのを見て、功を伸ばしてあげるのです。そうなった時、師父があなたに一種の功を授けますが、我々はそれを、功を伸ばすことのできる機能と呼んでいます。人間の身体で徳を螺旋状に功に演化させ、螺旋状に上に伸びていくのです。それが頭上まで到達すると、頭上に徐々に一本の功柱が形成されます。あなたの功力と次元が絶えず向上していくにつれ、この功柱は絶えず伸びていき、これはすなわちあなたの次元の高さと功力の強さを決める功なのです。あなたが発するエネルギーはすべてここから由来しています。これは丹ではありません。丹については後で話します。本当の次元はここにあるのです。

皆さんも知っているように、佛教の中で説く果位はすなわち、あなたの功柱が到達した高さであり、修煉の次元で、到達する次元の高さであり、そこにあるのです。坐禅をしている時に元神が身体を離れ、上に上がって行った人がいますが、もっと上に上がったらと言うと、「だめです。もう上がれません。これ以上上がると、怖くて落ちてしまいます」と言うのです。どうして上がれないのでしょうか？ その人の功柱はそのくらいの高さで、それが彼の修煉の果位であり、彼は自分の功柱に乗って上に行ったのです。佛教の中で、修煉によって到達した高さはすなわちその人が将来落ち着くところだと言っています。功は完全に己の心性を修煉し、宇宙の特性に同化し、宇宙の特性があなたを制約しなくなり、そうなればあなたの功は伸びて、徳は功に演化されるわけです。これは修めることによって造り出されたものではありませんか？ この功はすべて人が心を修めることによって造り出したものです。

では動作は何を煉っているのでしょうか？ すなわち人体を改変し、初期には養生と呼ばれ、最後には長生と呼ばれ、さらに機能を加持する働きもあります。加持とは何でしょうか？ エネルギーでそれを強化するということです。さらに術類のものの演化、各種の生命体の演化もあり、とても複雑なのです。各種の功の形態の現れは、すべてエネルギーによって強化され、初めて現れるのであり、エネルギーがなければ語るに値しないものです。功が出たら、もう気を発することができず、気はないのです。そのとき発したのは一種の高エネルギー物質ですが、体内から発し出したという

感覚はあまりありません。これは私が説いた、高い次元で説いたものなのです。しかし、これまでこれらのことは天機と見なされ、語ってはいけないことだったのです。この度、私は講義の中でそれをすべて説いただけでなく、さらにより次元の高いことも説いています。目的は人が本当に修煉できるようにし、人に対して責任を持つためです。私も確かにこのように学習者を導いているため、勝手に天機を漏らし、無責任ででたらめなことをすることにはならないのです。確かにこのような効果を取めており、学習者の心性の向上はとても速く、大法も現在非常に速く発展し続けています。

法輪大法の講習会に参加してから、世界観まで一変し、これまで長く生きてきたのに、今日初めて何のために生きているのかが分かったとある学習者は言いました。すべて学習者が話したことです。つまり皆さんに言いたいのは、本当の修煉についてこれまで誰も語らなかったということです。信じられないのであれば古書を紐解いて、『道德経』あるいは佛教の経典を見てください。今まで本当の修煉については、人の悟りに頼っていて、語る人はいませんでしたが、私は今日それを語りました。人類はここまできてしまっているのです、昔のように語っても聞かなくなり、信じようとせず、それが説教であり、現実味がない話だと思っています。ただしどれほど語ったとしても、やはり悟りの問題はあります。というのも結局のところ、あなたには見えず、あるいは見えてもはっきりとは見えないので、迷いの中で修めなければなりません。そういった問題が存在します。今私は功がどのように伸びてきたのかについて話しました。昔の和尚は煉功しませんでしたでしたが、功は伸びました。本当の次元の高さ、功力の強さを決める功はまったく煉によってできるものではありません。

それでは、動作は何を煉るのでしょうか？ 動作は本当のところ、私が今話した通り、人の本体を変えています。しかし、動作を強化するエネルギーがなければ、変えることはできません。あなたの身体の分子細胞を高エネルギー物質で徐々に充実させれば、長寿という目的に達することができます。その功がなく、エネルギーがなければどうやって加持するのですか？ 机上の空論となり、意味はありません。皆さんも知っているように、多くの機能は師が伝えたものを除けば、人体が持っている機能に他ならず、誰もが持っているもので、何の働きもしていません。寝ていて夢を見たのですが、次の日その通りの事が起こったという人がいます。また、将来何かが起こる

だろうと予見したら、何日か経ってその通りの事が起こったという人がいます。何かをした時に、「あれ、これは以前経験したことがある」と感じるのですが、実際にはその人の一生のうちにそんな経験はなかったと言っている人もいます。これはどういふことでしょうか？ 本当のところ、いずれも功能の現れで、早まって将来に行ったり、または過去に行ったりしたということです。しかしその功能はうっすらとしていて、何ものでもなく、エネルギーがなければ役に立たず、先ほど述べたような作用があるだけです。一旦、エネルギーでそれを充実させれば、それを功能の加持と言います。功力を用いてそれをさらに強化すれば、それは大変強力なものとなり、使えるようになり、作用のあるものとなります。この心を修めなければ、何を得ようと思っても、何も得られません。

自分が法輪大法の師父だと自称する学習者がいます。多くの古い学習者はみな知っていますが、もし誰かに自分を師父と呼ばれたら、驚いてしまいます。師と呼ばれたら恐れ多く、師はただ一人、李先生だけが師父で、私たちはすべて弟子だと言うのです。自分を敢えて師と称する者は、一に名を求める心が邪に働いているためであり、二に法を乱す企みがあるからです。浩瀚な宇宙で、無数の佛、道、神、異なる次元の主、天神がすべてこの法を学んでいるのに、誰が敢えて己を師父と称するのでしょうか？ 心を修めず、徳を重んじなければ、あなたがどの法門で修煉しようとしても、それはあり得るのでしょうか？ 正法の修煉は徳を重んじます。では、なぜ動物の憑き物などのでたらめなものに功があるのでしょうか？ 低い次元においては少しの靈気を持つことが許されており、低い次元で人が業を返すことに利用されています。人がこの病気にかかったり、その難に遭ったりしますが、すべては自分が作った借りであり、自分が招いたものなのです。

話は少しレベルが高いかもしれませんが。理解できない人もいるでしょう。実は、皆さんに一つとても簡単な理を説きましょう。修煉界では人の元神は不滅であると説いていますが、人の元神は間違いなく不滅なのです。人は死んでも、実はまったく死んでおらず、私から見れば死んではいません。皆さん考えてみてください。人間の身体の細胞は無数の分子で構成されているのではありませんか？ そして分子は無数の原子によって構成されているのではありませんか？ 原子は原子核、電子、中性子に

よって構成されたものではありませんか？　そこでさらに掘り下げていけば、原子を構成するものにクォーク、中性微子があります。現在、科学はここまでしか認識できていませんが、実際のところ物質の本源物質からはまだ程遠いのです。つまり、人間の身体にそれらのミクロな物質が存在しているのです。皆さん考えてみてください。人が息を引き取った時、どうして身体の死によって、原子核がすべて存在しなくなるのでしょうか？　原子、中性子、電子はすべて存在しなくなるのですか？　そんなことがありますか？　原子核の分裂には強大な熱量および重量の衝撃によって、やっと分裂できるのであって、常人の普通の力量ではまったく分裂させることができません。遺体焼却炉の火で人間の身体の原子核を分裂させることができるのでしょうか？　爆発させることができるのでしょうか？　もしその火で本当に身体にある原子核を爆発させることができるならば、一人の身体にある原子成分だけで一部の都市を壊滅できます。そうではありませんか？　私たちは生命がまったく消滅していないことに気付きました。人の死はただ、今の、私たちのこの物質空間で見たこの形体が減びたに過ぎず、その他の空間に存在する身体はいずれも死んでいません。

私が言っているこの空間を理解するのはさほど難しいことではなく、現代科学でも四次元空間を認識しており、十次元までであるという説もあります。旧ソ連のある科学者が、もし宇宙が大爆発によって形成されたとすれば、その一瞬に一つの時空だけを作り出したはずはなく、二十数個の時空が同時に存在しているはずだと考えています。彼は私たちのこの物質空間、この時間、この時空が存在すると同時に、他の時空も存在していることをすでに明確に指摘しました。多くの科学者もこの問題を研究し、この問題を議論しています。もちろん、この宇宙空間の存在形式は極めて複雑です。最も簡単な空間形式について話します。私たち人類はどの空間で生存しているのでしょうか？　知っての通り、私たち人類が見ることのできる最大の物質は星であり、星が銀河系、各星系を組成しています。私たち人類が接触できる最小の物質は分子です。人間は分子と星との間のこの空間で生活しており、それがとても広々としたもので、不思議なほど広いと感じています。それでは皆さん考えてみてください。分子と原子の間に存在するその空間はどんな様子でしょうか？　私に言わせればそれとても広く、非常に大きいのです。もちろん常人の理論から、常人の概念で物質世界を認識する考え方でそれを認識してはいけません。その空間に入って認識すれば、それも極

めて広い空間であることが分かるでしょう。

では原子とクォークの間はどうなっているのでしょうか？ クォークと中性微子の間はどうなっているのでしょうか？ さらに極めてマイクロなところはどうかしているのでしょうか？ 釈迦牟尼は一粒の砂の中に三千大千世界があると言いました。彼が言う三千大千世界の学説とは、銀河系の中に三千個の私たち人類と同じ智慧のある生命の星が存在しています。一粒の砂の中に三千大千世界があると言うのですが、仮にそれが真実であるとすれば、皆さん考えてみてください。一粒の砂の中をマイクロで見れば銀河系と同じように繁栄しており、人類社会と同じような人間が存在しているというのです。では皆さんさらに下へ追っていけば、その砂の中に、また川や砂があるのではありませんか？ その砂の中の砂の中に三千大千世界があるのではありませんか？ ではその砂の中の砂の中にさらに三千大千世界があるのではありませんか？ さらに下へ追って行っても、釈迦牟尼は尽きることがないということに気付いたのです。と言うのも、人間は分子で構成されたこの目を使わないで物を見れば、初めて宇宙の真相を見ることが出来るからです。到達した次元が高くなればなるほど、よりマイクロなものが見え、よりマクロなものが見えるのです。釈迦牟尼も最終まで見えておらず、宇宙が最終的にどれほど大きいかも見えませんでした。ですから晩年の最後の時、彼は「其の大は外なく」、どれほど大きいかを知らず、「其の小は内なし」、どれほど小さいか最後まで見えなかった、という言葉を残しました。釈迦牟尼の説いたことと現代物理学上の認識は、何も抵触するところはなく、理に適っています。先ほど理論的に解釈できると話しましたが、これは私の認識であり、私が説いたことです。人間が息を引き取った時、原子核がすべてなくなるとどうして言えるのですか？ 遺体焼却炉の火が核分裂を起こせるとでも言うのですか？ できるはずがありません。ですから人の肉体は死んでも、その生命が死ぬことはありません。物質が不滅であることは正しい説であり、他の空間では物質も不滅なのです。

現在の科学者は、現在の人類が、真空状態では何の物質もないという認識に至ったと思っています。実はこれは人類の現有科学がそこまでの認識しかないのです。私に言わせれば、真空の中にも物質があり、実は真空そのものも物質なのです。現在さらにマイクロ的なものは見えないのですが、実は真空は生命の本源となるマイクロ的な物質

から程遠いのです。物質の最もミクロ的な物質とは何でしょうか？ 本源物質とは何でしょうか？ 私に言わせれば、現在の科学者は現在の研究方法では永遠に認識することができません。というのも、現在進められている西洋科学は最も遅いものだからです。人類は最も不完全な発展方法を選択してしまったのです。中国古代の科学の発展は私に言わせれば、比較的正確で、直接人体、生命、宇宙に向き合って研究していたのです。皆さんも知っているように、宇宙人の空飛ぶ円盤はいずこともなく現れ、いずこともなく去って行きますが、速度は極めて速く、とても不思議で、円盤も大きくなったり小さくなったりします。なぜこれができるのでしょうか？ すなわちその科学技術の研究と発展の方法が違うからです。円盤は別の空間を移動できます。時空の違いがあるため、瞬時にやって来ることも、去って行くこともできるのです。

先ほど功について話したとき、この問題について言及しましたが、実は私たちが手を動かして煉った功は、術類のものにすぎず、機能を加持し身体を改変し、長生きすることができます。しかしエネルギー、次元の高低を決める功がなければ、長生きすることもできません。逆に最も低い次元で皆さんに話しますが、心性の修煉を重視せず、徳を重んじなければ、病氣も治りません。体操をすれば病氣が治るのですか？ 治りません。気功は体操ではなく、それは超常の手段で人を改変させているので、必ず超常の理で自分に要求しなければなりません。練功の時はとても敬虔ですが、ひとたびそこを離れるとそうではなくなる人がいます。社会で勝手気ままなことをして、個人の僅かばかりの利益を巡って互いに争い、場合によっては憂さを晴らすために闘ったりしますが、これで病氣が治るといえるのですか？ 絶対に治りません。私は今、なぜ功が伸びないかについて話しましたが、実はこれが原因の一つです。

功が伸びないもう一つの原因があります。病氣が治らず、功も伸びないのは、高次元の法を知らないからです。高次元の理を知らなければ、修煉のしようがないのです。これほどの長い年月、人々は高い次元へ修煉しようと思っていますが、鼎を立て竈を設け、薬を採集し丹を煉り、脈を通し、大小周天など、あなたが一生練ってもその次元を超えることはできません。気を練ることは最終目的ではなく、たいしたことでもなく、気を練る最終目的は身体を浄化し、高次元での修煉の基礎を作るためです。同時に気を練る次元で、丹道の方法をとっていれば、丹を形成し、つぼを開き、数本の

脈が通じます。それも低い次元で基礎を作りますが、煉功とは見なさず、少しだけ基礎作りをして、身体を浄化するに過ぎません。これが気を練ることの目的なのです。気を身体いっぱい貯めており、大変良いことだと思ふ人がいます。私に言わせれば、あなたはただの風船で、それを功だと思つていますが、まったく功ではありません。気を発して人の病気を治すというのは、まったく間違つた認識です。気がどうして病気を治せると言うのですか？ 皆さん冷静に考えてみてください。あなたの身体に気があり、相手の身体にも気があり、常人と常人の間はすべて気なのです。ただ、あなたの労宮穴が開いて、あるいはどこかのつぼが開いたので、気を発したり収めたりできますが、それも気に過ぎないのではありませんか？ 同等の次元の物体の間には制約作用はありません。あなたにも気があり、相手にも気がありますが、あなたが相手に気を発して病気を治せると言うのですか？ 下手をすれば相手の気にやられるかもしれません。そうではありませんか？ この次元を超えたものだけが、低い次元のものを制約できるのであり、その功は本当にそのような作用を働くことができるのです。

数年前、多くの気功師は気功を普及させるために出てきたのですが、人々に誤つた認識を与えてしまいました。中にはまったく功がないのに、功を発している人もいます。なぜ功が出せているように見えたのでしょうか？ 気功の出現は天象がもたらしたのですが、多くの師父は当事者にも知らせず、その人に管を繋いで功を発するとき、師父が功を与えるようにしたのです。こういった偽気功師はまるで水道の蛇口のようなものです。煉功したこともなく、功もないのですが、功を発するとき蛇口が開いたように、他の空間から与えられています。発しない時は他の空間で蛇口が閉じられたように、彼自身に功はありません。彼に功を与える目的は、彼が修煉して良い人になり、良いことを行い、自分を高め、自分の能力を開発させるためだったのです。複雑な人間社会にあつて、自分で己の心をよく修め、向上するのです。しかし多くの気功師はこれを理解できず、何かをするためにこの功を与えられたと勘違いし、どこからきたのかも知らなかったのですが、外からきたことだけは分かっています。それを金儲けや気功師として有名になるためだと思ひ込んでいました。現在そういった人はほとんど残っていませんが、残つた人の大部分は憑き物のある人です。人にとってそれは恐るべきことで、自分は気功師として名声が得られますが、数年も経てば、植

物人間のようになり、身体の精華はすべて持ち去られてしまいます。というのは魔も宇宙の理の隙に付け入って、失わないものは得られずなので、見返りもなしに功を与えるはずがなく、あなたはたくさん金儲けをし、有名になったので魔もあなたのものを取らなければなりません。そうではありませんか？ ですから、魔はあなたのものを取り、とても理に適っているのです。憑き物は実はその人が自ら招いたものです。人の病気を治したら自分の体があちこち悪くなった人がいますが、自ら病気を招いてしまったのです。

では丹とは何でしょうか？ 丹や丹田の気で何かができると思っている人がいます。甚だしきに至っては、丹田の気で何かをすることが気功であるという間違った認識もあります。私に言わせればこれは気功を踏みにじっています。気功は博大で奥深く、気功自体は宇宙の大法に照らして修煉するものです。あなたが恍惚として丹田の気を引き上げてから何かをすれば、それが気功だというのはならば、恍惚として丹田の気を引き上げてからトイレに行くのは何なのですか？ それは気功を踏みにじるものではありませんか？ このように認識してはいけません。その内涵は非常に大きく、それほど簡単なものではありません。人間の丹は、私に言わせれば、実は一つの爆弾なのです。人間の修煉は最後に功が開く時、丹が爆発するのです。佛教では悟りを開くと言い、その瞬間に爆発します。それによって自分の百脈を開き、身体にあるすべてのつぼを開き、命門を開いて機能を放ちます。天目もあなたのいる次元の最高点で開き、あなたがいる次元での宇宙の真相が見えるようになり、こういう働きがあるわけです。それはすなわち一つの爆弾で、それ以外の働きは何もありません。修煉がよくできた和尚が死後に火葬された後、舍利が出てきたのを皆さんも見たかと思いますが、つまり和尚が圓寂の数日前に、丹を炸裂させるのです。パーンという音と共に炸裂したら、和尚はすべて分かるようになりましたが、常人には言わないので、誰も知らず、誰も感じることはできません。丹が炸裂すると、この空間では石と同じようなものになります。私たちは丹を修めません。なぜ丹を修めないのでしょうか？ 我々は、丹は動かないもので、エネルギーを蓄えるということのほかには大した働きはないと見ているからです。和尚の死後、火葬で現れた舍利は光沢があり、とても硬く、エネルギーがありますが、それがどんな物質なのかは測定できないのです。それは別の空間で採集した物質と、徳が功に演化して成した物質から構成されたものですから、

科学者は現在それを識別できません。それは私たち常人社会の物質ではありません。人によっては無理やりに、あるいはでたらめに解釈し、それを歯とか、骨とか言っています。それはでたらめな解釈ではないでしょうか？ 常人の火葬からではなぜ現れないのでしょうか？ なぜ和尚や修煉した人にだけ現れるのでしょうか？

先ほど、本当に高い次元へ修煉するための道理について話しましたが、どの法門、どの流派であろうと変わるものではありません。そこで、山奥で修煉している老道士、あるいは佛家の方法に従って閉じこもって修煉している人たち、あなたはそのような人たちを拜んだことがあるかもしれませんが、彼らはこの真・善・忍に基づいて修めていないのに、修煉がどのようにできたのかと、考える人がいるかもしれません。では彼らはどのように修めているか話しましょう。彼らはとても苦しいのです。長年修煉しても、僅かな功しか得られません。しかし彼らは山奥で修煉し、常人社会を避けているので、その功に鍵がかかっていません。それに対し、常人の中で修煉する場合、功に鍵がかかっており、漸悟状態で修煉する場合でも、一部、または半分に鍵がかかるのです。ですから、たいした能力は現れません。次元がとても高くなっても、それを発揮することはできません。しかし山奥にあって、常人のこの世俗の中に入り込まず、常人の中の事に干渉しなければ、開放されたまま修めており、鍵がかかっていません。少し功があれば、大きな能力があるように見えます。というのは開放されているからです。本当のところ彼らの修煉は非常に苦しく、長い時間をかけても僅かな功しか伸びないのですが、彼らはそれを知りません。

私は八万四千法門があると言いましたが、その真ん中だけが大道修煉、大法修煉です。周辺のものは、衆生をあまねく済度し、様々な人がみな学びに来ることができます。ある人がその高さで悟りを開けば、彼はその高さまでしか修められず、それ以上に高まることはできません。自分の根基によってもたらされたもので、その高さまで到達したら悟りを開くのです。ある者はこの高さで悟りを開き（手で示して）、ある者はこの高さで悟りを開き、ある者はこの高さで悟りを開き、ある者はこの高さで悟りを開き、ある者はとても低いところで悟りを開きます。悟りを開いた人はその次元の理だけを見ることができ、より高いものは見ることができません。ですから、到達したそこまでの高さの理しか見えません。しかし彼も弟子を採っているのです、彼は自

分が見えた理を説きます。八万四千法門には、小法小道が非常に多く、しかも周辺の小道であるほど、こだわりが多くて複雑になります。真ん中の大道、大法に近づくほど修煉はより簡単になり、核心を掴んで修煉すればより速く進みます。我々の学習者の向上はとても速いのです。なぜ速いのでしょうか？ 一部の学習者の変化や功の伸びは、不思議なほど速いのです。法を得られなければ、一生かけても気という次元から抜け出せないでしょう。

あなたが修煉さえすれば、私は九回の講法の講習会であなたを抜け出させてあげます。我々の学習者は修煉の過程で次元の突破が非常に速いのです。多くの修道者が私に声をかけてきましたが、私は彼らに私の学習者の功は、あなたたちと比べていかがですかと尋ねたら、彼らは不可思議に感じているそうです。この功の伸びは確かに不可思議です。というのも我々は根本を掴み、人のその心を掴んで修めているので、これこそ肝要で、そのためとても速いのです。山奥で修行する人と一部の出家人は、長い歳月をかけて修行し、多くの苦を嘗め、その苦を嘗めることによって向上したと思っています。実はその長い歳月の中で、彼は常人の中で執着していたその心を除去したため、向上してきたのです。我々は現在、人のその心をねらって修め、あなたの執着心、嫉妬心、歓喜心、様々な心を掴んで修め、こういったものをすべて除去するので、とても速いのです。この問題についてはこれくらいにしておきましょう。

まだ多くの方が法輪大法を学びたいと思っていますが、講習会に参加したことがありません。皆さんに簡単に法輪大法を紹介しましょう。私のこの法輪大法は一種の性命双修の功法です。真の性命双修の功法にはこのような特徴があり、つまり人の身体を非常に速く変化させることができます。また、外観上も常人と大きく異なります。ですから法輪大法を学んでいる古くからの学習者、年長の人も含めて、皮膚のきめが細くなり、白い肌に赤みがさし、身体はとても丈夫になります。以前は歩く時も階段を上る時も疲れましたが、今は何階上っても息切れもせず、胸がバクバクすることもなく、疲れません。以前は少し歩くとすぐ駄目でしたが、今は自転車に乗っても誰かが後ろから押してくれているかのようです。私が話したこの状況ですが、ここに坐っている古くからの学習者の皆さんに聞きますが、この通りではありませんか？（一斉に：その通りです！）我々にとってこれは普遍的に存在する現象です。私がここ

で話しているのは個別の学習者の状況ではなく、とても普遍的なことです。真の性命双修の功法はここまで到達できるのです。外観上の変化が非常に大きく、多くの年長者は顔の皺が減ったり、消えたりしています。同時に生理機能の変化もとても大きいのです。時間の関係で、その点は割愛します。

また、法輪修煉大法は最も独特な功法です。歴史上誰も伝えたことはなく、もちろんこの話は少し言い過ぎたかもしれませんが、すなわち今回の人類の文明時期に伝えられたことはありません。先史時代の相当長い時期に、人類社会で一つの主要な衆生済度の方法として人を済度しましたが、今回の人類の文明時期に伝えられたことはありません。我々の大法は、現在のこの気功やあの気功の修煉方法の理論とはまったく異なります。現在、人類が修煉しているものは基本的に丹道を歩むものです。丹道を歩むとは何でしょうか？ 言い換えれば丹を結ぶということです。寺の和尚は煉功を講じませんが、丹を結んでいます。火葬後の舍利はすなわちその丹が炸裂してできたものです。道士も同じで、民間で伝説とされている一部の修煉方法も同じく、基本的に丹道を歩みます。皆さんは密教を知っていると思いますが、それは丹道を歩まないように見えますが、実はそれも丹道を歩み、もっとはっきり言えばそれもやはり丹道を歩んでいます。そして密教の輪は意念に制御されて回転しますが、意念が制御しなければ回転しません。しかもその輪は実在するものではありませんが、我々のこの法輪は実在するものです。

私の功法のこの法輪は、当然のことながらあなた自身で修煉しても作り出すことは困難です。我々が多くの代にわたってやっと形成したもので、歴代、一人だけに伝え、他の人に伝えることはありませんでした。現在、この特殊な歴史の環境下で、私はそれを人に伝えています。ある学習者は、先生、私に法輪を一つくださいと言いました。ある学習者はメモに、先生、私は講習会に参加したことはありませんが、お金を払いますから、学費を払いますから、法輪をくださいと書きました。つまり、法輪を買うと言っているのです。皆さんに言っておきますが、この法輪は極めて貴重であり、どんな価値をもって測ることはできません。縁のない人は数億の金を払っても買えないし、縁のある人は一銭の金も使わず手に入ります。今日、このものを持ち出したのは、人にまだ最後にほんの少しの佛性があるのを見ているからです。実際、伝え出し

た効果は比較的良かったのです。それは極めて貴重なもので、あなたが修煉者であつて、初めて得られるのです。一旦この法輪をあなたに植え付けたら、それは二十四時間止まることなく、ずっとこのように回転します。時計回りに回転もしますし、逆時計回りにも回転します。時計回りに回転する時は、自動的に宇宙からエネルギーを吸収し、エネルギーを演化し、演化したエネルギーはあなたの身体に必要なすべてのものを供給します。同時にそれが逆時計回りする時はエネルギーを放出し、放出したエネルギーはあなたの身体の演化で生じた廃棄物質を排出して、また新たなエネルギー物質を取り入れます。それは目的を持って選択できる霊体です。あなたが自分で気をすくい上げて灌頂しても、気を採っても、そこまで到達できるはずがありません。あなたにはそれほどの力がないので、できません。ですからそれは選択することができ、霊体なので、人間の及ぶものではありません。

この法輪は植え付けてから、二十四時間止まることなく、いつまでも回転し、いつまでもあなたを演化しています。つまり「法が人を煉る」という形式を形成します。他の功法では、煉功して功が初めて伸びるので、煉功時間を増やし、多く煉らなければならず、煉らなければ功は伸びません。しかし法輪大法では、あなたが煉らなくても功が伸びます。煉ることはその機を強化して、私があなたに植え付けた機制と法輪を強化することになり、それを加持し強化するという、あなたはそのような作用を働いたにすぎません。真の修煉は、この法全体の作用であり、法輪の働きだけでなく、外側に植え付けてあげた機制も運転し法輪も回転しており、体の中の全ての機制も自動的に煉っています。

我々は「修」を言っていますが、真の修煉は修を主とし、煉はもう一つの要素です。心性の修煉を重んじ、自らを真の修煉者として常人社会での行為を律していけば、あなたの功は上に伸びていきます。さらに毎日煉っている動作を加えれば、あなたは一通り、全面的に私の功法を煉ることになります。動作はとても簡単で、ただ五通りの功法ですが、マクロ的に幾千幾万のものを演化するように制御しているのです。この動作は何を煉っているのか、あの動作は何を煉っているのか、と気功師に尋ねる人がいます。一部の気功師は答えられません。なぜ答えられないのでしょうか？ 簡単には答えられないからです。人体は幾千幾万以上のものを修煉して、一つ一つの動作も

マクロ的にとても多くのものを演化するように制御しているのです。それは何を煉っているのですか？ あなたにどう言えばよいのですか？ 多くのものを煉っているのです。動作は簡単に見えますが、複雑だからよいとは限らず、大道は至簡至易です。小道小法の動作はとても複雑ですが、修煉は動作自身の複雑さの程度によるものではなく、この一門が他の空間であなたに植え付けたものによるものです。それが複雑かどうかによるものであり、動作自身は複雑ではありません。

一部の人がこう思うかもしれません。「あなたの言っていることはよく理解できず、丹を結ぶことができるのは、それはエネルギーなので、和尚を火葬する時に舍利が出て来ますが、これらは信じられます。それは物質的なものだからです。あなたの言う法輪がお腹の中で回るといことは信じられません。それはどうして生きているというのですか？ なぜ回転できるのですか？」 では私からあなたに反問しますが、この銀河系も宇宙も回っており、銀河系も運動しており、九個の惑星が太陽の周りを回り、私たちの地球も自転していますが、誰が押し回しているのでしょうか？ 誰が力を加えているのでしょうか？ あなたに教えますが、それらは一種の旋機の形式で存在しており、我々の法輪にも同じような旋機が存在しているのです。ですから自転して止まらないのです。ここにいる一部の人は講義をまだ聞いたことがありませんが、あなたに法輪が回転する感じを体験させましょう。皆さん片方の手を出して、掌を平らにし、力を抜いて、掌はできるだけ平らにしてください。では、今皆さん一人一人に一つ法輪を出して、掌の上で回して体験させます。回っていますか？（回っています！）二階の皆さん、回っていますか？（回っています！）結構です。これで皆さんに体験してもらいました。回っていると感じられない人もいますが、手が冷たくなったとか、熱くなったとか感じているはずですが、それはあなたの身体が帯びている業力場のせいで、冷たいと感じた人はだいたい身体が悪くなく、または手に業力があるからです。回転を感じたかどうかは別にして、熱いとか冷たいとかは感じたでしょう。当然多くの人が回転を感じられたはずですが。

この法輪大法は、このような功法なので、現代人が学び、煉功するのに比較的適しています。当然のことですが、法輪大法を伝え出して以来、社会に対し、人類の道徳水準の向上に対し、良い作用を果たしたことは事実によって証明されています。一人

の常人にとって、一人の人にとって、修煉しようと思えば、必ず心性を重んじて修煉してください。心性を重視して修煉すれば、常人社会の中で必ず良い人になれます。間違いなくこうなります。自分の功法も恍惚としながら長く煉功状態を保つことができると言う人がいます。私に言わせればそれは煉功ではなく、病気治療と健康保持をし、気を練る一つの状態にすぎず、それは煉功ではありません。また、たとえ本当の煉功であっても、試してみれば分かるのですが、恍惚とした状態でしっかり仕事ができますか？ 上司に与えられた仕事をきちんと完成することができますか？ あなたは個人で商売を営んでいても、会社を経営していても、社会に対して義務も果たしているのではありませんか？ オフィスでの仕事をするとしたら、恍惚とした状態で坐っていて、どうやって書類を作成するのでしょうか？ 恍惚とした状態であれば、ろくに仕事ができないばかりでなく、危険なことになるかもしれません！ 工場の労働者なら手を歯車に挟まれるかもしれません。高所作業なら落下事故になるかもしれません。それでは作業の安全性が問題になるのではありませんか？ 長期に煉功できるはずもありません。ただし我々の功では確かにこの問題を解決しました。宇宙の特性に同化して善い人になる、それは修煉者の基準です。我々の功の伸びはとても速いと、一部の学習者は知っています。我々の功法は小さなことにあまりこだわりません。大道修煉、大法修煉にはこだわりが少ないからです。我々はまたどの方向に向かって煉るとか、どの時間に煉るとかにもこだわりません。この法輪大法が煉っているものは比較的大きく、この歴史時期、今回の人類文明の時期には、これほど大きなものを煉るものはありませんでした。信じられなければ見てみてください。私がこの功法を伝え始める前、動物の動作を真似る功法があり、それらの名人、聖人、道人、さらには道、神、佛であっても、それらにはやはり限界がありました。

我々の法輪大法は宇宙の演化の原理に従って煉っています。法輪は宇宙の演化の原理に従って形成され、宇宙の最高特性、真・善・忍に従って修煉を指導しているのです。我々は最高のものに従って煉っていると言えます。これほど大きな法に従って煉っているのは、宇宙を煉っているのに等しいのです。我々はまた方位にもこだわりません。皆さん考えてみてください。この宇宙にはどこに方向がありますか？ 宇宙自身は運動しており、私たちの銀河系も運動しており、九個の惑星が太陽の周りを回り、地球も自転しています。どこに東西南北があるのでしょうか？ みなそれぞれ回って

いるのですから、方向の概念はまったくありません。方向の概念は現在、人類の角度、地球の角度から区分しているだけです。我々はこのような大きなものを煉っているの
で、宇宙を煉っているのに等しく、当然、方向の概念などはありません。ですから、
どの方向に向かって煉っても全方位に向かって煉ることに等しいのです。分かりやす
く言えば、同時に東西南北に向かって煉ることに等しいのです。ですから我々はまっ
たく方向にこだわりません。すべて回っていて、回転しているからです。

我々は時間にもこだわりません。なぜ時間にこだわらないのでしょうか？ 多くの
功法は子の刻に煉功したほうが良い、辰の刻に煉功したほうが良いなどと言います。
もちろん我々も子の刻は比較的良いと思いますが、しかし我々はそのような小さな時
間の範囲内に限られて煉るのではありません。この大きな宇宙において、地球上の子
の刻が良いとしても、他の空間では子の刻が良いとは限りません。ですから我々はこ
れにこだわりません。ただし子の刻には有利な条件があります。つまり、その時は比
較的静かで、夜が更けて静まると煉功に適しています。また辰の刻が煉功に良いと言
う人もいます。しかし我々には我々の道理があつて、時刻にこだわりません。ただし
我々は早起きして、皆さんが集まって一緒に煉功したり、あるいは夜集まって一緒に
煉功したりすることを推奨します。なぜでしょうか？ 皆さんが集まって煉功すれば、
問題があつても互いに切磋琢磨し、共に解決することができるからです。互いに検討
することで、皆で共に向上することに役立つからです。ですから我々が選択したのは、
集団煉功という形式です。仕事があつて朝と晩しか時間が取れない人は、朝と晩に煉
功をすればよいのです。本当のところ、あなたが煉功していなくても、常に功に煉ら
れています。あなたの煉功は、私があなたに植え付けたその機を強化しているのです。
我々は機に随って行なえばよいと言いますが、手や動作はその機を強化するにすぎま
せん。

我々はまた功を取めることにもこだわりません。こだわらないとは、功を取めると
いう概念がないからです。他の功法では、練功が終わると功を取め戻して、周囲に発
散したエネルギー場を取り戻し、功も止まります。我々にはこのような概念はありま
せん。我々は二十四時間煉っているの
で、取めるとか止めるとかいう概念はまった
くないので、功を取めることを行いません。煉功している時に電話がかかってくる

あるいは突然人が来てドアをノックしたりしたら、どうしたらいいのだろうと考える人がいるでしょう。その時は客を接待し、電話に出てもまったく問題はないのです。なぜでしょうか？ 煉功する時、周囲に一つの場が存在していますが、あなたの法輪には霊性があり、あなたが意識の中で何かしようとする時、法輪は煉功を中止することを知り、その瞬間に時計回りの方向に回転して、体外のその場を「さっ」と回収します。もし人為的にやれば、いくら気をすくい上げて灌頂してもこのような効果は得られません。我々の功法でそれができるのは、そのような機制があるからです。今私は皆さんに法輪大法の特徴を簡単に紹介しました。もちろんまだまだ多くあり、もっと良い特徴がありますが、系統的に教えないといけないため、これからの講義の中で伝えていきます。

次にもう一つの問題に言及したいと思います。つまり異なる階層の人がどのように煉功するかということです。過去にこういう言い方があるのを皆さんは知っているかもしれませんが、貧乏で何も持たず、財産を持たない人だけが修煉できると言われています。それぞれの宗教の人たちはそれぞれ自分の一門の理を説きます。佛教はいくら広く説かれていても、釈迦牟尼佛が実証し悟ったものを超えておらず、後世の人が伝えているものには、それを間違っ理解したものもあります。道家も太極の理を超えていません。誰一人この宇宙全体についてはっきり説いていません。すべての枠を超えて宇宙全体を説いてこそ、初めて宇宙の法、宇宙の特性、神、道、佛の根本が何かをはっきり説けるのです。今までは、すべて自分の一門について述べているにすぎません。ましてや道家にも多くの門派があり、佛家にも多くの門派があり、みんなが自分の門派の理を説いています。我々はすべての枠を超えて宇宙の真相を説き、現代科学と人体科学に結び付けて説いています。では我々は何の道理を説いているのでしょうか？ 皆さんは多分宗教で説かれたことを聞いたかもしれませんが、イエスもこう言っています。金持ちが天国へ行くのは駱駝が針の穴を通るより難しい、つまり金持ちが修煉するのは難しいということです。我々に言わせれば、確かに難しいのですが、金持ちは修煉できないということではありません。表面だけを見てはいけません。金持ちは金銭、財産を放棄するのが難しいのですが、我々は本質を見て、表面だけを見るのではなく、金銭や財物に執着する心を放下し、それを恬淡として、軽く見るとい

うことです。

異なる階層の人がどのように修煉するかについて、今から話します。皆さんに言っておきますが、世の中に人がいて、人が世に生きるのは、ただ一文字、情のためなのです！ 喜怒哀楽、あれをしたい、これをしたくない、あれを食べたい、これは食べたくない、誰が好き、誰が嫌い、家族の情、友情、愛情、親の情、一切の一切、人の一切はすべてこの情に由来するのです。この情はすべての執着心を生じさせるのです。情に影響される時、嫉妬心も生じます。人は情のために生きています。具体的に修煉する時、その心を取り除かなければならず、徐々に削り取り、なくなるまで削り取ればさらに良いことで、それは次元の現れだからです。つまり徐々にこういったものを淡々と、淡々とみて、こういった常人の執着する物を淡々としてみます。常人が最も執着するものはすなわち名と利なので、この二つのものを追求する人が最も修煉が難しいのです。名の追求には、地位、職位、権力の追求も含まれ、利の追求では、主に金銭と物質ですが、この二つのものを追求する人は最も修煉が難しいのです。難しいと言いますが、修煉できないとは言えません。金銭をすべて捨てなければ修煉できないのでしょうか？ 私に言わせればそんなことはありません。本当の修煉は、裕福かどうかによるものではなく、佛家の理で言えば、裕福とはあなた自身の福分が作り、自分が徳を持っているから作り出したものなので、あって然るべきです。ですから裕福は決して罪ではありません。

我々が説いているのは、あなたは自分の階層でいかに良い人になり、物、欲、名、利に淡々とするかのことです。家に億万の財産があっても、それを重く見ず、淡々として、さらにお金のことさえ関心をもたなければ、何の問題もありません。あなたの家にお金が溢れていて、ベッドでさえお金で支えているとしても、私に言わせれば問題ありません。修とはすなわち人の心を修めることで、物質の面で何かを取り去ろうというわけではありません。仮にあなたがどんなに高い官職についても、それを淡々と見て民のために勤め、民衆の幸せを計り、人のために思うのであれば、立派な官僚ではありませんか。当然、人類社会は複雑ですが、あなたが置かれている階層の中で、その関係を正しく保ち、法の要求に照らして事をなすのであれば、あなたは良い人、修煉者になることができます。

異なる階層のことを言えば、常人には常人のトラブルがあります。一般の職員にも、その間に利害の衝突があります。高い職位にある人たちの間、その階層の人との間にも葛藤とトラブルがあり、より高い職位にある人たちにも、その階層でのトラブルの状態が存在します。つまりあなたの置かれている階層の環境の中で、あなたは個人の利益の追求といったことに、いかに淡々としていられるかということです。いかに良い人になり、多くの良い事をし、人の為に良い事をし、いかに向上するか、どの階層にいても修煉できるのです。我々はすべての宗教、すべての門派の理を超えてこのことを説いています。物質の面であなたに何かを本当に失わせ、一文も持たない状況になってから、初めて修煉できるというのではなく、そうではありません。そういったものに恬淡としていられるかどうかということなのです。我々が修めているのは心そのものではありませんか？ その心がなくなればその目的に達するのではありませんか？ 人類社会に本当に何もなくなって、原始社会になってしまうなら、私はそれはおかしいと言います。そうではありませんか？ 人類はその発展方向に従って発展しているのであって、実質上こういうことなのです。

以前多くの方が私に、どうやって修煉するのかと尋ねました。当然、現在の社会はとても複雑なので、一部のことに對して具体的に解き明かすわけにはいかず、ただこの法に照らして行なうのです。あなたにすべて詳しく説いてしまえば、あなたが修煉して悟る部分はありません。具体的な問題については自分で悟り、自分で修煉すれば、初めて修煉となり、初めて向上できるのです。すべて説き明かせば、何もかも明らかになるので、それに照らして行なえば、あなたは向上することができないのです。人は本来迷いの中にあり、迷いの中で悟るのです。すべてを見てから修煉するとすれば、私に言わせればそれは悟りとは言えなくなるのです。覚者はなぜ修煉し難く、向上し難く、その次元にいつまでもいるのかと言えば、その環境では苦を嘗めることがないからです。そこではすべてが素晴らしく、迷いもなく、何を悟ると言うのですか？ しかし常人の中には迷いがあり、真相も見えず、真理も見えません。

人々はみな現実の利益の中で争い闘っています。もしそこに良い人が現れ、皆と違う見識を持ち、そういったものを争わず、名利に淡々としていれば、その人はとても

目立っているのではありませんか。常人の中でその人を見れば、たいしたことがないようですが、高い次元から見ると、その人は黄金のようにきらきらと輝いて見えるのです。昔、功の高い人は弟子を選ぶ時、弟子が師父を探すのではなく、逆に師父が弟子を探すと言っていたのもこの道理です。誰しもそのような人を選びたいのです。常人は常人の中で迷い、自分がしたことは良いことだと思っていますが、高い次元から見ればすべて反対で、人はすべて己のために生きており、私心があるのです。ですからあなたの執着するものは、私欲を満たしたいという心理にすぎず、修煉のためにはすべて捨て去らなければなりません。はっきり言えば、修煉はすなわち人の執着心を捨てることです。私の説いているのは根本のことです。修煉はすなわちあなたの様々な執着心を捨てることで、根本から言えば、修煉とはその心を修めることです。法輪大法の修煉は人心をまっすぐに指し、しかも我々は実際、肝心なところを指摘しているのです。

もう一つの問題を皆さんに話しておきましょう。なぜならここには古くからの学習者もおり、今日は総括の会でもあるからです。一部の人は大法を破壊しようとしていますが、ごく僅かであり、他の功派のようではありません。他の功派では、お金のために、功派と功派の間で争い闘い、功派の内部でも争い闘って、まったく心性のことを問わず、甚だしく混乱しています。我々の法輪大法のところは浄土だと私は敢えて言います。ここでは人と人との間でどういう心を持っているのでしょうか？ 皆さんはすべて互いに助け合っています。法輪大法の学習者が集まる時、どんな様子でしょうか？ 広州の講習会では、お金がない学習者に、皆さんが百元百元と持ち寄って彼を助けていたのです。他の功派では見ることはできないのですが、私たちのところではこのように互いに助け合うことはいくらでもあり、極めて極めて当たり前の現象です。これは浄土と言えるのではありませんか？ というのも我々はまっすぐ人の心を修め、心性の修煉を重視するので、必然的にこういった結果になるのです。ですから今後の修煉過程において、皆さんも心性の修煉に重きを置いてください。

同時にこの法をよく理解してください。つまりこの本、この法理を学んで理解することです。動作だけを懸命に煉ってはいけません。一日中動作ばかり煉っても、先生の説いたことをすべて忘れていれば、修煉できないと私は言います。何を持ってあな

たを指導すると言うのですか？ ですから皆さんは本を多く読み、法を学び本を読むことを煉功と同様に毎日怠らず、毎日読んでいけば、初めて良い人になるように導かれることになり、心性も高まり、功も伸びるのです。ひたすら動作を煉りたいと言って、一日中朝から晩まで、疲れ果てるまで煉ったとしてもその功は伸びません。法輪は自動的に回転しているとはいえ、あなたの煉功はその機を強化するだけで、法輪があなたのために功で演化したものをすべて用意して上へ運ぶ準備をしたとしても、宇宙の特性があなたを制約し伸ばさせないのなら、何の役に立つというのですか？ ですからあなたは必ず心性を向上させて、功は初めてぐんぐんと上へ伸びるのです。必ずこの問題を重視してください。

またある学習者はこのような質問、すなわち我々の学習者は将来どのように功を伝えるのかと尋ねました。このことについて皆さんに話してみましよう。まず一つの問題を話しましょう。学習者の中には講習会に参加したことがなく、自分で学び、自分で煉功する人は、煉功者の基準に照らして煉れば、私が自ら法輪と法身を授けなくても、あなたはすべて得られます。それには一つの原因があり、もし私の学習者があなたに教えるならば、その学習者に私の法身が必ずついているからです。皆さんも知っているように、これは迷信ではありません。法身は私の修煉の中で法によって構成された、私と同様の形象を持った生命体です。彼も同じ法と同じ大きな力量を持っており、それが法身です。私には無数の法身があり学習者を保護でき、すべての学習者は本当に修煉すれば保護が受けられます。そこであなたが学びたいと思い、学習者があなたに教える時、法身は自然にあなたの身体を調整し、自然に法輪や機制を授け、あなたに与えるべきものを与えます。ただし必ず真の修煉者でなければならず、そうであれば必ず得られます。その超常のものをあなたに授けた後、もしあなたを保護する人がいなければ、あなたは危険に晒されます。どうすればよいのでしょうか？ 私の法身があなたを保護し、このことを保証します。では今後あなたたちはどのように功を伝えるのでしょうか？ 私ははっきりと言いました。全国各地の輔導站と学習者は誰でも功を伝えてよいのです。ただしお金を取ってはならず、誰もお金を取ってはいいけません。輔導站でも費用を徴収してはいけません。無償で功を伝え、真の修煉は功德を積み、名利を求めず、そのように伝えるのです。もしあなたが本当にこのようにしようと思い、つまり法輪大法で金儲けを図るのなら、あなたには何もなくなり、私の

法身があなたに授けたものをすべて回収し、あなたにそれを使って法を破壊することをさせません。この問題について明確に話しました。ですから、あなたが功を伝えた人は法輪と機制を得られるかと、あなたが心配する必要はありません。同様に得られます。あなたが伝えれば私の法身はすぐ分かります。

ではその人に教える人がいなければ、本を読んで学べるのでしょうか？ 得ることはできるのでしょうか？ 同じように得られます。例えて言えば、釈迦牟尼佛にせよ、老子にせよ、あるいはその他の覚者であっても、この世を去って長い年月が経っても、その一門の人たちはずっと修めており、昔も確かに成就した人がいました。なぜでしょうか？ それは法身がいるからです。多くの学習者は見たかもしれませんが、私の写真、つまり本の中にある私の写真の眼が動いているようで、あるいは私の身体が動いているように見え、あるいは他のことを感じ取ることができ、師父の写真に法身がいると言う人がいます。写真にだけ法身がいるわけではなく、ここには新しい学習者もいるので、あまり高いことは語れません。皆さんに言うておきますが、あなたが学びさえすれば、本を読んでも、ビデオを見ても、録音を聴いても、同じように得られるのです。修めることをせず動作ばかり一生懸命して、その超常のものを得たいと言っても、これは絶対にありえません。本当に修煉して、初めてそれらを得ることができます。今私は多くの古くからの学習者に対してこういった問題を話したのですが、新しい学習者も聞いたら為になるのです。

もう一つの問題、つまり病気治療について話します。多くの人には考えがとても頑固で、固執しています。一部の西洋医でさえこう考えています。つまり功で病気を治せるのなら私たちの病院はいらないのではないかと？ つまり功で病気が治療できることを認めません。しかしこの考え方は理に叶わず理不尽です。では功で病気を治せるのでしょうか？

低い次元で修煉する人は、根本は治せないのですが、表面のところを治すことができます。もう少し高まれば、その病気を先送りして、後回しにすることができます。今は良くなったように感じさせますが、何年かするとまた発病したり、他の難に転化したり、親戚や友人の身に移したりといったことができ、彼はそのようなことができ

ます。本当にその病気を治そうとするならば、そういった能力を持った人でなければならず、つまり人の業を消すことができる人で、これは一般の人にできることではありません。必ずそういった能力を持った人が、しかも本当に修煉する人だけに対してそうすることができ、常人のために勝手にすることは絶対に許されないのです。その人が悪事を働いたのに償いをしなくてもよいことに等しいからです。

ここには理があります。つまり功は病気を治せるのです。長い年月の間に、どれほど多くの人々が自らの鍛錬を経て、あるいは修煉者によって病気を治されたか、皆の目にはっきりしていることで、誰もこの事実を否定できません。言い換えれば功は病気を治せるということです。高次元での修煉のものをもって低次元にいる人の病気を治してあげると、当然不思議な効果を現すのです。それから徳を重んじ始める患者もいて、ある人は常人社会においてとても良い人であれば、煉功の後にその病気は良くなります。しかし修煉は一種超常のものであり、そのため超常の理に従わなければならず、そのものを持ち出して広範囲に常人社会を攪乱してはならず、それは絶対に許されません。気功の病院を開いたり、診療所を作ったり、リハビリセンターを開いたりすると、その治療効果はがた落ちになり、きっとそうなります。

皆さんも知っているように、本当に功夫を持つ人はただ一回で病気を治せますが、あまり多くの業を消してはいけません。病気は基本的に一度で全快します。功を打ち出す時、いかなる手法にもこだわりません。何の手法があるというのですか？ 機能は身体のいかなる部位からも打ち出すことができ、功が打ち出されたら、病気は直ちに良くなります。もともといかなる手法もないのですが、偽気功師は人を騙すために治療の手法を作り出したのです。排出とか、泄とか、補い、一把抓、気鍼、電気鍼、光照法など、ともかくでたらめな手法を並べたてています。もともと修煉者の功はどう打ち出してもよいのです。あれこれの手法とか言っていますが、全然そんなことはなく、それは金儲けのために作り出したことです。本当の修煉は、実質上こういうことなのです。

しかし常人の病気は勝手に動かすわけにはいきません。一旦気功病院ができると、その治療効果はたちまちがた落ちになって駄目になります。超常のもので広範囲に常

人社会を勝手に干渉するわけにはいかず、常人は常人という次元にあり、最も低い次元の法に管理されているのです。では、高次元の法で常人の理、常人という次元の法に干渉するのは、許されることでしょうか？ それは宇宙の理を破壊し、常人の空間の理を破壊することに等しいのです。ですから本当に気功病院ができたとしても、その効果は、必ず常人の病院の治療効果と同じでなければなりません。それ故に、病院やリハビリセンターを作って、気功治療をやりだすと、治療には幾つかの過程が必要になります。気功治療には幾つかの治療過程を必要とするなんて、聞くだけで笑ってしまいます。ですから治療効果が駄目になり、場合によっては普通の病院治療に及ばないという問題が現れますが、それは超常のものだからです。

修煉の過程において慈悲心が生まれ、衆生が苦しむのを見て、自身はすでに三界を出ており、功が高ければ人を助けることも、限られた人にしてあげることは許されます。広範囲にわたってすることは許されません。修煉がとても高い次元に到達した時、多くの人の病気を一度に治すことができます。しかし修煉がその次元に到達した人は、病気を勝手に動かすことはできないという理がすでに分かっています。病業はすべて因縁関係があり、人はみな業を返しています。勝手に取り除いてあげたら、悪事を働いても業を返さなくてもよいことになります。こういう理があるのです。というわけで、気功の治療は、やはり現時点の苦痛を取り除くことだけです。実際には病院の病気治療も同じではありませんか？ その業を後回しにしなければ、取り除くことはできないのです。

我々の言う病気の本質とは、別の空間の問題がこの空間に反映したものです。たとえば身体のどこかにできものができたり、炎症が現れたりしてウイルスや細菌が生じます。小さな業、密度が高いものはこの空間にウイルスとして反映され、少し大きな業は細菌として反映されます。それらのものは別の空間に存在しており、人はどうすれば根治できるのですか？ この空間でさえあなたはまだ突破できていないのです。業とはすなわち黒々とした一塊一塊の業力です。ですから我々修煉界においては病気といわず、すべては業力による問題なのです。私が今説いたように、実質上その病気を勝手に治療することはできないのです。慈悲心が生じて、特殊な環境下で、人の病気を治してあげることは許されるのですが、個人の名利や金銭のため、利益のために

行なってはいけません。そこにはそのような理があるからです。

そこで、病気を治すことは衆生を済度することではないのか、それは良いことではないのかと思う人がいます。末法時期には経書も曲解されています。『大藏経』をめぐって見ても、常人の病気を治すことが衆生を済度することであると書いてありますか？ まったくありません。衆生を済度するということは、常人の苦しい環境から、あなたを高い次元に済度し、永遠に苦しみから解脱させるという意味で、これこそ本当の衆生済度であり、根本から人の問題を解決するのです。しかし常人の病気を治すことが衆生を済度するというのは、偽気功師の言うことで、金儲けのために作った話であり、佛が人を済度することはそういう目的ではありません。皆さん考えてみてください。人の病気を治すことが衆生を済度することになれば、その佛の能力は大したものではありませんか？ 高次元にいる大佛の足でさえ地球よりも大きく、手を一振りすれば全人類の病気はすべてなくなります。では彼はなぜそうしないのでしょうか？ 衆生を済度することなので、そうすればよいのではないですか。しかし、人は業を造れば返さなければならず、この理を破壊するわけにはいきません。人は己が造った業は自分で返さなければなりません。修煉しようと思うなら、心性を修めながら業を返して元へ戻るのです。例を挙げていえば、ある人は外国に移住し、比較的裕福な国に行って豊かに暮らしたいのですが、では今の国で借りた債務は全部返しておかなければならず、それを踏み倒して行ってしまえば、それは許されることでしょうか？ すべて返し終えてから、初めて行くことが許されるのです。こういう意味です。修煉したければ苦を嘗めなければならぬ、それにはこういう理があるのです。当然大法を修めることによって一部は消されますが、一部を消してあげなければ、あなたは修めることなどできません。人は業に業を重ねてここまできてしまい、障害がとても大きいので、一部を消してあげて、初めて修煉することができるようになります。先ほど病気治療のことを説くついでに、皆さんにその中の道理を教えました。

ではなぜ一部の気功師が、私の功を三日学べば病気を治せる、五日学べば病気が治せる、十日学べば病気が治せると言っているのでしょうか？ 講習会に参加すれば誰でも気功師になって、気功治療ができるとでもいうのですか。ではなぜ大多数がそうなれないのでしょうか？ ではなぜ一部の人が僅かな病気を治せるようになるので

しょうか？ 原因は为什么呢？ できない理由は常人の理を破壊することが許されないからです。ではなぜ一部の人が本当に僅かな病気を治せるのでしょうか。治した本人は嬉しくてたまらず、さらにその気功師を信服するようになってしまいます。言っておきますが、彼らは騙されています。そういったことをするいわゆる気功師は往々にして憑き物があり、その憑き物にも僅かな功があります。功がなければ病気を治せないのです。さらに機能がある場合もあります。それはあなたに少しの情報や僅かなエネルギーを与えますが、そのエネルギーは消耗していくものです。あなたが一人の病気を治せば、その一部を消耗します。またすればまた消耗します。数人を治せばエネルギーがなくなりますが、あなたには人の病気を治したいという執着心が依然として強烈に存在しています。しかし消耗し尽くしてしまったので、それから治そうとしても治せません。

治せなくなったら、一つの問題が生じます。どんな問題でしょうか？ それから病気を治す時には自分の根基を使って、人の病気と交換するのです。どういう意味でしょうか？ すなわち、この宇宙には「失わなければ得られず」という理があり、得るためには失わなければなりません。あなたは良くないものを得ることになります。人の病気を治せないのに、どうしても治したいと思うなら、そこでどうするでしょうか？ その病気を自分の体に移して、患者を治します。なぜならあなたは、その病気をどうしても治したいからです。人によっては治せるなら自分がその病気を引き受けても良いと思う人がいます。これは慈悲心によるのではなく、自分の名声を損なうことを恐れているからです。このような気功師がどれほど人に害を与えたか、これを見れば分かるでしょう。これほど重い名利心を生じさせ、その名利心はこれほど人を害したのです。彼は名声を損なうことを恐れ、どうしても相手の病気を治したくて、自分で引き受けることも構わないと思っているのです。それでは、引き受けてください。しかし無償ではなく、交換しなければいけません。相手のものは病気だとしても消去したら徳に変わります。物質は不滅で、転化できるのです。あなたが病気をもらって、相手に徳を与えて交換することになるのです。その空間で交換できる唯一のものは徳で、徳を人に与え、自分は人の病気をもらうという、最も愚かなことをしました。この徳はどれほど貴重なものか分からないのです！

以前、宗教の中でも言われていたことで、お年寄りたちも話していましたが、今生での苦は気にすることはない、善いことを沢山して徳を積み、来世では福があるというのです。すなわちこの徳は財をなし、地位をなすということです。実は、我々の見るところでは、それは一種の交換形式です。その財を得たいと思っても、交換するための徳がなければ得られません。商売をやり始めたらすぐに大きな商売ができる人もいますが、どんなに努力しても商売が成り立たない人もいます。彼には徳がないか、非常に少ないので、交換するものがありません。言っておきますが、徳があまりない人は乞食をしても、食べものをもらえません。人に徳を与えて、初めて人から食事もらえるので、そこにこのような交換形式があります。ですから徳がなければ何も得られず、すべて黒い業力であれば、その人はつまり極悪非道の者となります。待ち受けているのは徹底的な壊滅で、元神までも消滅され、形神全滅というとても恐ろしいこととなります。消滅される時、一層一層その生命が消滅されていき、すべての罪悪を償いながら生命が消滅されるのです。

徳はこれほど貴重なものなので、勝手に人にあげてしまってよいのでしょうか？ その気功師は人を害しているのではありませんか？ 人を害するだけでなく自分自身をも害しており、大きな悪事を働いているのです。彼はあなたに病気を治療させ、あなたに執着心が生じたら、もし自分の根基が良ければ、自分の徳を持って他人の病気を治療し、その病気を自分の身体に移し、自分の徳を相手に渡すのです。ここ数年間、少なからぬ人がこのように人の病気を治して家に帰ったら、大病に罹ったように苦しくなります。このような人はどれほどいるのでしょうか。かなり多いのではありませんか？ 病気治療をする人はみなこんな状況ではありませんか？ 実はみな同じで、人の病気を治してから自分が苦しくなり、自分の徳を持って人の病気と交換するのです。これだけではなく、あなたは本来高次元まで修めて圓滿成就し、果位を得られるはずの人だったのに、これによって駄目にされてしまいます。どれほど駄目にされたのでしょうか？ 人の名利心は最も捨て難いものです。誰かがあなたを褒めれば、すぐ嬉しくていい気になります。人間は誰でもこのような根強い潜在的な意識を持っています。誰かにおだてられれば、すぐ自惚れてしまい、人から「気功師」と呼ばれ、自分の病気を治してくださって、凄い能力があると言われたら、あなたはどんなに嬉しくなるでしょう。

名利を求める心が起きると、皆さん考えてみてください。その心を取り除くことはとても難しいのです。多くの人に私は病気治療をしてはいけないと言いましたが、彼は手がむずむずして、治療しないと我慢できません。名利心が生じたら、どうやって取り除くのでしょうか？ しかも人の病気を治している時、患者と一つの間を形成します。あなたは世間法修煉の段階なので、どれほど高く修煉したとしても自分を守る能力はなく、必ず患者と相通じる場にいるので、患者の身体にある病の気があなたの身体に移ってきます。甚だしい場合、あなたは患者よりもその病の気を多く持つこともあります。しかし病気の根は患者側にあるため、あなたはそれを動かすことができず、治すこともできません。患者は少し黒い気を減らされて、心地よくなりますが、一方あなたは苦しむことになります。これを続けていけば、一つ、二つの病気ならあなたは気付きませんが、さらに続けて誰の病気でも治療すると、あなたはあらゆる病の気が身体に充満することになります。ある気功師はあなたに排出するように教えるかもしれませんが、修煉は「修は己にありて、功は師父にあり」なのです。あなたの常人の手で、常人の意念でそのようなことができるというのですか？ その病の気を排出できるなら、あなたが抱え込んだ、長く治癒していない病気を排出できたのでしょうか？ 排出できるわけがありません。ですから気が下へ流れるように感じても、良い気でも悪い気でも同じように流れていき、出してもまた戻ってきます。ですから相当あなたを害しているのではありませんか？ あなたは自分の身体に汚い物を詰めています、その黒い病の気は何ですか？ すなわち業であり、この空間の身体に反映されると、すなわち病気です。あなたは病の気が身体にいっぱい充満し、名利心も生じ、その心はまた捨て難いもので、人の病気を治して自分は苦しむのです。

世間法修煉にあたって、多くの人には知らないことですが、修煉を始めた時に身体の浄化が始まります。身体を清める目的で、まず気を用いて身体を通じさせ、高次元の修煉のために準備をし、さらに基礎を固めるようにします。高次元での修煉になっても、絶えず浄化し、絶えず浄化し、さらに清浄に、さらに清浄に、さらに清浄に、最後には高エネルギー物質で置き換えるのです。世間法修煉の全過程は自分の身体を浄化することなのです。では考えてみてください。あなたは絶えず人の病気を治して、絶えず汚れた物を自分の身体に取り込んでいるのなら、修煉に相反することではあり

ませんか？ 人の病気を治す時、本当にそれほどの慈悲心によるものでしょうか？ 違います。名利心に唆されたからです。たとえお金のためではなくても、名誉のためにしています。病気を治せる力があれば、人の病気を治療しなければ手がむずむずし、自分の能力を顕示できず、こういうことではありませんか？ 修煉というのは人の執着心を取り除くことではありませんか？ あなたのその心をどうやって取り除くのでしょうか？ 彼は本当にひどくあなたを害したことになります。ここで我々は病気治療をしてはいけない根本の原因を解き明かしました。

本当に病気が治せる人、とても高くまで修煉した人であっても、まだ悟りを開いていないかもしれません。こういった人がときに良い人のためにその病気を治すことは許されますが、ただし多くの場合、名も残さず報酬も受けません。本当のところ、彼は根本的な問題を解決しておらず、その難を先送りしただけです。つまり我々の表面の物質空間から深層の物質空間へ押し込んだだけですが、最終的にはまた戻ってくるのです。あるいはそのものを転化させ、転化した結果、病気はなくなりますが、他の災難に遭遇することになります。多くの修煉方法は副意識の修煉です。その人には功がありますが、どんな功があるのか、どんな形態なのか、功はどんな状態なのか、どのように出てきたのか、どのように修煉してきたのか、功はどこに存在するのか、彼にはまったく分からず、ただそのようにすることを知っているだけです。本当のところ、それは副意識がしていることで、副元神が修煉しているのです。それを移したり他人の身体に転化させたりする場合、勝手に転化させるわけにもいかず、親戚や友人だけに限ります。それでも交換条件があって、ただで病気を人に転化するわけにはいかず、あなたは代償を払う必要があり、こういった理があります。

ここまで話しましたので皆さんに言うておきます。一部の気功師はとても有名ですが、完全に人類社会をかく乱しており、現在めったに浄土はないのです。常人社会の職場もみな同じで、どの職場にも人類社会、常人社会を破壊することが存在しています。至るところに魔がいます。気功自身はすなわち修煉で、ここが浄土であるはずがありますか？ 我々の法輪大法を破壊する人がいますが、なぜでしょうか？ 名や利が得られなくなったためです。当然、魔が存在しなくなればそれも駄目です。魔が存在しなければ、修煉は容易くなり、法輪大法には何の障害もなく、すいすいと上に修

められるならば、それも簡単すぎます。人心を取り除くことは様々な方面で体現してくるので、我々法輪大法の煉功点にも、このような人が現れました。自分が佛なのだから、李洪志に従って学ばないでくださいと言うのです。なぜこのような現象が現れるのでしょうか？ 根本からあなたが動揺するかどうかを見るためです。修煉の最後の一步に至るまで、あなたの心を試し、根本から法を認識しているかどうか、確固としているかを見るのです。どの方面も向上し、固めなければいけません。

ここまで話しましたが、皆さんに一つの問題を話しましょう。将来も世間の小道や小法で病気を治療することは存在する可能性があります、それはその形式で存在するにすぎません。それがどうやって治しているのか私は説きましたが、能力はとても小さいのです。小さな病気は治せますが、大きな病気は治せません。ただし一部の修煉者が、ごく小数の人に対してするのは構いませんが、広範囲にやって社会を乱すことは許されません。気功師は教室を開いて多くの人に病気治療を教えています、みな気功の医者になり、どんな病気も治せると言っています。そうすれば、人類には病気がまったくなくなるのですが、そんなことはできません。そういう理があります。そんなことで病気を治せるのでしょうか？ 治せるとしてもその状態であり、そういった形式です。ですから、法輪大法は高い次元での功を伝えて、真に修煉するのです。

真の修煉は人を済度することに等しいのです。ですから私も皆さんにはっきり説明しますが、真に法輪大法を修煉するならば、あなたは人の病気を治してはいけません。もしあなたが病気治療をしたら、この法を破壊し、この法を乱すことと見なします。ですからあなたが病気治療をするなら、これほど貴重なものをあなたに破壊させ、汚染させるわけにはいかないのです、私の法身は法輪や機制などすべてを回収します。本当の修煉者が、看板を掲げて人に病気治療などをして、こういう事をするのを見たことがありますか？ 過去の道を修める人でも、佛を修める和尚でも、病気治療をする人がいますか？ 薬で病気を治すことはありますが、あるいは僅かな人に機能を使って病気を治すことも許されますが、それにも条件があり、無条件でやるわけにはいきません。このことをはっきり言いますが、利害関係についてもすでに皆さんに話しました。確かにあなたにとって、とてもとても大きな害になります。考えてみてください。気功師として人の病気を治すのに、何十年もの修煉を経てから、初めてそういっ

た機能を備えられるようになります。あなたは三日学んだら病気を治せる、五日学んだら病気を治せる、十日学んだら病気を治せるといいますが、それは笑い話ではありませんか？ 皆さん思考力があるのに、どうして考えてみないのでしょうか？ 三日で気功師になれるなら、この「道」を修めるのは簡単すぎて、地面の石ころを拾うようなことで、簡単に成佛します。この問題についてはこのくらいにしておきましょう。話したいことはあまりに多いので、講習会で十五、六時間かかる内容を一度に皆さんに話すことも不可能です。

修煉しようと思えば、法をよく学んでください。法輪大法の『轉法輪』もすでに出版され、内容はすべて私が講習会で説いたことです。すべて持ち出して皆さんに与えたので、将来それを我々の一門で修煉するための拠り所にすることができます。多くは語りません。簡単にここまでにしましょう。最後に皆さんが大法修煉の中で一日も早く功成って圓滿成就することを願っています！

長春での説法 質疑応答

李 洪 志

弟子：先生は、今は末法時期であるため、佛、道、神は常人のことに関わらないとおっしゃっていますが、では先生はなぜ関わっておられるのでしょうか？

師：私は常人の中の人だからです。他の人が関わらないなら、私が関わらなければなりません。これは、私自身が行なわなければならないことです。しかし、一時の思いつきで行なっていくことではありません。

弟子：私の夫はある気功を練っていますが、私が法輪大法を修煉していることに影響を与えるのでしょうか？

師：あなたはあなたのものを煉り、彼は彼のものを練ります。彼が大法を煉りたいのなら彼に教え、煉りたいと思わないなら、あなただけが煉ってください。恐れも執着であり、心が動じなければ問題ありません。

弟子：高い次元へ修煉するという考えがなければ、病気治療と健康保持の次元に留まるだけですが、先生にお尋ねいたします。私は圓滿成就できるのでしょうか？ 私は自分の良心に従って、常人社会の中で善人になりますが、死んでから元神はどこへ行くのでしょうか？

師：あなたは高い次元に向かって修煉したいという考えすらないのなら、それでも圓滿成就できるのでしょうか？ 質問には「私は高い次元へ修煉するという考えがない」と書いていますが、最初からこのように述べているので、それならあなたはどのようにして圓滿成就することができるのでしょうか？ 来世は何に転生するか分かりませんが、良いことをすれば徳を積むかもしれません。良いことを行なって徳を積み、苦をなめれば、あなたの徳は多くなるでしょう。あなたが煉功したくなければ功に転化させるこ

ともできないので、来世は福報を得られるかもしれません。

弟子：学習者が『周易』を研究するのは、煉功に影響がありますか？

師：そういうものは私たちの銀河系の理にすぎず、その範囲を超えていません。しかしながら、我々の煉る法はさらに大きく、あなたが一生かけても研究しきれません。

弟子：美容整形を受けて、鼻柱の中にシリコンというものを埋めたのですが？

師：影響はありません。「私は避妊手術を受けました」、あるいは「私は何々を摘出しました」と質問をする人がいますが、なんの影響もありません。あなたに教えますが、あなたの真体からは何も摘出されていないので、通常通りに煉ればすべて生み出すことができます。

弟子：私が法輪を考えるたび、いつも身震いしますが、これはなぜでしょうか？

師：憑き物がある場合は、このような状況が現れます。私は講習会で、ほとんど取り除いたのですが、ただ極めて少数の人の考えだけがまだ変わっておらず、修煉の意思がまだ固まっていない人に限っては取り除いていません。取り除くとき深く調べていません。

弟子：昇進が運命の中であらかじめ定まっているのなら、人は努力する必要はなく、すべては運命の按排を待つだけでしょうか？

師：法は修煉者のために説かれています。一人の常人として、今日私があなたにこのようなことだと話しても、あなたはやはり争うことをやめないでしょう。なぜなら、あなたは常人だから信じないのです。常人はこのように信じません。さらに言えば、あなたが争い、闘うことも必然的なことなのです。

弟子：煉功している間、私の身体が勝手に揺れてしまうのですが？

師：揺れてはいけません。勝手に揺れないようにしてください。どうしても揺れるなら目を開けてください。そうすると揺れなくなります。揺れなくなるまで、そうしてください。

弟子：法輪大法を煉る時、特に第二式の法輪椿法を煉る時に、両手に気の塊を感じるのですが、意識的にコントロールしないと、この気の塊によって手が中の方に引っ張られたり、または外の方に押されたりすることがあるのですが？

師：これこそ法輪が回転しているのです。あなたが感じたのは、法輪が回転するときの感覚なのです。

弟子：マントラを唱えながら煉功するのは影響ありますか？

師：呪文を唱えることはつまり、その法門の加持を求めることであると私は話しました。あなたたちには、私の法輪と私の法身が見守っているのに、なぜそれを唱えるのでしょうか？ 二股かけたいのでしょうか？ あなたは別のものを混ぜ入れて修めたいのでしょうか？ つまりそのような意図ではありませんか？ そうするとあなたは何も得られません。

弟子：私はよく引越しをしますが、先生の法身が私の部屋を清めてくださるのでしょうか？

師：真の修煉者はどこへ行っても、きっと助けてくれるはずです。引っ越した部屋を清めてもらうためだけなら、私は何もしてあげられません。私はあなたの部屋を清めるためにやって来たものではありません。

弟子：何らかの光景が現れたときに煉功を中止すれば、功法の修煉および功の伸びに影響があるのでしょうか？

師：目の前に光景が見えたので煉功を中止することが、あなたの煉功にどのような影響があるか、ということですが、いかなる影響もありません。ただし、通常私たちの目の前に光景が現れた時、できるだけそれを静かに観察し、その光景が過ぎ去るまで待ったほうがよいのです。現れてもそれを見ないようにするなら、あなたはそれを必要としないかのようです。この状態であればそれを放棄してしまうことになります。ですから、やはり見るようにしたほうがよいのです。しかしいかなる執着心も生じさせてはいけません。

弟子：結婚相手を探すことは、執着と見なされますか？

師：多くの若者は結婚して所帯を持つことになります。常人の中で修めているのはあなたを尼僧にさせるためではなく、これは問題ありません。我々の法門は主としてあなたを常人の複雑な環境の中で修煉させていきます。

弟子：子供は説法を聞いた後でも、煉功を続けることができませんが、法輪はいつまでも彼を保護するのでしょうか？

師：煉功を続けることができなければだめです。そうでしょうか？ 煉功を続けなければいけません。私は修煉者を済度しに来たのであって、常人を保護しに来たわけではありません。

弟子：私の身体の上で法輪が回転する時、時には一回り終わらないうちに方向が変わることがあります。法輪が百回回ってから、初めて逆回転すると感じる人もいますが、なぜでしょうか？

師：初期にあなたの身体を調整している時は不規則だからです。それは霊体ですから、調整し終わるまで、どのようにあなたを調整するかを知っています。身体の調整が終わって完全に適応してから、それは自然に時計回りの方向へ九回回転し、逆時計回りに九回回転しますが、その時あなたはもう感じなくなります。いつまでも感じるわけではありません。皆さんも知っているように、胃は蠕動していますが、あなたは胃が

動いているのを感じますか？ それがあなたの身体の一部になった時、それが順応するようになり、あなたはその存在形式を感じなくなります。

弟子：先生が私たちに話してくださった法と天機を、煉功していない人に聞かせてもよろしいでしょうか？

師：普通の人に軽々しく高い次元の話をしてしないでください。話してもその人は信じません。その人が信じるなら別に話してもかまいませんが、そうでなければ、信じない人はきっと法を破壊します。

弟子：煉功者は執着心を取り除いた状況下で、最大の努力をし勝ち取る状態を保っていてもよろしいでしょうか？

師：今の段階で、人に完全に無為になるように放棄させることは現実的ではありません。現段階であなたに対して厳しく要求していても、あなたは常人の中でやはりできる限り個人の利益のために努力するでしょう。原則的には問題ありません。しかしながら、少しずつ向上するにつれ、このような心はいずれも徐々になくすようにしなければなりません。ただちに成し遂げることは、私に言わせれば現実的ではありません。さらに「執着心を取り除いた状況下で、最大の努力をし、勝ち取る状態を保つ」との質問ですが、保つこと自体が執着ではないのでしょうか？ あなたの質問は矛盾しています。

弟子：師父の写真を用いて、すでに佛像、経書および厨子をみな開眼させましたが、佛像の法身は師父の法身でしょうか？ 線香をささげてもよろしいでしょうか？

師：原則的に私はこのようなことはしません。常人のことには関わりません。修煉者なのにあまり信じないのなら、将来はさらに難しくなります。

弟子：煉功すると全身から汗が出るのですが、こういう現象は良いのですか？

師：それはもちろん良いことです。汗が出ることも自体も良くないものを排出している
ので、身体が熱くなったことの現れです。人に病気がある時、身体は冷たいのです。
あなたがよく煉っている現れです。

弟子：大徳の士は、多くの人々が墮落したり、徳を損なったりしなければ、大きい徳を
積むことができないのでしょうか？

師：大徳の士は自ら大きな忍の心を持っており、その人は苦の中の苦に耐えられます
が、これは他の人と何の関係があるのでしょうか？！ その人が高い次元まで修める
には、必ず他の人が徳を失わなければならないのかというと、そうではありません。
修煉の過程で、人はこのようにあなたに業を償わせるためにやってくるのです。この
環境を離れて修煉しないと避けられないのですが、その時は別の方式で業を償わな
ければなりません。しかしながらそうすると、修めているのはあなたではなくなります。
あなたがこの環境の中で修煉すればそれは必然なことです。人は必然的にあなたに面
倒を引き起こします。あたかもあなたが常人の中で必ず業を造ることと同じです。

弟子：一日に何回煉功した方がよいのでしょうか？

師：時間があれば多く煉り、なければ少なく煉り、何回でもかまいませんが、初期の
頃はできるだけ多く煉る方がよいのです。あなたが煉ることは機を強化していますが、
本当に功を伸ばすこと、身体の変化、そして機能を強めることはいずれも我々があな
たに植えた機制が役割を果たしています。あなたが煉るのは機のエネルギーを強
化するためです。

弟子：常人社会の中では、いつも様々な考えが生まれますが、様々な問題を考えるこ
とは、法輪を變形させることになるのでしょうか？

師：この時は變形することはありません。正常な仕事と日常的に頭を使うことは、修
煉過程の中での正常なことです。あなたがいつも個人の利益を考え、どうすれば他人
が自分に面倒を起こさないかなどと考え、心が常人と同じならば、どのように向上す

るのでしょうか？ その時はあなたの向上に影響します。

弟子：静坐している時に耳鳴りがして、頭の中が真っ白になることがありますか？

師：これは良いことです。つまりあなたの雑念がすべてなくなったのです。とても良いことです。ただし、必ず自分が煉功していると分かっていなければなりません。

弟子：功が出る時は、主意識を主として修められるようになる時でしょうか？

師：そのように認識してはいけません。副意識も後に続いて煉功しているので功を得ます。しかし将来、副意識はずっと副意識として存在します。あなたは永遠に主体です。

弟子：煉功する時、意識が混沌とすることがありますが？

師：意識が混沌となりそうなら目を開いて煉ってください。意識が混沌とした状態で煉ってはいけません。

弟子：仰向けに寝て、四つの法輪を抱く動作をしてもよいでしょうか？

師：このようにしてはいけません。私もこのように教えていません。このように煉功すると気持ちがよくて疲れないと感じる人がいますが、それではいけません。煉功するのにそれくらいの苦しみにも耐えられないのですか？

弟子：私は以前、坐って煉功していた時によく光景が現れましたが、無意識の内に封じ込めたので、その後現れなくなりました。

師：それを気にしないように、それに執着しないようにしてください。それは以前のことですから、これからは煉功してどんな状況が現れても成り行きにまかせましょう。執着しなければ、見えること自体は良いことです。

弟子：この度の講習会に参加しなかったのですが、自分で常に本を読んで学べば、それなりに効果が得られますか？

師：講習会に参加しなくても、自分で学び、本当に本の中の煉功者に対する心性の要求に従って修煉さえすれば、同様に顕著な効果が得られます。

弟子：佛家の最も低い果位は何ですか？

師：佛家の最も低い果位は羅漢です。それより低いと果位はなく、正果は得られないので、三界から抜け出せないことになります。

弟子：法輪大法を煉る者は、努力すれば佛体修煉に至ることができますか？

師：大法は果てがなく、佛法も果てがないので、あなたのその心を頼りに修めていきます。出世間法まで修めたら、すでに佛体修煉が始まったことになります。

弟子：副意識と主意識は二人ではないのですか？

師：いずれもあなた一人です。同じ名前を持ち、同時に母胎から生まれますが、二つの意識になります。

弟子：私たちはどうやって、功を伝え、法を伝えるのですか？

師：法輪大法の学習者がどのように功を伝えるかという問題については、すでに話しました。あなたは教えることも伝えることもできます。正法を伝えることは、徳を積み、善い事を行い、人を済度することですから、あなたは伝えることができます。しかしあなたの言葉として話してはならず、先生がどのように言っているとか、私の本の中にはどのように書いてあるとか、このような方法に基づいて行なってください。自分のいかなる考え、自分に見えた光景も混ぜて話せば、伝えるものはいずれも我々

の法輪大法ではありません！ あなた自身がその次元で認識した理は法の全てではなく、我々は、非常に高い次元の理を結び合わせて話しているので、あなたのそれらなものには指導作用はありません。あなたに何が見えて、何かを知ったとしても、それにはこのような問題があります。さらに、私たちが法を伝える過程はいつでもボランティアとして善い事を行い、功德を積むこととなります。煉功者として、あなたは何を求めますか？ 名誉や利益を求めない、そうではありませんか？ 私たちの求めるものは、功德なのです。ですからいかなる人も費用を受け取ることは許しません。いかなる人も私のような形で功を伝えてはいけません。座談会を開いて、みんなが煉功場で互いに交流し合い切磋琢磨することは大丈夫です。なぜなら、あなたにはこの法は説けないからです。自分は教師だという人がいますが、それは関係ないことです。この法には極めて深い内涵があり、異なる次元において異なる指導作用があるので、あなたに説けるわけがありません。

鄭州での説法 質疑応答

李 洪 志

弟子：よく動き回って言うことを聞かない子供に対して、私は一日中くどくど言ったり、叩いたり罵ったりしているのですが、このようにする価値があるのでしょうか？

師：私たちは子供を教育する方法を改善したほうがよいと思います。子供を罵っても叩いても効果がないことに気付いたら、方法を改めるべきです。皆さんに教えますが、彼も一人の人間なのです。今彼らはあなたの息子や娘でも、来世には互いに見知らぬ者同士ですが、あなたは彼に造った借りを返さなければなりません。私が言ったことを信じないかもしれませんが、常人の中で迷い、子供に無理やり大学を受験させたりして、こういうことに執着する学習者がいます。あなたに教えますが、あなたは彼に借りをたくさん造ることになります。将来は逆転して、彼があなたの父親になり、あなたにやられたことを今度仕返すこともあります。これは方法の問題ですが、もし子供を持って教育しないなら、これもまた悪いことになるので、やはり彼に借りを造ることになります。

弟子：化身や報身とは何ですか？

師：これは佛教の中の名詞なので、これについて話しません。私は人体科学と結びつけて話しているので、極めて分かりやすく説明しています。彼らは三魂七魄のあれこれについて教えていますが、漠然としすぎています。どの程度まで漠然としているのでしょうか？ あなたの心臓、肝臓、肺、大脳、脳、すべての血管、細胞はみなあなたの姿かたちです。彼らの言っている三魂七魄が何を意味するのか私には分かりません。あなたの前半身もあなたの姿かたちで、後半身もあなたの姿かたちで、あなたの手足もまたあなたの姿かたちですが、彼らの言っていることは何を指しているのでしょうか？ だからこそ私は、彼らの教えが漠然としていると言ったのです。私の説明は最もはっきりとしています。

弟子：私は神通加持法を煉っている時、時に下腹部が起伏して動きます。以前他の気功を練っていた時の調息のようなものですが？

師：そうです。そういう現象もあります。そのまま煉功して、気かけないでください。それはある種の状態なので、法輪大法を煉る初期に調息も自動的に行います。

弟子：煉功した後、片方の手が熱くなり、もう片方の手は冷たくなるのですが、どういことでしょうか？

師：これは、いずれも正常な反応です。道家では陰陽分明といい、こちらが熱になるとあちらが冷たくなり、あちらが熱になるとこちらが冷たくなることもあります。これはいずれも正常な状態で、様々な状態が現れてくるのです。

弟子：法輪大法を煉る時、舌を上顎に付けることが要求されますが、総入れ歯で上顎が遮られているのですが、かまいませんか？

師：関係ありません。入れ歯どころか鉄の入れ歯でも関係ありません。鉛の板でも遮ることはできません。私たちが煉っているのはエネルギーだからです。北京で彼らが私を訪ねて実験した時のことですが、何重もの鉛の板で包んだレントゲンフィルムを私に持たせ、それから何重もの黒い紙でそれを包んだあと持ち帰り現像しました。そこには私の手の形が現れました。つまり、鉛の板でもエネルギーを遮ることができないのです。我々は気を練っているのではありません。気を練るのであればあれこれ恐れれたりします。煉功のとき風にあたって大丈夫かと言う人もいますが、十級の強風の中でもあなたが立っていられれば煉ってください。何も失うものはありません。エネルギーが失われることはありません。気だつたら失われるのです。

弟子：坐禅する時、足が痛まないと効果がないのですか？

師：そうとは限りません。私たちの一門は特にこのようにして業を取り除いているの

ではありません。私たちは常人社会の中であなたの心性を磨くのです。当然ですが、身体の内も少し苦に耐えなければなりません。この問題はすでに話したことがありますが、完全に禅定の修煉に頼るのではありません。

弟子：六歳以下の子供が無意識のうちに法輪バッジの中の景観が見えた後、天目が開くことがありますか？

師：無意識のうちに見えたなら、開いても彼には分かりません。子供はよく天目が開いても気にしないので、ものが見えた時はみんな同じように見えると思うのです。子供はとても無邪気で、見えても気にしません。

弟子：私の子供は先生の法輪大法を学び、先生の考え方を受け入れています、よく煉功しません。法輪はそれでも存在しますか？

師：よく煉功しないで、法輪大法の要求に基づいて行なっていないなら、それでも私の考えを受け入れているといえますか？ 私は法輪をいい加減に常人に与えることはしません。大人であろうと子供であろうと、法輪大法の基準に基づいて行なわなければなりません。でも子供は無邪気なので、一度学んだ後は表面的によく煉らなくても、心性は変化しています。彼の心に、法がすでに根をおろしているからです。

弟子：今後、先生が講習会を行なわなかったら、私たちは師父に会うことができますか？

師：もう講習会はしません。私はどこかの人影のない深山から出て来たわけではないので、山に入ることもしません。よく修めていけば毎日会うことができ、あなたには見えなくても私は傍にいます。

弟子：私たちは乳白体状態を超えた時に、まだ体感機能がありますか？

師：以前話しましたが、それは機能ではありません。この講習会に来た大多数の人が、

まだ体験していないうちにあの乳白体状態をすでに越えました。私は実際にはあなたを上へ引っ張って、また前へ押しています。この段階を越えるには、もしあなた自身で煉るとすれば一生涯かかりますが、私は八日間であなたのためにやり遂げました。体験すらしていないうちに、すでにその次元を突破しました。

弟子：私は静功を煉る時、目を閉じて自分の経絡が運行する形象を見てみたいのですが、これは法輪大法に不都合なことがありますか？

師：あなたは天目が開いたから見えたのです。これは正常なことです。

弟子：私は生まれたばかりの赤ちゃんと同じ部屋にいます。大法が出した法輪のエネルギーと私の身体の気機は、生まれたばかりの赤ちゃんの天目に影響することはありますか？

師：これらに執着しないでください。子供や赤ちゃんは成り行きにまかせておきましょう。得るべきものなら得て、得るべきでないものなら得るはずがありません。小さな子供の天目は、一般的にみな開いているのです。

弟子：私はもうすぐに香港に行きますが、先生の法身は弟子を保護してくれますか？

師：あなたが香港に行こうとアメリカに行こうと月や太陽まで行ったとしても、私の法身はすべて保護することができます。ただし執着してはいけません。私の法身はあなたを修煉させるために保護しているのです。

弟子：昔から、仙人や佛を修めるには金丹大道の一本道しかないのですが、あなたの言うところの主元神とはどんな関係ですか？

師：これはあなたが知っていることです。金丹大道の一本道や昔から言い伝えられた云々など、それは常人の言うことです。天上では誰もが私の法輪大法が最も素晴らしい法であると知っています。もちろん他にもまだ修める法はありますが、あまりにも

奥が深すぎて、人に理解できるはずがあるのでしょうか？

弟子：どの式の功を煉っても、頭の中に多くの気血が交流している感じがしますが、それは法輪が回っているのか、それとも法輪が脳を調整してくれているのですか？

師：煉功者の身体に現れる様々な状態は何千何万という数なので、数えても数えきれず、これらのことを一つ一つ話すことはできないばかりか、話しきれません。煉功をしたいならそれを良い現象と見て、それを気にかけてはいけません。今日のこの状態や明日のあの状態をただ良いことと見なし、それはすべてあなたの身体を調整してくれています。あなたのその不安な心とは何でしょうか？ 執着ではありませんか？ 恐れる心がそんなに強いなら煉功できますか？ あなたは乗り越えることができますか？ これはすであなた自身が設けた難ではないのでしょうか？ 生じた執着心をどうやって取り除くのですか？ このような状態で、その心を取り除かせているのかもしれない。

弟子：坐禅する中の五つの手印に名称はありますか？

師：連続して動いている動作の手印には固定した名称はありません。

弟子：大蓮花手印は手印の一つですか、それとも五つの手印の総称ですか？

師：大蓮花手印は一つの固定した手印にすぎません。

弟子：あなたの功力は今どれくらい高いのですか？ あなたの講義内容は身をもって経験したことですか？

師：私が経験したことはあまりにも多すぎます。私は一丈、十丈、百丈あっても、一寸たりとも話すことはありません。みなさんが余り多く知るとは許されないのです。真の師は自分で吹聴することはないからです。私がここで伝えているのはこの法なので、この法の通りに行なってください。しかしさらに教えますが、本当にこの法を修

煉する人に問題が起こることはないので、ひたすら修めてください。以前、貴州の講習会の際、私に「先生はどれくらい高いのですか」と聞く人がいましたが、私は一言、「あなたはひたすら煉ってください。私が出山してからも、出山する前も、私を動かすことのできる人はいません」と言いました。この一言で、現地の三百歳余りの人が、私に法力比べを挑んで来ました。というのも、彼のその嫉妬心からです。その後、彼はお終いになりました。彼は三百歳余り修めたとしても、この大法を伝え出したことは一大事なので、誰もこの法を勝手に動かしてはいけません。彼は私が人を済度していることを最後に知りましたが、すでに遅かったのです。法は彼を許しませんでした。

弟子：坐禅して煉功する時に、自分が大きくなったり、小さくなったりすると感じるのですが？

師：これはどちらも良いことです。煉功すると、エネルギーが彼の元神を充実させて彼には変化が起きるのです。拡張すれば自分が大きくなったと感じますが、その肉体は全く変化が起こっておらず、変化するのは別の身体で、自分は非常に大きいと感じるのです。ところが彼はまた縮小することもでき、とても小さくなります。実はいずれも正常なことですが、私はこういった現象を解釈したくありません。色々な状態が多くて、何千何万にも留まらないのです。

弟子：神通を加持する時、全身がぞくぞくと身震いしたり、あるいは部分的に身震いしたりするのですが、煉功を続けてもいいのでしょうか？

師：もし震え方がぶるぶる震えて怖いような時には、何かの憑依するものが怖がっているのかもしれませんが、もし、正常な身体のゆっくりとした振動なら、エネルギー流が脈を通しているのかもしれませんが、その震動に従って動いてはいけません。

弟子：以前、二人の人が古い学習者について法輪大法を二ヵ月学びました。今は神通加持法を煉るときに気の感じがあり、それに伴って様々な動作が現れるのですが？

師：それこそ魔の妨害です。今すぐ自発的な動作をやめてください！ 入静中、法輪大法でない動作が現れたなら、もちろん私が言うのは本当に法輪大法を修煉する人ですが、あなたに法輪大法でない動作が現れたなら、すぐにそれをやめてください！ 皆さんは私が大手印を打つのを見て学びたいと思い、真似てやれば手印もできるように感じます。教えますが、それこそ魔があなたを妨害しているかもしれません。私の法身は決してあなたにこういうことを教えたりしません。特に別の功を混ぜて練る人にこの状況が現れると、きっと妨害されているに違いありません。

弟子：講習会に行ってしばらくしてから、片方の耳に大きな音がし、もう片方の耳から気が外へ突き出てきました。その後、寝ている時に音楽が聞こえたのですが？

師：それは天耳が開かれたので、つまり天耳通です。炸裂して開かれたのです。

弟子：主元神と副元神はどちらも身体の一部ですが、主元神がいずれ死ぬことになるので、副元神に修煉させ成就させてもよいのではありませんか？

師：いいですよ。歴代の人はずっとこのように修めていたのです。ただ、あなたは私の法輪大法を煉らずに、別のものを煉ってください。あなたが法輪大法を煉っても得ることはできません。なぜなら私の功法は主元神だけに与えるものだからです。誰が主元神は死ぬと言ったのでしょうか？ 主元神は死ぬことはありません。でも私に言わせればあなたは本当に度量の大きな人で、自分が死んで副元神に修めさせます。私が思うには、これは憑依されている人が書いた質問です。

弟子：古い学習者の話によれば、全身至るところで法輪が回っているそうです。私は下腹部に一つ感じるだけですが、私もそんなに多く持つことができるのでしょうか？

師：あなたはけっこう執着していますね。法輪が多いのは私が彼らの身体を調整しているからで、あなたたちに与える法輪はただ一つです。しかし、あなたたちはすでに相当超常的です。皆さんには、皆さんが法を聞いているのが見えますが、あなたたちには見えないたくさんの人々もここで法を聞いています。教えますが、彼らも初めは

みな大法の威力や、私たちの功はどうして煉るのがこんなに速いのか信じませんでした。学習者は私と一緒に列車に乗っていたとき、山から来た修道者たちが彼らを見た後、とても不思議に思いました。その人たちは私に「これらの学習者はどれくらいの期間学んでいましたか」と聞きました。私は、「半年学んだ学習者もいれば、一年学んだ学習者もいます」と答えました。私は「あなたたちと比べてどうですか」とも言いました。彼らは「私たちの中で、彼らに及ぶ人はほとんどいない」と答えました。ところが、彼らはなんと数百年、千年にも及んで修めています。あなたは、私があなたに何を与えたと思いますか？ そこに坐っていると泣きたくなるという人がいますが、あなたは泣かないはずがあるのでしょうか？

弟子：神通加持を煉って結跏趺坐をしているとき、はじめから足がとても痛いのですが、いつまで修めると痛くなくなりますか？

師：あなたの業がなくなるときまで修めると、痛くなくなります。

弟子：師父が植え付けてくれた法輪を下腹部で感じられません。講習会に何度も参加しなければ、きちんと植え付けられないのでしょうか？

師：全く感じない人もいれば、特に敏感な人もいて、同じではないのです。感じるにしても感じないにしても、本当に法輪大法を修煉する人でさえあれば、誰にでも法輪を植え付けてあげます。あなたの認識は間違っています。独学する人でも本当に修煉したら得ることができるので、きちんと植え付けたかどうかという認識も存在しません。

弟子：講習会に一度だけ参加した学習者と、何度も参加した学習者が得るものは同じでしょうか？

師：同じです。誰かに何かを多く与えたりはしません。私たちの多くの学習者は何度も何度も講習会について来ますが、何かを得るために来るものではありません。私が話すたびに彼らは新しい認識を得、法を学び、法を聞きに来ているのです。この法が貴

重だと知っているのです、何かを得に来るのではありません。講習会に一回付いて来れば少し得て、また一回来ればもう少し得られると思っていますか？ 冗談ですが、あなたのこの考えは欲張りですね。

弟子：子供の天目が開いたなら、どのように守りますか？

師：私たち法輪大法の学習者や若い学習者、または学習者の子供も、法輪を得たり天目が開いたりしても、修煉していない人にむやみに話してはならず、学校の友だちや先生にさえむやみに話してはいけません。そうでないと、子供はそれから安らかにできません。

弟子：このような世界に滞在したことのある人は、心に少しの痕跡も残さずに、最初の純潔さを取り戻すことができますか？

師：できます。そればかりでなく、はじめのあなたを超えることもできます。もちろん、あなたが常人の中でそのような純潔さを一挙に修めようと思うなら、自分だけの力では無理です。最後のその一瞬の時、あなたに残っているいかなるものも、良くない物質をすべて取り除いてあげます。あの情は物質的に存在しているもので、あなたはそれを自分で修めていかなければならず、思想の面から自分を変え、それを再び生じさせないようにします。最後にほんの少し残ったものを、あなたのために取り除いてあげます。その時あなたは純粹なものだけになり、非常に純粹になります。修めるということは人の思想を修めることで、思想の面から改変されることであり、あなたの思想が純粹になった程度、それがすなわち果位なのです。圓滿成就した後、あなたの思想も完全に圓滿成就した次元の思考方式になり、人間の思考方式は全くありません。

弟子：主元神は最後にどの身体に入りますか？ 別の身体はどのような状態にありますか？

師：主元神はどの身体に入るかということですか？ あなたが修めたその身体はすべ

てあなたのものです。他の空間の身体はもともと一体で、すべてあなたと一体になっています。あなたの肉体が高エネルギー物質に転化された後、もはや他の空間の身体とは言わなくなります。

弟子：少林寺の大雄宝殿に入ったとたん、下腹部の法輪が急速に逆回転したのですが？

師：時計回り、逆時計回りはどちらも正常なことです。とても良いところでとても素晴らしい寺院です。もちろん今そこで修煉する和尚がどうであるかは言いません。私が言うのは、寺院そのものはとても良い寺院です。

弟子：両側抱輪をする時、いつも耳鳴りが起こるのですが？

師：そうです。両側抱輪は人の耳を開くことができます。「これは素晴らしい、私は毎日これだけを煉ろう」と思う人がいます。これは執着心です！ 私は新しい学習者にはこういったことを話したくありません。こういうものに対して最も執着しやすく、執着するときっと妨害されます。

弟子：私は法輪大法を修煉する前、夢の中で自分が天に昇り、天を飛んでいるのが見え、地に潜り込むのも見えましたが、それは私の副元神でしょうか？

師：違います。もしあなたの意識が天を飛んでいるなら、あなたの主元神が身体を離れたのです。あなたの意識があるところが、つまりあなたのいるところです。自分が天を飛んでいるのが見えて、しかし自分はここに坐っているなら、それはつまり副元神が飛んでいるのです。

弟子：私は静功を煉り始めて三十分後、全身がこわばって力がこもり、それから身体が丸まり、懸命に煉功するのですが、これはどういうことでしょうか？

師：気にかけてください。あなたの以前の生命体と関係があります。気にする必

要はなく、ひたすら煉ればよいのです。

弟子：溶接工は仕事をする時、煙と塵やアークライトに触れますが、それらは身体に影響しますか？

師：煉功者に対して影響ありません。

弟子：第一日目に煉功した時、丸い形のものが外から腹に入り、それからゆっくりとへそのところまで降りました。お尋ね致しますが、先生が植え付けてくださった法輪でしょうか？

師：煉功者はこういったことを気につけないでください。様々な状態は解釈するほどのことでなく、執着心を増やしてはいけません。

弟子：私はある気功師のカレンダーと本を買いました。先生の写真と一緒に部屋に掛けて見ることはできますか？

師：できません。修めるなら専一でなければなりません。たとえ本当の気功師や良い気功師であっても、教えますが、彼には邪なものを排除する能力はなく、それらに妥協しなければならず、一部の功の中にそのようなものを帯びています。彼自身は正道を修めていても、それらを排除することができず、自分の伝え出したものを管理できません。

弟子：長期間、船上で仕事をしている人が法輪大法を修煉して、同じような効果に達することができますか？

師：同じです。海上で煉功するのも、川の上で煉功するのも同じことです。

弟子：煉功者の食事は適当に腹を満たし、力が出ればよいのですか？

師：適当に食べますか？ 適当に食べてもやはり腹を膨らませなければなりません。食べるならやはりしっかり食べるべきではないですか。なぜ、適当にするのですか？ もし困難な時期であれば、少なめに食べてもかまいません。あなたの身体はまだ世間法で煉っているのです、世間法の中のもので栄養を供給する必要があります。そうでなければ、この身体は駄目になってしまうのではありませんか？ あなたの身体が高エネルギー物質に取って代わられる前に、食事をしなくていいのですか？ 美味しいものを食べても、心に執着がなければ問題ありません。

弟子：法輪大法を学ぶ人は、小動物を飼っても良いのですか？

師：佛家は殺さず飼わずを重んじていますが、道家もこのように重んじているかもしれません。道家は一部霊的なもの、亀などを飼ったりします。極めて高い次元においても、一匹二匹を護法として飼いますが、最も良いものを選ばなければなりません。あなたが煉功して次元が向上するにつれて、それらの動物は容易に靈氣を得ることができます。靈氣を得ても心性を重んじないので、悪事をして魔になります。

弟子：夜、一人で目をつぶって煉功する時、周りが静まりかえったら、とても怖く感じます。

師：皆さんに話しますが、現在は、どの空間でも法輪大法を知っています。法輪大法が常人社会で伝わり、多くの得体のしれない様々な空間のものも見てみたいと思っています。それらは奇怪な姿をしており、様々な形をしています。あなたがそこで煉功しているとそれらが会いに来たら、あなたは怖い感じがしてぞっとします。しかし私の法身がいるので、誰もあなたを傷つけることができないことを覚えておいてください。それらはただ見たいと思っているだけなのです。なぜぞっとするのでしょうか？ あなたの副元神が見たから、とても怖い感じがしたのです。実際には何の問題もありません。

弟子：法輪世界はどのような様子ですか？

師：あなたは極楽世界があるのを聞いたことはありませんか？ 法輪世界はよりいっそう美しいのです。

弟子：もし自分の肉親の間で業を償う関係があると知ったなら、どのように付き合うのですか？ どのように業を償うのですか？ どのように恩に報いるのですか？

師：いずれにしてもあなたが知ることはありません。常人のこういったことを人に知られることも許されないのです。修煉者が圓滿して、初めて知ることができます。その時、あなたはすでにそれらに執着しません。人にはそれぞれ天命というものがあるので、縁に従いましょう。

弟子：身体障害者にはどのように心を配って世話をしますか？

師：常人の中のことを私に聞いてどうするのですか？ あなたの両親を、あなたの子供をどのように世話するかも私に聞くのですか？ すべて常人の中のことです。私はここで法を説いており、高い次元へ修煉していくことを説いています。ただし身体障害者としてあまりにも楽をしすぎるなら、業を償いきれないので、来世もまた不具の身体になることがあり得ます。

弟子：上司の指示が誤っている場合、どのように対応したらよいのでしょうか？

師：これもすべて常人の中のことです。煉功者としてどうするかは、法の要求に基づいて行なうべきです。どのようなことにも因縁関係が存在しています。あなたは誤っていると思っていますが、本当は正しいのかもしれませんが。その人は上司なので、あなたにどうしなさいと言ったら、あなたはその通りにすればよいのです。もちろん、あなたに殺人や放火など、悪いことをさせるなら、当然あなたはやってはいけません。原則に反してはいけません。ただし、我々が言う原則の基準は、決して同じではありません。

弟子：煉功者が不意に間違ったことをしたら、先生の法身は知っていますか？ その

人を罰するのでしょうか？

師：もちろん知ることができます。もしあなたがよく修めていれば、その場であなたに啓示してすぐに報いを受けさせ、間違っただけをして生じた業を償わせます。もし、あなたがしっかり修煉できておらず、繰り返し問題を起こしていれば、いつもすぐ報いを受けさせてはいけません。誤ったら報いを受けさせ、また誤ったら報いを受けさせる、このようにあなたの悟性を高めるなど、とんでもありません。そして、このようにすることも許されません。

弟子：どうすれば、あなたの法輪と法身を我々に見せてくれるのでしょうか？

師：あなたは一体何を見たいのでしょうか？！ それは常人に見せるものですか？！ あなたはこんなに良くない執着心をもっていますが、佛が見える人はすでに果位のある人なのです。これは煉功者が出すような質問でしょうか？ すべて見えるなら悟りも存在しなくなり、修めることも許されなくなりますが、あなたが修められなくなるだけでなく、これほど多くの人までも台無しにさせたいのですか？

弟子：神通加持法を煉っている時に、時々頭が動くのですが？

師：動いてはいけません。絶対に動いてはいけません。余計な力を入れずにリラックスしてください。

弟子：私たちの煉功場でよく木の葉を燃やして煙が立ち上りますが、煉功を中止したほうがよいのですか？

師：公園の中で木の葉を集めて燃やしても煉功には影響しません。あまりにもけむたかったら、中止するか場所を変えてもよいのです。他には問題ないと思います。

弟子：日用品を壊してしまったら、業を造ると同時に徳も損なうのか、それとも業を造るだけで徳は損なわないのでしょうか？

師：釈迦牟尼は万物にはみな霊があると言ったことがあります。実は他の空間ではどのようなものもみな生きています。もし、あなたの天目が法眼通に達したなら、ドアを開けて外に出ると、きっと石や壁さえあなたに挨拶して、話しかけてくるのが見えます。ただ皆さんに教えますが、大局に着眼して堂々と修煉し、こういった小さなことに執着しないでください。人には人の存在方式があります。本当に大法を修める人は、一日のうちにとっても多くの業を消去することができます。故に業力は大法を修める人にとっては、それほど心配することではありません。

弟子：単手衝灌をする時、肩が手の動きとともに上下に動き、体全体も上下に動く人がいますが？

師：それは正しくありません。肩と体は力を抜き、動いたりしません。

弟子：家族が憑き物の功を練っています。忠告しても受け入れないのですが、どうしたらいいのでしょうか？

師：成り行きに任せてください。あなたが誰かの考えを左右しようと思ってもできません。できるのはただ善を勧めるだけです。せいぜい善を勧めることしかできないので、耳を傾けてくれなければそれまでです。師父は真に修める弟子のために環境をきれいに整理してあげます。それらの乱れに乱れたものが弟子の家に入ることを許しません。

弟子：友人から贈り物をもらうのは良いのでしょうか？

師：友人から贈り物をもらうというなら関係ありません。二人が仲良く、物を贈るのは自らの意識によるものでかまいません。

弟子：我慢できず心の中で人を罵ったり、自分を罵ったりしても徳を失うのですか？

師：自分を罵ったなら、誰に徳を失わせるのですか？ あなた自身に徳を失わせるのですか？ しかし、煉功者たるもの、人を罵ってはいけません。自分を罵っても、腹を立てることなので、忍ができなかったことになります。そうではありませんか？ 私たちは忍を重んじています。小さな子供や自分の子供に対しても、気の向くままにぶったり罵ったりすべきではありません。子供を躰けることは問題がないので、子供を教育しなければいけません。しかし、躰けるには方法を講じますので、子供を躰けるために自分が怒ってはいけません。本当に怒ってはいけません。

弟子：五、六歳の子供が私と一緒に煉功しているのですが、法を知らなくても上へ修められますか？

師：それなら子供にどのように良い人になるかを話してみましよう。物語を語るように先生がこのように言ったと話したらよいのです。教えておきますが、一部の子供はこの場で聞いてとてもよく理解できています。子供があなたより理解できていないと思わないでください。

弟子：私たち修煉者は、さらに佛教や道教の本の中の教えをくみ取ることができますか？

師：絶対にやってはいけません。絶対に駄目です！ そうすれば、乱れてしまうのではありませんか？ 法門を混ぜることになるのではありませんか？ 不二法門を講じるべきです。もちろんあなたが法輪大法を煉るのでなく、法輪大法の法理で、その他の功の練習を指導してもらえば問題ありません。当然、私が伝え出したこの法はあらゆる功にも指導作用があるので、あらゆる功もその通りに心性の修煉を重視していかなければなりません。

弟子：法輪大法の理を学んでからは、どのような心理状態で生活すればよいでしょうか？

師：様々な文化、スポーツ活動や常人の中のことあなたに参加したければ参加して

も、功に影響はありません。煉功するにつれて絶えず高まった時、こういったことをあなたはあっさりと考えるようになります。より高い次元まで修煉した時、これらもやはり執着だからです。しかし、今あなたに一気に放棄させようとしません。すべて放棄したなら、今日にでもあなたは佛になってしまうので、今はあなたも一気に放棄することができません。人は、情があるからこそ常人の好みがあるのです。

弟子：私が煉功する時、法輪大法の音楽の中から同時に規則的な鈴の音が聞こえました。これは何でしょうか？ それは副意識が作用を及ぼしているのですか？

師：そうではありません。他の空間からの音声です。このような現象は多くあるので気にしないでください。

弟子：煉功する時に観想を加えることはできますか？ または一脈が百脈を率いることで入静を促進することをしてよいですか？

師：意念はありません。我々は直接高い次元で修煉するので、できるだけ有為の意念をすべて放棄します。それなのにあなたはどんなものを加えようとするのですか？ でたらめです。あなたに我々のこの修煉法を乱させるわけにはいきません。あなたが加えれば、法輪は変形するに違いありません。我々は百脈が同時に通じると言っているので、一脈が百脈を率いるということをやりません。

弟子：世人の修煉が、ただ自分が覚者になるためだけで、他人のことを考えないなら、こういう人はどのような人でしょうか？

師：佛は人を済度できますが、佛は人を済度するために生じたものではありません。あなたは佛があなたを済度しなければならぬと思いますか？ 自身の解脱を達成できればと、羅漢はこのようにして修めて成就したのです。もし、あなたに衆生を普く済度しようとする願望があるなら、さらに続けて上へ修め、その次元に達してこそ、初めて世の人を済度することを実証し悟れるのです。済度するといいますが、どのように済度するのでしょうか？ あなたも私と同じように、このように話してこのよう

に行なうことしかできません。誰かの難をすべて消してその人を上へ持ちあげるなんて、その時になればあなたは分かりますが、その人を上へ持ちあげられないうちに、まずあなた自身が落ちてしまいます。それは絶対に許されないことです。また、修煉者は他人のことを考えなければいけないということもあります。すべて執着です。

弟子：先生は海外に行って説法をされる時、外国人にも法輪を植え付けてあげるのでしょうか？

師：真に修めるなら誰にでも植え付けてあげます。大法は宇宙のものであり、全世界の縁のある人はすべて学ぶことも得ることもできます。

弟子：中国伝統医学の医師は、鍼灸で病気を治療することができますか？

師：もちろんできます。それは常人の中の仕事です。

弟子：師父は講習会に参加するすべての人に法輪を植え付けてあげるのでしょうか？

師：いいえ、ここで学んでいるごく一部の人は、法輪大法を信じていないのです。疑いを抱いている人もいます。それに聞いているうちは良いと思いますが、結局修煉できない人もいます。

弟子：法輪は先生の法身によって回収された後、また新たに先生の要求に基づいて行えば、法輪はもう一度与えてくださるのでしょうか？

師：そうだとすれば、本当に心を改めて、初めから学ぶ人のように行わなければなりません。

弟子：先生の法輪を借りて学習者の病気を調整してあげられる、先生の病気も察知できると言う学習者がいますが。

師：それは魔の心による発言で、絶対に信じないでください！ そのように言う人は、絶対に法輪大法の弟子でないばかりか、深刻に大法を破壊しています。私は今まで病気とは何かを味わったこともありません。私の病気を察知できると言いますが、まず、その人が私の場に入って来られるかが問題です。

弟子：無為についてどのように理解すべきですか？

師：心性を守り、やたらと有為のことを行なってはならないことです。殺人や放火を見かけたらやはり関わらないと駄目で、それは心性の問題です。

弟子：煉功場で誰かに話しかけられたようなときは、私も心の中でその人と話をしてよいですか？

師：一部の功が開いたあと、修煉しにくくなると私は言ったことがあります、つまりこれが原因なのです。誰かに話しかけられ、または何らかのものが見えたなら、嬉しくなって自分を制御できなくなります。彼はその人と交流しますが、相手が魔であるかどうか分かりません。その人がたとえ魔でなくても正法修煉の覚者ではありません。その人がたとえ天上から来た者で、邪な者ではないにしても、正果を得ている人ではありません。さもないと、彼は正法を修める人を妨害するはずがありません。考えてみてください。その人のものを受け入れた時、あなたはまだ修煉できるのでしょうか？ あなたのものは乱れていませんか？ あなたに執着心が現れていませんか？ 人に機能が出たら制御しにくく、功が開いても修めにくいのは、つまりこういう原因です。とても難しいことです！ いったいどれくらいの方が修煉して成就できるのか、私も天上も見ているのです。

済南での説法 質疑応答

李 洪 志

弟子：煉功中に突然人を罵る言葉を思い付くのはどういうことでしょうか？

師：それはあなたの一つの良くない元神、あるいは思想業の影響によることです。憑依されてそうなる人もいます。他の功法を混ぜ合わせて煉ると、大抵このようなことになるでしょう。混ぜて煉ることをせずに、純粹に法輪大法を煉る人には憑き物はなく、大半は思想業の作用によることです。

弟子：一生懸命に修煉すること自体、ある種の執着ですか？

師：修煉するのは執着ではありません。修煉するのは返本帰真して、人の本性に戻ることで、それはあなたの本性なので執着ではありません。しかし、いつもあなたが佛を修め、圓滿成就したいとか、今日はどのくらい向上したいとか、私はいつ佛になれるのか、いつもこのように思っていたらこれは執着です。「煉功する心があればとて、功を得る心無し」なので、ただ修めるだけで、このような願望があれば結構です。

弟子：講習会に参加したことのない人が法輪大法を学んだら、先生の法身は彼の身体を乳白体の状態になるまで浄化させ、気機も得させますか？

師：講習会に参加しない人は私たちの学習者ではないので、私がおその人を構ってどうするのですか？勝手に常人を構って全中国の人々にすべてこのようなものを植え付けて、それでいいのでしょうか？自分で功を学び、本を読んで学び、録音テープを聞いて学べば、得ることができるかどうかのことですが、皆さんに教えますが、将来功を学ぶ形式はこのようになります。なぜなら、あなたを私の法身が見守り、私の本の中にも、ビデオテープや録音テープにもみな私の法身がいるので、本当に修煉者の基準に従って行なうなら、みな得ることができます。ただし必ず本当に煉功者の基

準に従って修めて、初めて得ることができるのです。身体を鍛錬したいだけで、高く修めようと思わなければ、得ることはできません。

弟子：私は新しい学習者です。一カ月あまり煉っていますが、唾が出なくて舌を上あごにあてがいにくいのですが、ご教示をお願いします。

師：功を煉れば、何でもすぐに変えられるとは限りません。あなたの心性はどうですか？ 煉功者の状態に達したいと思うなら、自分を変え、心性から変えなければなりません。法輪大法を煉っているのに、どうして病気が良くならないのかと言う人がいます。あなたは常人の中でまだ常人でありながら、動作だけをちょっと煉って、すぐに良くなりたいと思っても、それは可能でしょうか？ 目的が正しくなければ、効果も違ってきます。

弟子：煉功に意念を加えると、法輪が変形することになりますか？

師：他の功法の意念を加えると、法輪は変形するに違いありません。あなた自身の乱雑な考え方は、常人の執着心に属するもので、法輪が変形することはありません。ただし、もし他の功法の情報を加えたりすると、手の動きだけでなく、もし思想の中にこのような意念の導引や呼吸、あるいはその功法の考えを加えると、いずれ法輪が変形することになります。修煉は厳粛なことなので、必ず専一に修煉しなければなりません。

弟子：千年前にすでに円寂した和尚の肉体がずっと腐らないのは、やはり高エネルギー物質によって転化されたからでしょうか？

師：実際、すでに高エネルギー物質によって転化されました。佛教では涅槃を重んじ、身体を持って行くことを重んじないので、その身体はもう必要ないのです。もしその身体を必要とするなら、その身体はすでに高エネルギー物質によって転化されたのです。例えば、九華山には三人の和尚がいて、その肉体が数百年ないし千年経っても腐らないのは、すでに高エネルギー物質によって代えられているからです。その人はも

う常人の身体ではなくなったので、腐ることはありません。

弟子：元嬰を煉り出せる功法は、すべて正法ですか？

師：そうとは限りません。一部の功法は、はじめは邪法ではなく、最初の時は比較的良かったのですが、心性を修めなため、だんだん邪なものに変わってしまいました。それからその元嬰は溶けてなくなるかもしれず、なくならなくても非常に邪悪なものになります。功の出かたで見てはならず、どんなものが出るかによって判断してはいけません。どんな功法も心性を修煉しなければなりません。

弟子：下腹部の法輪は、来世になっても身に付いているのでしょうか？

師：私たちは来世のことを言いません。私たちは常人社会の中で、功を開き悟りを開く目的に達するよう要求します。教えますが、高い次元に達してもさらに修煉することができますが、普通の常人が一定の次元にまで修煉して功が開いたら、止まってしまい、それ以上煉っても功は伸びず、それくらいの高さで止まります。しかし、極めて特殊な状況の下では、その空間で演化して煉り、功を伸ばすこともあります。将来、あなたが自らの法輪を修煉して出せるようになると、その法輪は永遠に働き、永遠に身に付いていきます。

弟子：先生はよく「真修」の二文字に触れられ、講義の中でも「真修弟子」について話されています。先生、解釈をお願いします。

師：「真修」とは、すなわち真正に修めるということです。このような意味です。

弟子：「三花聚頂」の状態に達した時、頭上に二輪の花しかなかったのは、どうしてでしょうか？

師：そうだとすれば「三花聚頂」ではありません。功が現れる状態は様々で、あまりにも多すぎます。私が歩いて来たこの道は、初期あるいは非常に浅い次元では、その

功の変化形式は幾千幾万という形があり、覚えきれず、私もそれを覚えようとはしません。それぞれの次元の身体の変化形式もやはり同じではないのです。

弟子：下腹部で生まれる形象は元嬰ですが、胸部にある形象は何でしょうか？

師：あなたは何か他のものを練っているのです。煉功者が本当に修煉して何もかも放棄する時、私の法身はきっとあなたを助けてうまく処理します。もちろん功が出る時、表皮の表面に佛の形象が現れ、多く現れ、動くこともできます。それは物質的な存在であるため話ができ、動くこともできるからです。当然それはみな正常なことに属します。

弟子：もし誰かが学習者の金銭や物品を盗み、危害を加えようとする時、法輪大法は作用を発揮しますか？

師：すべてのことには因縁があります。あなたがお金をなくしたとしても、法輪が関わらないのは、おそらく原因があるかもしれません。法輪を使ってあなたの財を盗んだ人を懲らしめてやろうと、あなたはこう思っているのではありませんか？ それではいけません。あなたはその人に借りがあるかもしれないので、自分が損をした時、法輪を使ってその人を懲らしめるなどしてはいけません。そうすると、私は邪法を教えることになるのではありませんか？ このような考えを働かせないでください。修煉する人は私の法身が見守っているのです、守るべき時にきっと守ってくれます。

弟子：佛経をどう思われますか？

師：本当の佛経、釈迦牟尼が説いた経を私は認めています。しかし釈迦牟尼佛は、すべての経書の中に、本当の彼のものは十パーセントもないと言いました。

弟子：私はある古代の陵墓に行って見ましたが、陵墓を見に行くのは法輪大法に対して影響がありますか？

師：影響はありません。しかし、こういったところにはできるだけ行かないほうがよいのです。これらの所の陰気はとても重いからです。その他に、どう言いましょうか、清くないところには私たちも行きたくなく、いろいろな良くないものがあります。なぜならそれが墳墓だからです！

弟子：夢の中で、一匹の蛇が衣服の中にもぐり込んで来たので、私はそれをねじり殺しました。これは私の心性を試練するための先生の按排でしょうか？

師：こういったものがもぐり込んで来たところを殺したのは正しいことです。これらの悪いものが憑依しようとしています、これこそ魔です。人類社会は今日まで発展し、それらにあまりにも酷く妨害され、気功界もひどく乱されています。寺の中もやはり同じように、こういった類いのものが蔓延っています。

弟子：法輪世界は元からあるものですか、それとも新しいものですか？

師：元からあるものです。あなたは想像がちょっと多すぎます。

弟子：気功で病気治療をするのではなく、按摩や鍼灸などの手段を用いてはどうでしょうか？ 気功書を除いて『山海経』や『黄帝内经』などのような本は読んでよいのでしょうか？

師：あなたはまだこれらの心を放下することができていません。読む目的は何ですか？ これらの本は大法を修煉する本ではないのに、それを読んでどうするのですか？ その中から何かを得ようと思っているのですか？ そうでなければどうして読むのですか？ その言葉が素晴らしいと思ったなら、すでに受け入れたことになり、あなたの功も乱されることになります。昔の佛教や道教では、なぜ経書以外のいかなる書物にも触れさせなかったのでしょうか？ 彼らのものが乱されるのを恐れていたからです。あなたが着実に修めることを守るため、このような問題に厳粛に対処しなければいけません。あなたの根本的な問題を解決してあげないといけません。では、なぜあなたは厳粛にこの問題を見て、その心を放下できないのでしょうか？ 私はこ

のような道理を話しています。修煉したくなく、ただこういったものを研究したいのであれば、自由に読んでください。私は常人に読ませないわけではありません。按摩や鍼灸をしてよいかどうかについては、あなたが漢方医であれば、それを行なっても問題ありません。もしあなたが医者ではなく、そのうえ大法を煉っており、病気を治療したいだけなら、そのような執着心は放下しなければなりません。

弟子：法輪大法の学習者には、先生のほかに上師がいるのですか？

師：法輪大法の学習者の中に、先生と呼べるような人はいません。いずれも学習者でみな弟子です。みな学びながら修めています。将来、功を開き悟りを開いた後でも、佛家のそれぞれの次元での呼び方で呼ぶのです。法輪大法には、ほかの上師はいません。

弟子：私たちの本当の母親は誰でしょうか？ 彼女は私たちの共通の母親ですか？

師：あれやこれやと妄想を巡らせ、あなたたちはどうして私と同列に論じられるのでしょうか？ 生命には二種類の源があります。一つは、宇宙の各次元の様々な物質の運動の中で生じた比較的原始のもので、ずっと今日まで生き続けています。宇宙の運動の中でさらに生命を生じさせることができ、まだ生じています。故にそれほど長くない生命もあり、歴史が非常に短い生命もあります。もう一つの形式は、それぞれの次元で最初に現れたそれらの高級生命が生んだ人です。このような人は私から見ると比較的幸せであり、彼には母親がいるからです。先天的に生じた生命は母親がいないので、母親がいることを非常に羨ましがっています。

弟子：正道の大法を求めるため、あちこちに先生について行き、講義を聞いてもよいでしょうか？

師：私についてあちこちに行って私の講義を聞く人がいますが、法を得るためなので、私もその心には反対できません。しかし、着実に修めることを皆さんは忘れてはいけません！ いつまで経ってもこのように私について行き、講義を聞くだけでは駄目で、

あなた自身の心性を実際の修煉の中で練磨し、着実に修めなければいけません。私についていけば難がないと思っている人もいますが、それならあなたは何を修めるのですか？ また、私が山に入ると思って私について山に入って修めようとする人もいます。そうすると、あなたは副意識を修めることになるのではありませんか？ 二種類の修煉形式があり、あなたは自分を向上させ、この修煉過程を完成させたいと思うなら、必ず常人の中で一步一步確実に修め、法をよく勉強しなければなりません。

弟子：人類の起源についてお話していただけますか？

師：一字一句はすべて知識を探求しています。あなたはやはりこのような心を放下してください。私は人類の起源についてすでに話しました。生命は、宇宙空間の中で最初の物質運動の下で生じたのではないのでしょうか？

弟子：形神全滅された人にとって、彼の元神はまだ存在するのでしょうか？

師：形神ともに全滅されてしまうので、まだ何が存在するのですか？ まるでこの宇宙で彼は存在したことさえなかったかのようです。しかし、全滅される過程で苦痛と後悔は極まりないものです。我々の空間において、すぐに死んだように感じますが、消滅される時間場の中では、実に果てしなく長い時間を感じるのです。

弟子：年配の女性に再び生理がくることは、妊娠する可能性もありますか？

師：煉功するうちに身体が若い方向に転化するの、あなたの命を修めるため、決して常人の生活を送るためではありません。しかし、この問題も絡んでくるかもしれません。なぜなら身体全体が若い方向へ転化するので、これらのことに注意しなければいけません。

弟子：法輪大法を広める時、先生の説法の中の言葉を指針とすべきなのか、それとも先生が話された真・善・忍の法理を指針とすべきなのでしょうか？

師：私の法とはつまり私が話したもので、同じものです。私が話したものはつまりこの大法の中のものです。私がここで話しているものは個人の観点を話したわけではないので、皆さんは大法を広める時、本の中にはこう書いてあるとか、先生はこう話したとか言うべきです。最も良いのは本を読むことです。私の話をあなたの言葉として話してはいけません。そうすると、効果がないばかりか、法を盗む行為にもなります。ただし、自らの体験を話すのはかまいません。それは法とは別のことです。

弟子：人々には蜃気楼が見えますが？

師：私に言わせると、それは様々な条件が重なって現れた、他の空間の形象です。あちら側の建築も古風なものばかりでなく、現在のような建築物もあります。しかもあちら側の空間には移動できるものもあります。

弟子：善意の嘘をどのように思いますか？ 例えば誰々さんが病気で危篤なら？

師：もし彼が癌になって、あなたは彼に本当のことを話したくないのなら、それはやむを得ないことかもしれません。あなたの出発点は人のためだからです。当然、高い次元に達してから、あなた自身はその関係に正しく対処できると思います。病人に対して嘘は言うべきではありません。病人の苦しむ姿を見たくないのは、常人の中の理ではありませんか？ 高い次元まで修煉した後、そのようなことではないと気づきます。苦痛は業を消去させ、来世は楽になります。

弟子：尊敬と感激から、私たちは佛や菩薩と師父の法身に線香をあげて供養するのは、執着心と言えますか？

師：その一、それは尊敬の気持ちです。その二、実は人々はみな、それは形式上のものだと思っていますが、焼香が終わって立ち上った煙は、あなたが見たのは我々のこの空間の煙ですが、他の空間にも煙が生じます。こちら側で物質が消えたら、すぐにあちら側で生じるのです。彼らはこのようなものを使って彼らの法を演化させるので、供養するのは敬意だけでなく、このような一層の関係もあります。供養がもしそうで

ないのなら、どうして供養と言うのでしょうか？

弟子：煉功者の身体に現れる佛の形象とはどういうことでしょうか？

師：正常なことです。功というのはこのようなもので、初期には米粒よりも小さいのですが、その後、ますます大きくなります。なぜなら身体の中の層の粒子も変わらなければならない、最後には佛体になるからです。

弟子：先生、法輪世界のことを話していただけませんか？

師：一部の学習者には見えたのですが、そこには山や川があり、高殿や東屋があります。詳しく知りたければ、修煉してください。

弟子：大法を伝えて衆生を普く済度する一部の大覚者のことは、なぜ昔から聞いたことがないのでしょうか？

師：釈迦牟尼佛は、如来佛がガンジス川の砂の数ほど多いと言っています。一つ一つみな話すことができますか？ あなたが知るべからざることは、きっとあなたに知らせないのです。常人が何もかも知ったら、それは逆になるのではありませんか？ あなたが佛になって、彼らが常人になることになってしまうのではありませんか？ 常人がどうしてそれほど高くて奥深いことを知ることができるのでしょうか？ 昔は、如来を越えたことは人に知られてはいけなかったのです。しかも法輪世界はこの宇宙に存在していません。実は、釈迦牟尼佛は私たちのことや私の昔のことを話したこともあり、記載されているものもあれば、記載されていないものもあります。

弟子：憑依された人が、我々の功を散らしてしまったらどうしますか？

師：功を散らすとはどういう意味ですか？ それにはそんな能力はありません。あなたがしっかりせずこういったものを招いてしまい、自分が欲しければ、それは別の事柄です。あなたの心が動じなければ、それらはあなたを害することはできません。心

の中で恐れているならそれこそ執着であり、大法に対して確固としていないということです。私の法身は、確固として大法を修める人にしか責任を負いません。

弟子：普段目を開けていると、周囲に大小の法輪が回転しているのが見えるのですが、目を閉じた時には見えません。これはなぜでしょうか、どのようにしたらいいのでしょうか？

師：目を開けていても閉じていても同じで、それは見る時の一種の習慣です。慣れればどちらでも見えます。

弟子：奇門遁甲や祝由科を研究することはできますか？

師：祝由科は低い靈魂や鬼や神などの類いに属するもので、大法を修めるあなたがそれを研究してどうするのですか？ 周易や奇門遁甲をあなたは研究したいのなら研究してもよいのですが、私に言わせれば、大法の弟子としてそれは適切ではありません。これらのものの一部は術類のものであり、一部は道家の最も低い次元のものです。どうすればよいか、あなた自身で判断してください。

弟子：佛教では「放生」を重んじています。放生すると災いを消失させ、長寿できると思っていますが……？

師：こういったことはどれも有為なことで、修煉ではありません。そして放生してもしきれず、中に寿命のくるものもあり、意識的にこのようなことをするのはつまり執着心です。私たちは無為を重んじますが、なぜあなたはどうしてもこれら有為のことをしたいのでしょうか？ 鳥や魚を捕獲し、それらの人たちはもっぱらこういうことをするのです。誰かがそれを買って放したら、その人はまたそれを捕まえに行きます。あなたがそれを全部買ってあげて放生すれば、その人は明日また捕まえに行きます。あなたはそれでもまた買って放生しますか？ その人を助けて悪事を働くことに等しいので、私に言わせると、できればこういう事をしないでください。現在、佛教の中でもこういう有為の事を行っています。釈迦牟尼が当時法を伝えた時、それらの形式

はなかったのです。

弟子：私はある功を練るのを止めたので、掛図を燃やそうとしましたが、練りたい人に持っていかれました。それは良くないと分かっているのに、人にあげたのは不道德ですか？

師：その人がどうしても欲しくて、すでに持って行ったなら、もうあなたは関わらなくても良いのです。人にあげるのは当然良くないことで、そのものはまた人を害します。

弟子：家にある師の法像には、時にきらきらと光る大佛が現れ、時には先生の表情がとても厳しいのですが？

師：その通りです。あなたが良い事をした時には、私の法身も喜ぶように見え、あるいは光を放ちます。あなたが悪い事をした時、法身は非常に厳しくなります。

弟子：親友が邪法を信じていますが、忠告して止めさせてもよいでしょうか？

師：止めさせてよいのです。邪道に入ろうとする彼を止めるのは、あなたが人を救っているのです。どうしても彼が信じるなら、無理に止めないでください。その人に任せておきましょう。

弟子：副意識が立ち去った後、主意識はどんな状態に置かれますか？

師：副意識が立ち去った後は、あなたには分からず、どんな状態も起きません。

弟子：色欲の関を越える時、ぶり返しが起きることがありますか？

師：そうです。きっと起きます。一度で超えられなければ、きっとぶり返しが起きます。あなたは今とても良く守っていますが、将来はどうでしょうか？ また試練され

ることがあるはずですよ。

弟子：法輪大法の学習者は講習を修了してどれくらい経ってから、初めて男女が同居できるのですか？

師：夫婦に別居しなさいとは、私たちの講習会でも言っていませんよ！ この心を淡々として、生活の面では、今は正常な生活を保っていればよいと私は言っています。今はあなたにそのようにしか要求できません。学んだ後、あなたたちはみな和尚になろうとして、和尚でない和尚、尼僧でない尼僧になろうとすると、煉功しないあなたの配偶者はきっと離婚を言い出します。法輪大法の弟子はみなこのようになってしまうのですか？ つまり、あなたはあまり重く考えないでください。これから次第に向上すれば、どのように対処するか、あなたはきっと分かるようになります。

弟子：私は子宮の摘出手術を受けましたが、煉功に影響がありますか？

師：影響ありません。こちら側の物質空間の身体ではそれを取ってしまったのですが、あちら側では取っていません。

弟子：心性の修煉で一定の段階に達したら、いかなる良くない念も生じてはいけなのではないでしょうか？

師：心性の修煉の全過程で、あなたの良くない思想と様々な欲望を取り除いています。もし、修煉過程においてそれを全部取り除いて、どんな悪い思想も生じなくなったら、あなたの修煉も最後のところまでたどり着いたことになるのではありませんか？ あなたはすでに圓滿成就になったのではありませんか？ 故に、修煉過程において、また現れることがあります。良くない考えが突然現れてくるのも正常なことです。しかし、これらのものに注意しなければならず、それを排除するように注意しなければなりません。

弟子：法輪大法の学習者は、墓参りや危篤状態の重病人を見舞うことができますか？

師：どうしても見舞いに行きたいのなら見舞いに行ってもよく、家族の中に墓参りに行く人がいないなら、あなたが行ってもかまいません。ただし、あなたの次元が非常に高く、エネルギーが非常に強いときに、あなたが行くとそれらは恐れて、遠くまで突き飛ばされます。

弟子：私の孫は八歳の時に天目が開きましたが、九歳あまりになってまた閉じてしまいましたか？

師：子供が自分をしっかり制御できなかつたり、あるいは家の大人が注意せず、よく子供にあれこれ見るようにさせ、子供の執着心を増長させたりすると、とても簡単に子供を駄目にするのです。教えますが、私の見るところでは、煉功する子供の多くは、とても根基が良いのです。あなたは彼を駄目にはいけません。あなたは上まで修められないばかりか、さらに彼を駄目にする、あなたの罪はとても大きなものになるのです。

弟子：学習者は悪人から暴行された時に、殴り返してもよいのでしょうか？

師：本当に修煉している人は、こういう事に出くわすことはありません。修煉に対してプラスにならないことは、あなたには按排しません。

弟子：家族が法輪大法を学ぼうとしているのですが、まだ学び始めていません。録音テープを聞かせてもよいでしょうか？

師：法輪大法を学ぼうとする人なら聞いてもよいのです。勝手に大法を信じない人や大法を破壊する人に聞かせたり、責任を負わずに誰にでも聞かせたりするなら、私に言わせると、それはいけません。下手をするとカセットが壊れたり、テープの内容が消されるかもしれません。

弟子：先生の教えるこの功法は、どうして九回行なう必要があるのですか？

師：佛家は「九九帰真」を講じます。私たちのこの宇宙は、現在、九回の壊滅が発生し、また新たに組み合わせられました。この宇宙の中の多くの事はみな、九という数字を最も大きな数字としているのです。

弟子：身体と頭部に固定した法輪があり得ますか？

師：下腹部以外に、固定した法輪はどこにもありません。あなたの肩の上や頭の上にある法輪はいずれもあなたの身体を調整するもので、あなたにあげたものではありません。身体の調整が終わった後はもう必要ないので、すぐに去って行ってしまいます。本当あなたにあげたものは、下腹部のそれだけです。あなたは今後煉功し続ければ、自分のものまで煉り出すことができます。

弟子：天目が開いた後、たくさんの先生の法身が見える人がいますが、家の中にいる法身は一つしかあってはいけないと言う人もいます。

師：そうとは限りません。私の法身は実に多くて数えきれず、あまりにも多いのです。

弟子：坐禅する時に自分の過ちを深く考えたり、古訓を考えたりするのはどうでしょうか？

師：その古訓は修煉の法理ではないので、あなたはいつまでも古訓古訓と考えないでください。古代の人が話したことは必ずしも真理とは限らず、この宇宙の特性だけが人の善悪を判断する唯一の基準です。古代の人が話した善や悪も常人の中の基準です。もちろん、一部の人や聖人が話した高次元の哲理を考えても構いませんが、あなたはこれらのものに執着しないほうが良いと思います。大法を修めるなら、私の法の指導に従って行なわなければいけません。

弟子：天目の開いた学習者が先生の法身と会話し、先生の法身はたまに冗談も言うといいますが？

師：それはあり得ます。冗談あるいは逆の意味の言葉を話してあなたに悟らせますが、直接何かの法を言ってあげたり、何かの事をしてあげたりすることはありません。

弟子：もし心性の関を乗り越えられなければ、法輪が変形することはありませんか？

師：心性の関が乗り越えられなくても、法輪が変形することはありません。法輪と関係はありません。法輪が変形するのは、他の功法を混ぜ合わせて練ることでもたらされることです。

弟子：法輪大法の拠点はいつ建てられるのですか？

師：まだその予定はありません。法輪大法の拠点が将来作り上げられたとしても、やはり専修弟子や出家者によって管理されることになります。同じように金銭に関わってははいけません。

弟子：先生の法身と功身には、どのような本質的な違いがありますか？

師：あなたたちには功身がありません。私の功身は今の私の姿かたちと同じで、功によって構成されたものです。法身は私の体内から生まれ、功と法によって構成され、法身の姿かたちは、髪の毛が藍色でカールして、黄色い服を着ています。功身は私と同じ姿かたちです。

弟子：私の運命の中には結婚の縁がないようですが、常人の生活を経ていない人は、いつまでも正果を得ることができないのでしょうか？

師：そんなことはありません。もともとあなたがこれらのものを放棄できるならば、形式上からも、これらのものを放棄してよいのです。私があなたに教えたのはつまりこういう意味です。肉食のことについて話したように、もともと肉を食べない人は食べられるか食べられないかの状態にかかわらず、彼はやはり肉を食べません。それで

も結構です。食べないなら食べなくても構いません。これに対して執着しないでください。

弟子：私の五歳の孫は煉功していませんが、自分の両眉の間の少し上のほうで法輪が回っているのが見えますが？

師：先ほど話したように、多くの煉功者はここに入ること自体が縁なのです。子供を連れて来た学習者もいます。多くの子供は根基がかなり良く、この法を得るために来たのです。一部の子供は根基が相当優れており、得るべきものをすべて得られます。一人が法を得れば、家族全員が受益します。

弟子：午後に先生が講義された時、体育館の大ホールの中央に、顔の見えない巨大な人が二人そこに立っているのを見えましたが？

師：それは私の功身です。

弟子：夢の中で先生が私に両手の衝灌を教えているのを見ました。

師：それはすなわち私の法身があなたに煉功を教えたのです。

弟子：夜に法輪大法を煉る夢を見たのですが、副意識でしょうか？

師：あなた自身がそこで煉っているとはっきり分かっているなら、あなたの主意識が煉っているのです。

弟子：事によっては抑えて耐え忍ぶことができましたが、心の中ではやはり不満が残っています。

師：表面では耐え忍ぶことができたのですが、心の中ではまだ放下してないので、それもいけません。皆さん知っているように、羅漢という次元に達した人は、どんな事

に遭遇しても心にかけて、常人の中の一切を全く気にとめず、いつもにこにこしています。どんなに大きな損をしても、にこにこしているのです。本当にそれができれば、あなたはすでに羅漢の初級果位に達しています。

弟子：法輪大法を煉るとともに、スポーツトレーニングを行なうことはできますか？

師：できますよ。練習したければ練習してもよいのです。今あなたが何もかも放下できるなら、修煉が成就したことになるのではありませんか？ 煉功を続けるにつれ、あなたは自ら一部の事を気かけなくなり、やろうと言われてもやりたくなくなります。

弟子：静功を煉るときに蚊に刺されて、手で搔いてもよいのですか？

師：搔いてもかまいませんが、できるだけ搔かないほうがよいのです。煉功している最中に搔いたら、身体の気機が乱れることになります。実際にこれはみな魔の妨害に属するもので、気かけないでください。業を償うのに、それは良いことではありませんか？

弟子：法輪大法を煉ったら、太極拳をすることができますか？

師：できません！ 太極拳はすなわち気功なのです。太極拳だけではなく、太極剣や八卦拳、形意拳などもすべて気功に属します。それでも練りたいと言うなら、練っても結構です。私は本当に学習者に責任を果たすために、このように要求しているのです。高い次元に向かって修煉するには、専一でなければなりません。どうしてもそれを練りたいと思うなら、練ってもよいのです。それで本当に成就できるならそれでも結構です。あなたに法輪大法だけを修めさせようとしているのではなく、私はあなたに専一という問題、厳粛に修煉のことに対処しなければならぬと教えているだけです。太極拳も優れたものですが、その「心法」という部分は伝え出されていないため、身体を健康にすることしかできず、修煉することはできません。

弟子：最も低い次元で悟りを開いたら、法輪世界へ行くことはできますか？

師：低い次元で、とても低い次元で功を開くなら、法輪世界へ行くことも、より高い次元へ行くこともできません。なぜなら、彼らはこの高さまでしか修められないからです。

弟子：労働組合に勤めており、仕事の中で出向や人事異動に関わる人が多いので、どうしたらよいのでしょうか？

師：どの階層にいても良い人になることができ、煉功することもできます。どんな仕事をするかは常人の中の事です。職場の規定に基づいて処理すれば間違いないと思いますが、問題を処理する時には、できるだけ善意を持って、人のために考えます。あなたは大法に従って行なっていけばよいのです。これらの具体的な問題まで私に聞いて答えを求めるなら、あなたはどのように修めるのですか？ 何を悟るのですか？

弟子：私の同僚と家族は講習会に参加したことはありませんが、彼らは日頃古い学習者と一緒に煉功してよいのでしょうか？

師：自分を煉功者と見なすなら、得るべきものがすべて得られます。今日講習会から帰っても、自分を煉功者として見なさなければ、あなたは何も得ることはできません。

弟子：法輪大法を煉るには、どのような活動を禁止すべきか、どのような活動に協力してよいのですか？

師：悪いことを何よりもまず禁止し、常人の中で自然に修煉し、故意にトラブルを作り出さないようにします。法を広めることに有利な活動に、協力してよいのです。

弟子：寺で佛事を行なうのは、どういうことですか？

師：それは宗教形式なので、私たちと関係ありません。

弟子：どの程度まで修めれば、法輪世界に入ることができますか？

師：修煉が成就してからです。

弟子：法輪大法を煉ると、ディスコで踊ってもよいですか？

師：あなたが絶えず高まるにつれ、ますますそれは面白くないと感じます。そして最後には、こういったダンスは魔性を帯びていることに気付きます。

弟子：煉功する時に、自分が非常に小さいと感じる人がいますが？

師：そうです。もともと元神が小さい人がいて、元神が泥丸宮の中にいるとき、とても小さく感じます。しかしこの身体は大きくなることもでき、時には自分がまるで天に届くほど大きくなるとも感じます。どれも正常なことです。別の空間の身体は変化することができるのです。

弟子：ほんの小さな事でもかんしゃくを起こす人がいますが、功は伸びるでしょうか？

師：小さな事でも乗り越えられなかったら、それでも功が伸びると思いますか？ 私たちは自分を煉功者に見なさなければなりません。たまに小さな事で怒っても、あなたにあまり影響しませんが、いつもこのようではいけません。あなたは向上しなければなりません。

弟子：『文芸の窓』第四号と、先生の大法の観点は一致しますか？

師：それと私の法を同列に論じることはできません。私の法とはすなわち、私が話した内容に基づいたもので、他のものは何もありません。『文芸の窓』は、文学や芸術の角度に立って書いたのです。芸術は、実人生に由来しながら実人生を超えると言わ

れ、何かのものを原型にして少し誇張するとか、その手法を使って表現するなどします。皆さんはくれぐれもそれに照らして煉らないでください。それに指導されてはいけません。それは芸術作品なので、中には虚構のものがあります。修煉するなら、この法の指導に従ってください。

弟子：先生はチベット密教の経典を読んだことがありますか？

師：チベット密教はまったく読みません。漢地の佛教経典も読みません。

弟子：静功を煉る時に両手で結印すると、顔と肩は緩めることができません。結印をしなくてもよろしいでしょうか？

師：両肩を緩められないことは正常なことで、エネルギー流がぐるぐる流れる時、一種の磁力が生じて、吸い付くことになります。結印しなければ駄目です。やるべきことはしっかりやってください。結印しなければ、このようなエネルギー流が発生しません。このエネルギー流が通らないなら、どうやってあなたとあなたの功を演化させるのですか？

弟子：以前の気功の本はどのように処理すればよいのでしょうか？

師：どうすればよいか、あなたが思うように処理してください。あの魔は、徹底的に消したほうがよいと私は思います。

弟子：先生は何々の佛に代わって事をなすことがありますか？

師：私には私の事があり、彼らには彼らの事があるので、誰も代わりになることはできません。法を伝え、人を済度するこの事は、誰かが代わりにできるものではありません。

弟子：私は煉功の時に続けてあくびが出ますが？

師：あなたの頭を調整する時に起きる現象ですが、あるいは煉功する時、多くの気が衝き上げる時にも、このような状態が起きることがあります。とても正常な状態です。

弟子：神通加持法で手印を結ぶ時、前腕に力を入れるのですか、それとも腕全体に力を入れるのですか？

師：手印を結ぶ時の特徴は、前腕が上腕を率いて動きます。しかし道家功法の多くは武術から由来したため、その動作に上腕が前腕を率いて動くことが多いのです。手印を結ぶ時は前腕が上腕を率いて動き、前腕をまわす動きに合わせて、上腕を動かしているのです、前腕により力を入れます。

弟子：寝ている時に、機に従ってはっきりした動作をやっていました。打ち出した手印はとても綺麗なものですが、これはどういう事でしょうか？

師：これは歓喜心がもたらしたことです。もしあなたの動作が我々法輪大法の動作でないなら、すぐに止めてください！ ほかでもなく魔があなたを妨害し、あなたの功に変なものを加え、あなたを駄目にさせようとしているのです。それゆえ、私が教えていない動作をしてはいけません。あなたに教えますが、大手印をくれぐれもやらないでください！ するなら、魔はあなたを妨害し、からかって、害し、功の中にものを加えているに違いないのです。歓喜心を起こさないでください。こんな小さな事においても自分を制御できなければ、将来、功が高くて能力が大きい人を見て、すぐについて行ってしまい、あなたは台無しになってしまいます。

弟子：正果とはどんな意味でしょうか？

師：正果とは、正法の中で修煉し功成って圓滿成就すれば、すなわち正果を得ることです。正果には果位の区分があり、羅漢果位、菩薩果位、それに佛果位、すべて果位と言います。

弟子：夢の中や入定の中では、菩薩の真偽、あるいは法身の真偽をどう見分けるのですか？

師：偽りの法身ならば、どのように変化しても私に似ることはできません。あなたが注意して見てみると、似ていないことに気づきます。それほど似るようには変化できません。どうしても識別できないなら、私の名前を呼んでください。菩薩のことなら、難しくなります。

弟子：輔導員の間で団結せず、トラブルが起きる輔導站もありますか？

師：我々法輪大法の中では、このような現象は多くないようです。輔導員の間で異なる見解があることは、心性を向上させる機会でもあります。私たちは団結などの言い方はしません。心性を修煉し、自らが修煉することを重んじ、よくできていないのであれば、その人個人の問題です。人に対して怒ったり、人の悪口を言ったりするのも、善し悪しはすべて自分にあるので、そのようにする人は自分を修めているとは言えません。そのようにする人は心性が良くなく、少なくともこの問題において、彼はよくできていません。

弟子：私は古い学習者です。今回の講習会で突然、私に法輪大法を放棄させようとするある種の力が働き、良くない考えが生じたのですが？

師：そうだとすれば、あなたがそれに勝ったということです。そのような状況が発生する前後に、必ず大法を修煉する意識を確固とし、自分を見分けて、そういうことは思想業力や憑き物がやったと、はっきり認識してください。それが自分ではないと見分けられると、私の法身があなたを助け、それらを取り除きます。

弟子：集団煉功と個人での煉功の効果は同じですか？

師：同じです。集団煉功は主に皆が一緒に切磋琢磨し、向上が速くなります。さらにあなたの煉功の意識を強化することもできます。一人で煉り、門を閉じて煉れば、皆

さんとの交流から遠ざかることになるのです。このようですが、実はどちらも同じことです。

弟子：自分の煉功が人に理解されないのですが、我が道を行くということは、よろしいでしょうか？

師：少なくとも人に理解してもらってください。いつも常識を逸脱する言動をしてはいけません。この問題に注意すべきです。常人の中であなたは常人と同じようにして、表面上は人と変わらないように注意してください。ただ自分の心の中で修煉して、あなた自身が向上しているだけです

弟子：下腹部で両手を重ねる時、手と手が触れると功が減少しますか？

師：手と手が触れてはいけません。功が減ることはありませんが、機が乱れやすいのです。あなたが煉功するのは気機を強めるためです。

弟子：坐禅した後で精神が不安になり、性格もこもりがちに変わったのですが？

師：このような状況が現れた場合、あなたは大法の修煉に動揺せず、自分をしっかり制御して、同時に自分と思想業力をはっきり見分けてください。

弟子：法輪大法を煉ってしばらく経ってから、足がますます硬くなる感じがするのですが、どういうことでしょうか？

師：二種類の状況があります。一つは、学習者が煉功している時に間違っただけをされたからです。もう一つは、長い間、煉功だけをして、煉功者の基準に従って行なっていないため、心性が上がっていなければ、このような状況が現れます。もし煉功する中で自分が後退した、もしくはどこか変だと気付いたら、心性から探せば、あなたにはきっと変化が起こります。

弟子：人の思想の闘いは主意識ですか、それとも副意識ですか？

師：副意識、人の様々な観念、思想業、憑き物はみな思想の闘いを起こすことができますが、普通、修煉者の場合、ほとんどは自分の観念です。あなた自身の観念と思想業は消滅されるときに闘うので、これも駄目あれも駄目と、あなた自身の思想の中で生じた状態です。

弟子：性格は主元神が決めるのですか、それとも親の性格が遺伝するのですか？

師：人の性格は親と直接関係がありますが、あなたの元神が主導的な作用を及ぼします。しかし、親が持つものも一定の作用を及ぼします。

弟子：『文芸の窓』に載った「神通大法」という文章は、師父の許可をいただいたのですか？

師：原稿を審査したこともなく、私に声もかけていません。こういったものは文芸作品にすぎないので、気にかけてください。それは単なる物語の形式です。将来、必要とするなら、私は自分の修煉過程と行なったことを伝記に書いて、皆さんに残すこともできますが、今はまだできず、機縁はまだ熟していません。その中に非常に次元の高いことがあり、公開したら一般人が受け入れられません。

弟子：生活のために株の売買をすることを、どのように取り扱いますか？

師：あなたは商売をすればよいではありませんか。株を売買すること自体が賭博であり、人のお金を手に入れるのです。株の売買で破産した人もいますが、彼の気持ちがあなたに分かりますか？ 修煉者は決してこういうことをしてはならず、それをする、どのように心を修めるのですか！ またマージャンについても、「マージャンをすることはできますか」と聞く人がいますが、それは「先生、賭博をしてもいいでしょうか」と私に聞くのと同じです。煉功者の心性をどのように評価しますか？ あなたはこの大法に従って行なっているのですか？

弟子：ある煉功者から本来の私はキツネであると言われました。自分が煉功する時に私はいつもキツネを思い付きますが？

師：その人の言ったことを聞かないでください。彼はキツネに憑依されているかもしれませんが。彼があなたに何かだと言ったら、あなたは本当にそのものでしょうか。皆さんに教えますが、あなたの元神が前世に何であってもそれは重要ではなく、現世で修煉できるのは現世のことです。一定の次元まで修煉すると、あなたのこういった良くないものや情報もみな取り除くことになり、大丈夫です。今日この法をここまで皆さんに教えていますが、人から人に転生するのは少なく、六道輪廻はつまりこのようなことです。

弟子：寺院に行って、黄色い布に印刷した魔除けを買ってよろしいでしょうか？

師：それ自体はほとんど邪なものです。家の中にこんなものを供えてどうするのでしょうか？ 何が魔除けですか？ 末法時期は寺の中も非常に乱れています。釈迦牟尼は、こういった法が乱れる有為のことを決して弟子に教えてはいませんでした。憑き物に憑かれている和尚もおり、金儲けのためにそのようなものを売っているのです。もしそのようなものに憑き物が憑いていたらどうするのですか？

弟子：先生が与えてくださった法輪と、自分が煉り出した法輪にはどのような違いがありますか？

師：あなたはまだ煉り出せません。まだしっかり修めなければなりません。功成って圓滿成就したら、初めて自分の法輪を持つことができます。

弟子：禅宗の「観心」という方法は、入静する助けになりますか？

師：それならあなたは禅宗を修煉することになります。あなたに教えますが、何も考えずに私たちの修煉方法に基づいて修煉してください。多くの修煉方法は副意識が修

煉しているのです。禅宗の慧能以降は、修煉の方法が乱れてしまい、ますます極端に走って、ますます乱雑になったので、上の方でも認めなくなりました。それなのにあなたはどうして禅宗に基づいて修煉するのですか？ 宗教の中でどんな門派も互いに妨害し、互いに混ぜて修めることはできず、不二法門を重んじるのです。私は今日まで法を説いたのに、あなたはどうしてまだこのような問題があるのですか？ このようにしてはいけないのではありませんか？

弟子：法輪が変形した人もいますが、どうしたらよいのでしょうか？

師：法輪が変形したら、大多数の場合、その人は修煉できなくなります。ある意味で言えば、彼が悪事、大きな悪事を働いたからです。過去に変形した法輪を調整して直したこともありますが、直した法輪は当初私が植え付けてあげた法輪と違います。またはあなたに法輪を形成するその機を植え付けてあげるので、あなたはゆっくりと修めればよいでしょう。何度もあなたにあげるわけにはいきません。あなたが煉功するにつれ、法輪は再び形成することができますが、しかしあなたは多くの苦を嘗めなければなりません。

弟子：煉功中に、大地が回転している感じがしたのですが？

師：正常なことです。山が揺れ、地が動くのはどれも正常なことで、しかしあなたの肉身は動いていません。

弟子：天目が天眼の次元で開いたら、法輪が見えますか？

師：見えません。慧眼の次元でなければならぬので、私はあなたの天目を慧眼の次元に開いてあげます。法輪は別の空間に存在するからです。

弟子：以前、ある気功を練ったことがありますが、法輪大法に影響はありませんか？

師：以前どんな功を練ったとしてもかまいません。講習会の中では、すでにあなたの

ために調整をすませてあげました。本当に大法を修煉するなら、たとえ講習会に来て私に調整されていなくても、法輪大法の煉功場で本当に修煉したら、同じように調整を受けることができます。

弟子：私は日頃、人の頭を按摩して、頭痛を治してあげることが好んでしていますが？

師：煉功者の基準について私は話しましたが、煉功者として、良いと思うようにやれば結構です。病気を治療するなら私の弟子ではありません。

弟子：講習会の時に坐禅していると、先生の法身と他の景象が見えましたが、講習会が終わってからは見えなくなりました。先生の法身が立ち去ってしまったのですか？

師：その場でのあなたの心の状態がとても良く、一定の基準に達したからです。終わってからあなたは緩めましたが、勇猛に精進して上へ修めなければなりません。天目が修復される時にも見えなくなります。または、あなたの執着心を取り除くためにそのようにしたのかもしれませんが。

弟子：私は、先生と法輪大法に関する本を書きたいのですが、どうかご許可を……？

師：私は、人が私のことを書くのを好みません。私はただこの法を伝え、皆さんに法を学ばせているだけです。

弟子：私は医者ですが、鍼灸を学んだことがあります。鍼灸で病気を治療することはできますか？

師：漢方医と西洋医が病気を治療することは正常なことです。私が言ったのは、功を使って病気治療をしてはならないということです。

弟子：私の娘は十一歳ですが、講習会に参加したことがありません。以前は病気があり、成績も良くないのです。私が講習会に参加することによって、子供の病気は良く

なりました。しかし気性は少しも改まっていません。

師：それは子供に少し教える必要があります。彼女に私が話した道理を教えてあげてください。十一歳なら法を学ぶことができます。

結語

さらに多く話しません。なぜなら、私は話すべきことはすべて話したと思うからです。以前の数回の講習会で話さなかったことを今回の講習会ですべて話しました。私が思うには、この功を伝えることはほぼ終わりに近づき、皆さんに本当のものを残し、今後の修煉において、この功と法が皆さんを指導できるようにしたいと思います。法を伝える全過程で、皆さんに対しても社会に対しても、責任を果たすことを念頭におき、このようにして良い効果を取めることができました。実際、私たちはこのような原則に基づいて行なっています。よくやったかどうかについて私は話したくありません。なぜなら、私がよくやったかどうか、皆さんに責任を果たしたかどうかなどは、在席の皆さんが決めてくれますので、私はこれ以上これらのことについて話しません。私の願望はこれを伝え出し、より多くの人に受益してもらい、本当に修煉したい人が上へ修煉できるようにすることです。同時に法を伝える過程で、人間としての心構えについても話しましたが、皆さんがこの講習会を終えてから、大法にしたがって修煉できなくても、せめて良い人になるように願っています。実は、どのように良い人になるかは、あなたはすでに分かっていると思います。たとえ、あなたがここで修煉しようと思わなくても、帰ってからきっと良い人になるに違いありません。そうすれば、我々の社会に対しても有益になりましょう。

功を伝え、法を伝える過程では、うまくいかなかったこともありました。様々な方面からの妨害も非常に大きかったのです。しかし済南では、主催者と体育館の責任者の方々、省や市の気功協会の各部門の責任者の大きな支持によって、私たちの講習会は比較的圓滿に行なうことができました。講習会で私が話したすべてのことは、皆さんの煉功を指導し、高い次元へ修煉できるように指導するものです。過去の説法では、これらのことを話した人はいませんでした。認めようが認めまいが、今日私が話

したものは非常に明快で、現代科学や現在の人体科学とも結び付けて話しているのです、過去の説法のように、言葉を曖昧にしたものとは違います。私はとても明白に話して、またとても高い次元のものを伝えています。それは主に皆さんが将来本当に次元を高め、上を目指して修煉できるようにするために、これが私の出発点なのです。

われわれが功を伝える過程の中で、多くの人々は、法は素晴らしいが実行するのは難しいとされているようです。私は、難しいかどうかは実は人によると思います。ごく普通の常人で、修煉したくない人にとっては、修煉はとてつもなく難しく、不思議なもので、成就などできないと思うでしょう。常人で、修煉したくない人なら、非常に難しいと思うのです。本当に修煉しようとする人にとっては、とても易しいもので、高くて届かないようなものではありません。実際ここにいる多くの古い学習者や今回は来られなかった古い学習者は、すでにかなり高い次元まで修煉しています。私があるあなたにこれを話さなかったのは、あなたに執着心が生まれたり、いい気になったりして、それによって、あなたの功力の向上が影響を受けるのを心配したからです。本当に修煉を決意した人にとっては、耐えることができ、様々な利益を前にして、執着心を放下することができ、そういうものに淡泊にならなければなりません。こういうことを真に実行するのは、難しいと思う人がいます。難しいと言う人は、こういうものを捨てられないからにほかなりません。功法を修煉すること自体はそれほど難しくなく、次元を向上させること自体には、それほど難しいところはありません。人間の心を捨てられないから、難しいと言うのです。なぜなら現実の利益の真ただ中で、心を捨てることは至難だからです。利益がすぐここにある時、心をどうして捨てられるでしょうか？ 難しいのは、実際その点にほかなりません。人と人との間にトラブルが起きた時、そこに居合わせたわれわれがどうしても我慢できず、自分を煉功者として律することすらできないようでは、話になりません。実際に一人の煉功者として試してみてください。私が昔修煉していた時、多くの高人がこんなことを言ってくれました。つまり、このことがとても難しく見えても、忍び難きは忍びうる、行い難いようであっても、行い難きも行いうる、実際その通りです。皆さんは帰ってからぜひ試しにやってみてください。本当の劫難に直面した時、あるいは関門を乗り越える時に、試してみてください。耐え難いものに耐えてみてください。乗り越えられそうもないと見えても、行い難いと言われても、本当にできるかどうか試しにやってみてくださ

い。もし本当にやり遂げられれば、きっと「柳暗花明又一村」というように、眼前に新たな世界が開けることに気づくに違いありません！

あまりにも多くのことを話してきました。あまり多く話しましたので、皆さんは覚えるのが難しいかもしれません。そこで皆さんに特に一つだけ要望があります。皆さんがこれから先の修煉において、自分を煉功者としてあつかい、本当に修煉し続けてほしいということです。新しい学習者も古い学習者も、大法の中で修煉し、みんな功成って圓滿成就できるように希望します！ 今回の講習会はこれで終わります。皆さんは帰ってからも時間を無駄にせず、着実に修煉するよう切に希望します。ここまでにします。

延吉での説法 質疑応答

李 洪 志

弟子：生まれつき結跏趺坐ができるのは、根基の良し悪しに関係があるのですか？

師：これにはあまり大きな関係はありませんが、絶対がないとも言えず、とても複雑な原因があります。長期にわたって労働していた人、あるいは足を組んだことのない人は、組み始めると非常に辛くなります。

弟子：元始天尊は、宇宙の中の最高の覚者ですか？

師：実は、これらはすべて常人の思考方式で、それ自体が不敬です。元始天尊の功は如来より少し高いのですが、最大の神ではありません。

弟子：宇宙はやはり真・善・忍を真理とするのですか？

師：宇宙は真・善・忍という特性を備えており、次元が高いほどますますはっきりと現れます。

弟子：自分の根基などの要素で定められた次元まで修めた後、もしまだ上へ修めたいなら、続けて常人の中で修煉をしなければならないのでしょうか？

師：そうです。別のところでは修められません。常人の状態においてのみ、最も修めやすいのです。ただし、他の次元の中で修められないわけではありません。例をあげて話しましょう。その人は苦を嘗めることがないので、修めることも非常にゆっくりとなり、場合によっては修められなくなります。心性を向上させる機会と環境がなければ、彼は修められません。高い次元で人と人、生命と生命の間にはまったく矛盾がないだけでなく、すべて自由自在なので、彼はどうやって修めると思いますか？ 非

常に難しくなります。

弟子：この法門の中で修めて圓滿成就した後は、佛の状態の生老病死を経なければならぬのですか？

師：何が佛の状態の生老病死でしょうか？ 皆さんに教えますが、高い次元においても成、住、壊という要素が存在しており、それは生老病死と関係があるとも私は話しましたが、それは彼ら自身の同等の次元での現れです。しかしそれは、はるかに遠くて不可思議な、天文学的数字よりさらに大きな年代の数字なので、あなたはまったく気にする必要はありません。

弟子：まず無生老母を拜んで、その後、佛を拜むとの言い方があるようで、無生老母はどういうことでしょうか？

師：無生老母などはどこにいらっしゃるのでしょうか？ まったくこのような神はいません。常人の中で現在、でたらめな言い方はとても多く、まったくそういうものは存在しません。皆さんに教えますが、一部の邪法、狐やイタチ、ハリネズミ、蛇などのものは、別の次元のことが分からないので、正法の覚者はそれらに構いません。それらは自分が高いところまで修煉したと思っっていますが、自分より高いものに触れたことがないので、自分より高いものの存在も信じません。それらはどんなことでも憚らずに口にし、天は二番目で自分は一番だと言いますが、心性を重んじることもなく、多くの用語を作って世を乱し、法を乱しています。皆さんは我々の一門が伝えたものに基づいて修め、様々な乱れたものを放下してください。

弟子：先生の師父たちはどうして会場でひざまずいているのですか？ また会場には蓮の花が満ち溢れ、神兵や神将もいますが？

師：どの人も私の師父ではありません。上の世界では、誰でもこのように私に接しなければならない、ただあなたたち人間は知らないだけです。彼らが佛や道なので、即ち私の師父だとあなたは思っていますが、彼らより次元が高い人は数多くいます。誰そ

れを見て、すぐに私の師父だと思わないでください。私が法を説くときには、上から下まで護法の神は非常に多くいます。あなたに見えたら、見えたでいいのです。他の学習者にも見えた人がいます。

弟子：太極や八卦の中で触れた住宅や先祖の墓、風水といったことを、先生に解釈していただけますでしょうか？

師：これらのものは早く捨ててください。これらはすべて世間小道のものです。私はあなたに大法を伝えています、皆さん知っているように、一人の修煉者として、あなたのすべては変えられています。これらのものは修煉者に対してまったく作用を果たさない、あなたは放下しなければなりません。あなたの執着心は取り除かなければいけません。風水が作用しているとばかり考えていたなら、それこそ執着心です。そうすると、そのような状態が本当に現れるかもしれません。それはあなたの執着心を取り除くためです。

弟子：生命は両親から与えられたもので、親孝行をすることは、業を返すことになりますか？

師：それは業と関係がありません。人が生きているのはすべて情のため、人はこの情のために生きています。子供が親孝行をするのも情のため、親が子供を可愛がるのも情で、すべては人間の情です。当然、別の角度から言うと、親が子供を生み育てたので、子供も親に対して孝行しなければならず、こうするのは当然の理です。親に対して良くしなければ、常人の理から言っても通らず、高い次元から見ても通りません。ただし、修煉するならば、このような情を徐々に放下しなければなりません。

弟子：私たちの法門は、観音と弥勒の法門を超えていますか？

師：観音には法門がなく、弥勒にもないので、それは魔が法を乱して作り出したことです。あなたはこの法をよく学んだら分かりますが、実は多くのことを私はすでに説きました。私たちが煉っているものは宇宙ほど大きなもので、それが何なのか考えて

みてください。どうしてそういった邪法と比較するのでしょうか？

弟子：三年前に佛門に帰依しましたが、受戒していません。今後、法輪大法を修煉することに対して、影響がありますか？

師：そのような形式さえとっていないのに、どうして帰依と言えるのでしょうか？ あなたは帰依しておらず、ただ佛教を信じているだけです、こう言うしかありません。いわゆる帰依したとしてもかまわず、どんな影響もありません。佛は宗教を重んじず、人の心だけを重んじます。帰依とは、佛に帰依したのではなく、宗教に帰依したのです。どの門を修めるかということは、あなた個人のことです。佛教の中で修めたいというなら佛教の中で修め、法輪大法の中で修めたいなら、法輪大法の中で修めてください。皆さんがここにやって来たのはすべて縁によるもので、私は皆さんに責任を果たさなければいけません。皆さんに教えますが、現在の佛教の中では非常に修めにくくなり、この末法の時期になって大変乱れており、和尚は自己を済度することさえも非常に難しくなりました。こういうことをあなたに教えなければ、私は責任を果たしていないことになります。

弟子：先生、元嬰は主意識が修めたものですか？ 副意識はどんな果位を成就するのでしょうか？ 元嬰が成就して別の空間に行ったら、誰が元嬰と本体を支配するのでしょうか？

師：あなたの主意識が主宰しているこの身体で修めたものです。副意識は、私たちの法門では将来、あなたの護法として同時に得道します。元嬰はあなた自身が修煉してできたものなので、当然あなた自身が支配します。別の空間に行くなんて、どういうことですか？ あなたが主宰しなければ、元嬰は動くことさえもできません。彼はつまり圓滿成就した後の身体であり、すなわち佛体なのです。

弟子：どんな状況の下で、自分の機能を使うことができますか？

師：この質問を出した人がもし講義を聞いたことがなければ、私は大目に見ることが

できます。今日は十回目の講義になりますが、あなたはまだ機能を使うことが気になっています。機能を使って何をしますか？ どんな事をするのですか？ その執着心をどうしてまだ取り除いていないのでしょうか？ もちろん修煉者として機能は出るべき時に出て、使える時に自ずと分かるはずですが、こういったものに執着してはいけません。いかなる求める心を持っていても、法を得ることはできません。

弟子：法輪大法の学習者は、修煉を通して異なった次元に達しますが、数年後の彼らの行き先はどのようなのでしょうか？

師：代償を払えばその分だけ得る、最もよく修煉できた人は圓滿成就になります。修煉が少し足りなくても、将来の次元は悪くありませんが、三界を飛び出すことができないかもしれません。本当に果位を得てこそ、初めて三界を飛び出すことができるからです。よく精進して非常に高くまで修められる人もいますが、修煉を疎かにしている人であれば、少し得られますが、三界内の異なる次元の天人になることができます。

弟子：法身はどんな状況の下で、去って行ってしまうのでしょうか？

師：あなたが修煉者でありさえすれば、彼はあなたが圓滿成就するまで見守ってあげます。もし修煉しなくなり、まったく修煉をやめてしまったら、彼も失望し、本当にだめだと思ったら諦めてしまいます。法輪も同じで、あなたが修煉しなくなったら、常人としてこのようなものを持つことが許されますか？ 持っていて意味はなく、修煉しなければ、法輪はあなたに何の働きもしないからです。

弟子：元神や主元神、また識神は同じ意味ですか？

師：主元神とはつまりあなた自身です。あなたが何を考え、何を行い、普段何をしますか、それがあなた自身です。副元神はあなたと同時に母胎から生まれてきて、あなたと同じ名前を持ちます。しかし彼とあなたには違いがあり、あなたがどんな事を行なっているのか彼には分かりますが、彼がどんな事を行なうかはあなたにはまったく分かりません。従って根本からいえば、同一の神ではなく、彼はあなた自身ではありません。

せん。あなたは、自分が何かをしようと思ひ、何かを行なおうとして、はっきり分かっている時こそ、本当のあなた自身です。人間はこのような生命で、従来からこのような形式なので、みんな副元神を持っています。元神というのは概括した言い方ですが、概括して言えば、副元神も元神もその中に含まれているから、元神、元神と言っています。我々は主元神と副元神を分けて言っています。識神とは道教で使われる言い方で、彼らは主元神のことを識神と言います。

弟子：妊娠した後、法輪大法を煉ることができますか？

師：できます。問題ありません。以前ある人が、妊婦が法輪大法を煉ると法輪がお腹の中で回るので、胎児は耐えられますかと質問しました。皆さんに話しますが、それは同じ空間には存在していません。もし同じ空間に存在するなら、法輪がお腹の中で回れば腸も耐えられないので、同じ空間には存在していません。それぞれの空間にみな、あなたの身体が存在形式があります。

弟子：私は身長が低いことに悩んでいます。お尋ねしますが、背が高くなることはできますか？

師：どうして何でも私に聞こうとするのですか？ 私は煉功者に教えているのです。こういった執着心を抱いて修めていけますか？！ 背が低いことはあなたの修煉に影響しますか？ 私のところで教えているのは高い次元へ修煉する大法です。あなたは常人として、外見が完璧な常人になりたいと思うなら、私のところではなく、病院に行って整形手術をしてください。こんなに長い時間をかけて十回も講義をしたのに、私が何を話したかも分からない人がいます。あなたはどのようにしてこういったことを私に質問するのでしょうか？ 常人のことに私たちは関与しません。あなたはこのような執着心を抱いて講義を聴きに来ても、何も得られません。ただ、法を学ぶことを通して、あなたはきっと分かるようになると思います。

弟子：法輪大法を煉る前に、按摩をしてもよいでしょうか？

師：按摩をしてどうするのですか？ 法輪大法の大脈や気機が運行する時、あなたのために何もかもしてあげているのに、按摩をして何をするのですか？ あなたは我々の教えたとおりに煉ればそれでよいのであって、教えていないものを決して加えてはいけません。そういうものには、様々な気功の目茶苦茶に乱れた情報や偽気功の情報があり、何でもあるのです。何も加えてはならず、意念さえも加えることはできません。純粹に修煉してこそ、速いのです。

弟子：私は体育の教師です。私は学生に他の門派の功法、例えば一指禪や太極拳などを教えるように求められています。どうしたらよろしいでしょうか？

師：それなら法輪大法を教えましょう。そうすると、本当にこの上なく良いことです。もちろんあなたが法輪大法を煉りたいので、このようにあなたに教えるのです。他のものを教えると、本当に良くありません。もしあなたが法輪大法を煉らないというなら、私も関与しません。本当に修煉するなら、専一にしなければなりません。実はこの類いの具体的な問題に、私はまったく解答したくありません。あなた自身が酌量しながら対処できるはずですよ。

他の気功の手法を使って、病氣治療を行なってもいけません。使えば、別のものを加えたことになり、それらはすぐにやってくるので、あなたの功はやはり乱れます。

弟子：他の功法の録音テープを使って煉功をしてもよいですか？

師：そういったものはみなその一門の情報を帯びています。私がこれほど言っているのに、どうしてまだ分からないのでしょうか？ 法輪大法を煉るなら、法輪大法だけを煉って、それらのものに触れてもいけません。ちょっとでも触れたら、すぐにあなたの身体に憑いてきます。神を招くのは易しいが、送り出すのは難しいと言われるように、あなたはそれを追い払うことができません。私の法身も関わりたくありません。あなたの悟性がこんなに悪くて、法をこれほど説いているのに、あなたはまだこのような状態なのですか！ そうだとすれば、あなたに様々な失敗を経験させ、失敗の中で悟らせ、あなたのその心を取り除かせるのです。

弟子：ゲップをする時に出た気は、呑み込みますか、それとも吐き出しますか？

師：ゲップの気を呑み込んでどうするのですか？ 吐き出します。身体を調整する時にゲップで出てきた気のほとんどは廃棄物で、汚い気です。それは内臓の中の汚い気です。

弟子：善意から、他の功法を煉る人を止めさせてもよろしいですか？

師：いけません。人というのはそういうものです。どの門に入ろうと、その人自身が選ぶことです。法輪大法が講習会を開催すると、いつも一部の偽気功も同時に講習会を開きます。その場合あなたはどの門へ入りますか？ 人が法を得ることは容易ではなく、正法を得るのはなおさら難しくなります。皆さんに教えますが、善を勧めてもその人が聞かないなら、もうそれまでです。彼は佛になりたくないのに強引に止めさせて、佛になるように強要する道理がどこにありますか？ その人が自分の心で修めようとしなければなりません。彼は修煉したくないのに、あなたは彼を左右することができますか？ 彼がたとえ魔になりたいとしても仕方のないことです。つまりこのような道理なのです。

弟子：一式の功法を煉り終えた後の結印した状態と、次の功法を始める時の結印は、分けて別々にしなくてもよいでしょうか？

師：そうです。次の一式を始める時、両手を解く必要はなく、結印のままで次の功法につなげます。ただし、九回やることが要求される功法は、必ず九回やってから止めて結印し、それから続けます。なぜこのようにしなければならないのでしょうか？ 高い次元で煉功するには無為を重んじるので、いかなる意念もないからです。いつまでも回数を数えてはいけません。高い次元で修煉する時、いつまでも録音テープを聴いていてよいでしょうか？ 録音テープを聴く目的は、私たちの一門の音楽が良いエネルギーを帯びているからです。また、音楽を聴いて煉功者の一念が万念に代わり、他の良くないことを考えず、雑念が入らないようにさせるためです。主にこのような

目的です。高い次元で修煉する時、皆さん考えてみてください。いつも音楽を聴いたり、回数を数えたりするのでしょうか？ いけません。煉功は毎回九回するので、こうなると、その機、私があなたに植え付けた気機、機制も九回に固定されるのです。高い次元で修煉する時は、回数を数える必要はまったくなくなります。あなたが煉功する時、九回になると、その機は自動的に作用をし、その力は非常に大きくて感じとることもできます。その力であなたの手は自動的に下腹部で合わさり、九回になると手は自動的に法輪を押し回すことを始めます。高い次元になると、あなたの手は機に従って動くのです。

弟子：貫通両極法の時、まず二つの空の筒を想像するのでしょうか？

師：そうです。貫通両極法の時、皆さんの考えの中に、自分の身体は一本または二本の空の筒のようだと想像します。貫通する時、エネルギーの流れは身体の中で何の障碍もなく通る、主にこの意味です。ただ煉功する際に、いつも自分は空の筒だと思う必要はなく、煉功する前にその考えをちょっと加える程度でよいのです。

弟子：立っていることが続けられなくて、坐ったまま煉功してもよいのでしょうか？

師：この大法の要求は本当に修煉できる人のために出したものです。立てなくても煉りたいと思っていますが、こうして煉れば煉功の要求を満たせないため、機も歪められてしまい、私たちの要求とは異なってしまいます。

弟子：念佛したり、佛を拝んだりするのは、修煉に影響がありますか？

師：影響があります。佛教を信じる人に教えますが、佛教の中の法は佛法のすべてではなく、それはただ佛法の中のほんのわずかな一部分にすぎません。佛教徒はこの現実を認める勇気がありませんが、実は経書の中にも述べられています。どの法門を修めるかは厳粛な問題です。あなたがどの法門を修めたいと思っても、私たちは反対しません。あなたはひたすら修めてください。この法門を修めようとすれば、この法門だけにしてください。修煉は不二法門なので、昔は佛教の中でも混同して修めること

を許しませんでした。彼の名前を念じるのは、彼に見守ってほしいためではありませんか？ そうでなければ、なぜ彼の名前を念じるのですか？

弟子：中国で流行している気功の中で、どれが正法に属していますか？

師：偽物は本物より何百倍も多いのでその名称まで明かすことはできません。何でもはっきり説明したら、修煉はあまりにも易しすぎるのではありませんか。ただし、皆さんはある程度識別できるはずです。

弟子：楞嚴^{りょうごんきょう}経は、釈迦牟尼自身が伝えだしたものでですか？

師：楞嚴経ですが、皆さんに教えますが、釈迦牟尼は自分で楞嚴経や金剛経、心経などを伝えたと言ったことはありません。釈迦牟尼が在世中、何々といった経書を自分が伝えたと言ったことや、名前を付けたこともまったくありません。後世の人は釈迦牟尼が説いた法を整理してできた経書に名前を付けて、何々経、何々経と呼んだのです。すべて後世の人が整理して、経書に名前を付けたのです。それらは釈迦牟尼佛が在世中に説いたもの、時間や場所、対象などとは違いがあります。後世の人が整理した時の理解や、意識的あるいは無意識的に加えた変更、記憶が不完全なものなどが重なり、経書の中に佛のものはすでに多くありません。

弟子：家の中に祀っている佛に、線香をあげてもよいでしょうか？

師：あなたが望むならあげてください。佛はみな互いに尊敬し合っています。みな佛家なので、これだけを尊敬してあれを尊敬しない、といったことはありません。みな佛家なので、みな敬う必要があります。ただし、どの法門を修めるかは厳粛な問題なのです。敬うとは敬うことであり、修めるとは修めることです。

弟子：法輪大法を修煉する人は、葱、生姜、大蒜を食べることができますか？

師：皆さんに教えますが、常人が料理を作る時に葱、生姜、大蒜を入れても問題はないと思います。集団で修煉していない場合、他の人の妨げにならないので、あなたが少し食べても、それほど多くなければ問題ありません。こういうものは刺激的な臭いが強いからです。一方、味噌をつけて葱を食べるのが仕方ないほど好きだというと、それも癖になり執着です。つまり私たちはこういうことを追求しません。刺激的な臭いがある食べ物は神経を強く刺激し、癖になりやすいのです。同時に、修煉してあなたの身体から出てきたそれらの生命体も、この臭いに耐えられません。酒を飲むことも同じであり、皆さん考えてみてください。このような問題なのです。もちろんあなたは常人の中で修煉しているので、執着しなければ少し食べてもかまいません。あなた自身で正しく対処してください。私たちは常人の中で修煉するので、最大限に常人と同じようにしてもよいのです。ただし、あなた自身は煉功者の基準で自らを律すべきです。

弟子：初めて講習会に参加し、三、四日経っただけで、法輪の回転を感じる人がいるのはなぜでしょうか？ しかも、どこにも法輪があり至るところで回っていると感じています。しかし、三回講習会に参加しても何も感じない人もいますが？

師：この法輪大法を学んで、この法は素晴らしい、これは正しいと感じて、講習会に何回も参加した人がいます。しかし、病気を治そうとする心を根本から放下しておらず、何回か多く講習会に参加すれば、病気が良くなると思っている人もいます。どんな心理状態を抱える人もいて、講習会に参加した人がみな修煉しに来た人や、法を求めに来た人とは限りません。また、もともと敏感ではない人もいて、当初法輪が回り始めた時に分からず、安定してからは、なおさら分からないのです。とても敏感な人でも、当初法輪が回っていたのを感じても、だんだんと感じられなくなります。どうして感じないのでしょうか？法輪が順応してからは、あなたは感じなくなるので、順応してまた何を感じるというのですか？普段、胃が動いているのをあなたは感じますか？つまり身体の一部になった時、あなたはもう感じなくなります。血管の中の血液は流れていますが、あなたは感じますか？つまりこういう意味です。

弟子：私は今、韓国へ行こうとしていますが、韓国人が法輪大法を学びたいなら、彼

らに教えてもよろしいでしょうか？

師：勿論よろしいです。韓国語で彼らに翻訳してあげてください。あなたが訳して、彼らに伝えてあげてかまいません。大法は全人類に伝えなければなりません。

弟子：一人が法を学ばば家族全員が受益できると言いますが、ほかの家族が法輪大法を学ばず、功も信じなくて、時には皮肉な言葉を投げかけてくるのです。それでも彼らは受益することができるのでしょうか？

師：この問題は二つの面から見なければなりません。あなたを刺激する人は、この法に対してあなたの心が動揺するかどうかを試練しているのかもしれませんが、家族があなたの耳に障るような話をするのは、業力を取り除くのを手伝っているのかもしれませんが、これには多くの要素が存在している可能性があります。もちろん特殊な場合を除いて、一般的な状況では、一人が煉功すれば家族全員が受益するのはいうまでもありません。あなたの家の場も整理してあげなければならず、当然このような場の中で、家族は受益することになります。もう一つは、家族の誰かが魔に制御されている可能性があります。それは逆から見れば良いことで、あなたの修煉の意思を固めることができ、動揺しなければ、師父もきっと片付けてあげるはずですよ。

弟子：一心に法輪大法を修煉し、真剣に修煉すれば、つまり法輪大法の弟子となりますが、羅漢果位まで成就できずに死んでしまう場合は？

師：先ほど私が話したように、代価を払った分だけ得ることができます。ですから、修煉して圓滿成就したいと思うなら急いで修煉なさいと言ったのです！ 寺院の中で、なぜ釈迦牟尼の坐像がある殿堂を「大雄宝殿」と言うのでしょうか？ 佛法を修煉するには、雄獅子のように勇猛に精進すべきだと釈迦牟尼が言ったからです！ それゆえ当時の人は彼を雄獅子とみなしていました。さらに言うと、私たちは性命双修であるため、本当に精進すれば、必ず生命が延長されて圓滿成就できるのです。

弟子：先生の弟子になりたいのですが？

師：皆さんに教えますが、私は真に法輪大法を修煉する人を、みんな弟子として導きます。あなたにこれほど多くのものを与え、これほど多くのものを植え付け、法もここまで説き、功も教えてあげて、さらに私の法身があなたの煉功を見守っています。これはつまり、あなたを弟子として導いているのではありませんか？ 昔、一人の弟子にしか伝えない独修の法門でも、このように導くことはありませんでした。あなたに教えますが、私は前人がこれまで行なったことのないことを行い、最も大きな門を開きました。しかし私たちは昔のような形式を重んじません。皆さんはひざまずいて叩頭し、拝んだだけで私の弟子になったつもりですか？ 我々はこのような形式を重んじません。なぜ重んじないのですか？ 皆さん考えてみてください。あなたが修煉しなければ、弟子になったとしても何の意味があるのでしょうか？ あなたは法輪大法の弟子と自称し、叩頭して入門の儀式も行なったし、李洪志も私を弟子として認めたと言っても、ここから離れるとあなたはすぐ元の木阿弥になり、法輪大法を汚すことを行い、この法の要求通りに行なわなければ、それでも弟子と言えますか？ そうすることによって我々の名声を汚すかもしれません。だから我々はこのような形式を重んじないのです。あなたが修めれば、即ちこの一門の弟子なので、私があなたに対して責任を負いますが、あなたが修めないなら、この一門の弟子ではないので、私はあなたに責任を負いません。つまりこのように対応するのです。

弟子：貫通両極法を煉る時、「想像」や「感覚」は要求に符合しないのでしょうか？

師：そうです。感覚も必要なく、想像も必要ありません。あなたは一心に煉功するだけで、何も考えないで静かに煉ってください。

弟子：人が話をする時、その人が話す前に、いつも私はその人が何を話そうとするのか知ることができるのですが、どうしてでしょうか？

師：あなたに他心通の機能が現れたからです。あなたがきちんと煉功すれば、それを強めることができます。ただし良くないことをするのに使ってはいけません。良くないことをしなければそれを維持することができます。他人があなたを悪く思っても、

あなたは怒ってはならず、煉功者の基準に従って自らに要求してください。

弟子：私は遠い上海にいますが、もし煉功中に疑問が生じたら、誰に連絡すればよいのでしょうか？

師：上海は遠いとは言えません。学習者の間で互いに切磋琢磨するのはとても良いことです。一部の人には講義を聴きましたが、私の話が多すぎて、すべてを覚えることは無理です。録音してよいので、できるだけ録音を多く聴いてください。上海に最も近いのは合肥の輔導站です。上海は私を招いたことがありますが、いつも最後には確定できませんでした。上海の学習者は少なくなく、学びに来る人は多いので、互いに切磋琢磨して向上すればよいのです。上海、武漢、広州、鄭州、重慶、成都、いずれにしても、全国のほとんどの大都市に我々法輪大法の輔導站があるので、連絡すればよいのです。実はこの法に基づいて行なえば、みな悟れると思います。私は法を系統的に伝え出したからです。将来、本も出版するので、修煉によりいっそう便宜を提供します。

弟子：坐禅する時、いつもよい香りがするのですが？

師：それは正常なことで、とても正常です。このようなよい香りは、他の空間からくるものです。

弟子：講習会に参加したことはありませんが、法輪を得ることができるようでしょうか？

師：本当に法輪大法を修煉する人は、本に照らして学び、真に本の要求に従って行なうなら、同じように得ることができます。つまりあなたが本当に修煉すれば、きっと得られます。

弟子：寝ているうちに法輪を手で触ったのですが？ はっきりと覚えています。左の胸元で、手で押すと左右に動かすことができました。しかし目が覚めてから手で触ると、もうそこにはありませんでした。

師：それはあなたが別の身体を主宰して触れたのです。そうですね、目が覚めてから、この身体を触ってもそこにはありません。肉身が完全に同化して、初めて触れることができるのです。

弟子：この宇宙の特性である「真・善・忍」の「忍」の字は、常人社会でよく理解できますが、高い次元では争いやトラブルがないのに、どうして忍が必要なのでしょう？ 宇宙にどうして忍が必要なのでしょう？

師：この宇宙はあなたが理解しているようなものではなく、それは相当に複雑で巨大な系統です。有形の人類が存在する以外に、また無形の人類も存在しています。私たちはよく空間と言いますが、高い次元の空間にも、彼らの次元の問題が存在しています。あなたに教えますが、多くの遠いところにも、私たち人類のような身体が存在していて、このような色身は相当多く、宇宙全体にあまねく分布しています。そればかりか、異なる次元には異なる覚者がいて彼らにも互いの社会的関係が存在しています。その上、さらに高い次元にもこのような存在の形式があります。あなたが理解している忍は、人間の考えに基づいて理解している忍ですが、忍にはさらに高い内涵があります。これがなくて成り立つのですか？ あなたが常人の角度に立ってこの大法を理解しようとすれば、まったく理解できません。

弟子：夫婦の間で、徳を失うことがありますか？

師：あります。あなたがいつも妻を殴っていたら、私の見るところ彼女に借りがあることになり、あなたがいつも夫を罵っていたなら、同じように彼に借りがあることになります。みな人であり生命であり、誰と誰の間にもみなこのような業力の関係が存在しています。子供と親の間にも、このような関係が存在しています。子供の肉身はあなたが与えたのですが、命は決してあなたが与えたものではないので、子供をあまりひどく扱ってははいけません。子供としては、親には少なくともあなたを生んで育ててくれた恩義があるので、親を尊敬しなければならず、そうでなければ、あなたも親に借りがあることになります。

弟子：講習会に参加して今になっても、私の足の病気はまだ良くなる気配がありませんが？

師：あなたはその心を放下できていませんね。私はあなたの病気を治すために来たわけではありません。あなたが放下できなかつたら、私には何もできません。病気があるのはかまいませんが、その心を放下できないなら困ります。その上、あなたが修煉を信じなければ、なおさら仕方がありません。ここでは修煉者だけの面倒を見るのです。私の法身は常人の面倒を見ないし、私も自らあなたの病気を治療しません。あなたが病気を治したい考えやその思いを捨てず、自分を煉功者と見なさないならば、どうやってあなたの面倒を見るのでしょうか？ 私は病気を治しに来たのではなく、佛法を伝えに来たのです。

弟子：夢の中で天目のところで法輪が回っているのが見え、また白い物質も見え、それに武術の達人も見えましたが？

師：それは夢ではなく、本当にあなたに見えたのです。それは正常なことで、何が見えても正常なことです。それに執着したり、追求したりせず、自然に静かに観察していればよいのです。

弟子：よく全身が高く大きくなり、空の感じがするのですが？

師：そうです。人の身体、他の空間にある身体が煉功する時に大きくなることがあります。他の空間の身体や元神は大きくなったり、小さくなったりすることができます。自分がとても小さくなったと感じる人も、とても大きくなったと感じる人もいますが、これはみな正常な現象で、煉功する時に現れることです。功が伸びると身体の容量も増大しているからです。

弟子：五式の功法で第一、第三、第五式に、男が左で女が右の動作がありますが、どちらが陰、どちらが陽なのでしょう？

師：左側を陽と見て、右側を陰と見ます。背中を陽と見て、前面を陰と見ます。上半身を陽と見て、下半身を陰と見ます。

弟子：地球上の衆生は、もうこれ以上輪廻しないのですか？

師：輪廻は主にこの地球上の生命に対して言っていることで、どうして輪廻しないのでしょうか？ 人は人になるのが目的ではなく、人になっている機会を掴み、しっかり修煉すべきです。来世ではどういうものに転生するか分からず、人体を持たなければ修煉することは許されません。しかし人々がみな修煉することはあり得ず、たとえ皆が修煉していても全員精進するとは限りません。人類社会は永遠に存在します。

弟子：夢の中で先生にサインをお願いしましたが、自分の名前を書いてくれました。その上に先生から心性についてのお話も聞きました。しかし目が覚めてから気が付いたのですが、夢の中の人は全然先生に似ていません。

師：そうです。皆さんはくれぐれもこういった事に注意してください。彼はどうして夢の中であなたにサインをしたり、心性の話をしたりすることがありうるのでしょうか。我々の看板を掲げてでたらめな話をするかもしれません。皆さんはくれぐれも注意してください。これはサインを求めるという執着が引き起こしたことです。実際のところ、この法をすでに明白に説きましたが、あなたがそれに照らして行なうかどうかの問題です。私たちは再三強調していますが、皆さん考えてみてください。覚者は夢の中で法を説いてはいけないのです。説いたら天機を漏らすことになり落ちてしまうので、彼は夢の中であなたに法を説く勇気がどこにあるのでしょうか？ つまりこのような問題です。私はこれらの事を再三話していますが、すべて魔の妨害なのです。

弟子：先生は、心性を修めずに煉功動作だけで功を得ることはできないと話されていますが、狐の類いというものは心性を講ぜず、ただ練功の動作だけをやっているのに、どうして功を得ることができるのでしょうか？

師：常人にも一定のエネルギーは存在しますが、非常に少ないのです。根基の良い人は先天的にとっても大きいエネルギーを帯びています。動物の類いは他の空間で常人社会に惑わされず、エネルギーが見えます。それでそれは盗んだり練ったりして、ほんの少しの功を得ることができます。しかし高まることは許されません。人の根基が少し良ければ、功を煉ると、心性を修めなくても功をほんの少し伸ばすことができます。なぜでしょうか？ 彼の心性は元々少し高いかもしれませんが、彼の心性基準がそこにあるからです。しかし、真に修煉しようとするなら、きちんと修めなければなりません。そうしなければ、これ以上高く伸ばすことができず、正法を得ることはできません。一般の人が修煉しようとするなら、真に心性を修めなければならず、そうして、初めて抜きん出て、飛び出すことができるのです。他の空間のそれらはほんの少しエネルギーを得ることができ、人もほんの少しエネルギーを得ることができますが、何も大したものではありません。千年道を修めても、万年道を修めても佛の小指の一ひねりにも耐えられず、何ものでもないとは私は話しました。ただし常人の中で、それは非常に不思議な力があるように見えます。

弟子：南方の一部の都市は業力が非常に多いと言っている人がいますが、私は上海の大学に在学しており、影響を受けないのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、末法時期になるとどんなところにも、良い人もいれば悪い人もいます。しかし業力の多さから言えば、各地はそれぞれ環境が異なります。ある角度から見ると、人の思想が際立って悪い地域もあります。

弟子：先生の写真を天目で見ると、藍色が黄金色に変わっていますが？

師：これは正常なことです。天目が開いたら、異なる空間には異なる色が見えます。

弟子：法輪世界は宇宙のどの方向、どの位置にあるのでしょうか？

師：宇宙には人々が認識する方向感覚はありません。法輪世界はどんな所で、どのくらい遠いのか、その距離をどのように量かれるのでしょうか？ 常人のキロメートルで

は計測できません。ただし、私の身体には反映してることができます。私はそれと繋がっているからです。それゆえ、学習者は私の身体の後ろに山や川、楼閣や東屋があるのが見え非常にきれいです。多くの学習者がこれらの景勝を見たと私に話しました。実はあなたがその一部分を見たのです。

弟子：法輪世界と浄土の極楽世界との違いは何でしょうか？

師：法輪世界はより大きく、次元もさらに高く、つまりさらに遠いのです。

弟子：私はすでに牧師から洗礼を受けたことのあるキリスト教徒ですが？

師：同じく大法を修めることができます。法輪大法を煉りたいのなら煉ればよいのです。どちらも正法修煉なので、誰かがあなたを懲罰することはありません。どの法門を修煉するかは自分の一存で決めることです。教えますが、キリスト教も正教ですが、ただ末劫の末法時期にきたので、今の人はその教義を歪めて理解しています。ただし、私はイエスの天国に東洋人がいるのを見たことがありません。当時、イエスとエホバは彼の教えを東方へ伝えさせませんでした。

弟子：技術を研究し、努力して文化と知識を学習することは、執着になりますか？

師：技術者であるなら、職場であなたの本職は研究を行なうことです。成果を出せず、成績を上げられなかったら、私の思うところでは、勤務先で与えられた仕事と給料に申し訳が立ちません。煉功者はどこにいても良い人でなければなりません。仕事は当然、立派にやり遂げなければならず、それは執着ではありません。どういうことでしょうか？ あなたは他の人のために利益をもたらし、社会の多くの人のために価値を作り出しているからです。少なくとも勤務先のためであり、あなた一人のためではありません。これはあなたが常人社会において行なうべきことです。文化と知識を学ぶことは執着になるかといえば、我々も文化と知識を学ぶことを尊ばなければならないと私は話しています。知識がなければ、この法も理解しにくくなるからです。学生が大学へ進学したいと思う心は執着ですか？ いつも大学へ上がることばかり考え、家

族にも進学するように口うるさく言われ、精神的な圧力を強く感じれば、これは執着だと私は思います。それは執着ではありませんか？ 先日私が話したように、あなたが自分の責務を立派に果たし、両親や学校にも申し訳が立ち、しっかり勉強すれば得るべきものを得られるのではありませんか？ しっかり勉強しなければ、大学へ上がることができるのですか？ しっかり勉強すれば、得るべきものが得られるのではありませんか？ よく勉強できれば、きっと大学へ上がることができます。いつも思っ
て追求しているなら、それこそ執着です。

弟子：先生の講義を聞いてから、常人のことに對して興味がなくなり、昇進や他の本に對しても、興味がなくなっていました。これは正しいのでしょうか？

師：その通りです。実はこれは自然な現象です。煉功と思想の昇華に従って、常人の中のことは、常人という次元のもので低いのであり、つまらないものだと気付きます。あなたの思想境地が昇華してきたからです。私はこのような言葉をよく言ったのではありませんか？ 煉功者が高い次元に達した時、常人との間に大きな溝があることに気付きます。あなたが言いたいことは常人が聞きたがらず、あなたも常人に話そうとは思いません。常人が話している事は、あなたはまったく聞きたくありません。何千年来、ああだこうだとぶつぶつ、ぶつぶつ語っており、常人の中のたかが知れていることなので、あなたは聞きたくありません。往々にして修煉者の口数が少なく、話したがるらないのもその原因で、そのような現象が現れてきます。昇華するに従って、あなたはきつとこういったことを、ますます気にしなくなったとを感じるでしょう。

弟子：第五式の功法で四つの静止する動作は、それぞれどのくらい保持するのですか？

師：功能加持という動作は、長時間煉ることが要求されるものです。仕事のある人は毎朝、録音テープの時間に従えば十分ですが、実は具体的な時間というのはありません。第五式の功法は簡単ですが、難度は非常に高く、長時間坐ることが要求されます。長く坐れない人もいますが、それほど長く坐れなければ、できるだけ坐ればよいのです。坐る時間を均等に分け、前の三つの動作と両手結印の時間を等分にしましょう。

実は坐禅する時、最後に入定に入る時間をもっと長くしてほしいのですが、今のあなたにはそこまでできないので、ゆっくり煉って行ってください。今固く規定しても、まったく現実的ではありません。

弟子：同僚が邪法を練っています。これからもその人と長く一緒に仕事をするので、どうすればよいでしょうか？

師：邪法を練っているとすれば、練っているものが良くないものだとその人に教えます。その人に何を言ってもそれを練りたいなら、好きにさせればよいのです。仕事の面では、その人と正常に交際してもかまいません。正法修煉は何も恐れることがないので、気にすることはなく影響されません。

弟子：今回の講習会に参加した学習者は、法輪大法の弟子になれるのですか？

師：この事についてはすでに話したことがあります。本当に修煉するならば、私はあなたを弟子として導きます。修煉しないなら、あなたを弟子としません。

弟子：法輪大法を学んだら、功法以外の知識を学ぶことができますか？

師：それはかまいません。数学、物理学、化学や幾何学など、常人の中の知識を勉強してかまいません。あなたはまだ常人の中で生活しているので、法輪大法を修煉するだけで、常人の中の事をしないのもいけません。

弟子：煉功する時に、口の中で唾液が出ると、どのようにすればよいですか？

師：それを吐き出さないでください。唾液ならば飲み込みましょう。私があなたに自動的な機を植え付けたので、それを気にする必要はなく、自然に飲み込むようになっています。唾液を常に吐き出す人がどこにいますか。金津玉液きんしんぎょくえきなので、煉功者は唾液を貴重なものとみなしています。

弟子：世の中には悪い人、悪い考えを持つ人がいます。このような人はもともと悪の報いを受けるべきですが、善い行いをして他人を助ける人が逆に良い報いがないのはなぜでしょうか？

師：つまり、善人は苦勞をしてつらい目に遭っていても、悪人は楽に暮らしているのはなぜか、という意味ですか？ 皆さんに教えます。善人が苦勞をしてつらい目に遭うのは、高級生命から見ると、人は人になるために生きているのではなく、ここまで墮ちて来たあなたに、戻っていく機会を与えるために、あなたは人になったのです。それでもまだ悟らず、ここでもまた悪事を重ねて業を造れば、業力の報いが現れます。覚者から見ると、これらの業力を早く返すことができれば、あなたはここから離れることができるのです。良い人であればあるほど、彼らはあなたに業を早く返させます。業力を返す時、あなたは苦しい思いをして、ひどい目にも遭うのではありませんか？ そのため往々にしてとても良い人は、かえっていつも苦しい思いをしてひどい目に遭います。良いことをしても人々に理解されず、罪を着せられたり悪人に陥れられたりします。また功績を立てても、他の人にそれを奪われてしまいます。よくそういう事に遭うのです。私たちから見てもこういう道理なのです。これは良い人が往々にして楽に暮らせない原因の一つですが、すべてがそうではなく、業力の多さと関係があります。あなたに業を返させた後、苦海から早く離れさせることが目的です。その悪人をどうしますか？ 悪人に対しても慈悲の観点から見るのです。悪人が悪事を働く時は人に徳を与えています。悪事を働いた分の徳を人に与えます。こういう人は何も分からないまま自分に害を与えているのです。それなのに、どうやって彼を構うというのですか？ 誰も彼を罰したいとは思いません。彼自身が自分を害しているのに、またどうして彼を罰するのですか？！ 彼は悪事を働いても罰せられることなく、構う人もいません。彼は狂ってしまったようなので、誰も彼に構いたくありません。なぜでしょうか？ 彼はただ自ら壊滅されるのを待つだけで、死ぬ時に徹底的に壊滅され、何もかも無くなってしまうからです。つまりこのような道理なのです。人の考えている良し悪しは逆になっています。

常人が人の善悪を量る基準は、個人の角度から考えています。自分に対して優しけ

ればその人が良いと思い、あるいは自分の観念から見て良いと思えば、その人が良いと思ったりしますが、それはいけません。あなたに優しければその人が良いと思うなど、あなたの考えはやはり限られた常人の観念であり、その基準も低いのです。この宇宙の特性こそ、善悪を量る本当の基準なのです。

弟子：私はデパートで色々な佛像を見た時、頭が重く感じましたが？

師：そうです。隙があればすぐに乗じる悪者がいますが、大法の修煉者には影響は及びません。

弟子：以前、佛教の言葉に触れたことがあります。煉功する時に、たまにウォンバーホンミー唵叭轟弥…
…と出ることがあるのですが？

師：これは密教のもので、密教の呪文です。今は邪道なものもそれを念じて使っており、道家でさえも念じています。今はとても乱れているので、こういったものに妨害されてはいけません。眠っているうちに大手印、様々な手印をする人もいますが、すべて放下し、それらの手印をしてはいけません。私があなたに教えたのはこれだけなので、これだけに従って煉ってください。

弟子：食中毒が発生したら、どうすべきですか？

師：本当に修煉する学習者は、めったにそのようなことには遭わないのです。本当に修煉する人なら、修煉に関係のない難に遭遇しても、すべて避けることができます。必ずその通りです。どれほど大きな難に出遭っても必ず避けられますが、前提条件は本当に修煉する人でなければなりません。修煉の基準に達することができず、常人の中でまったく心性を向上させない人なら、その時どうなるか分かりません。こんなに長い間煉っていても、病気はどうして良くならないのか、と私に質問した人がいます。では、あなたの心性はどうなのですか？ 少し動作を煉っただけで、病気が良くなると思っているのですか？ 我々はあなたの病気を治しに来たのではなく、我々のとこ

ろは修煉であり、こういう問題ではありませんか？ 食中毒と言うなら、私を見るところでは、私たち学習者の中にはこれまでこのような現象はありません。もし誰かが本当にこのような事に出遭ったなら、茶碗を砕いてでも口に入れないようにするでしょう。もしあなたが本当に中毒になったなら、やはり病院へ行かなければなりません。なぜなら、あなたは自分をしっかり制御できず、自分が真の修煉者でなければ、このような問題が起きると、やはり本当に医者に診てもらいに行かなければならないからです。煉功者として、普通こういった事は起きるはずがありません。

弟子：法輪大法を煉る人は、献血しても問題ないでしょうか？

師：もちろん絶対献血しないようにとは言いませんが、あなたの血液を人に輸血してあげるなら、たいへん貴重なものになります。こういった事は法輪大法の学習者や弟子にはあまり見られません、このことに関して絶対とは言えません。どうしてもあなたが献血しなければならぬときなら、そうするしかありません。

弟子：毎年の祝祭日、少なくとも年に一度、テレビの形式を用いてでも、学習者たちに先生の顔を見せていただきたいのですが？

師：それはテレビ局のする事です。実はそのようなことは縁に従うべきです。

弟子：煉功する時、「喜」の字に覆い被せた布が持ち上げられ、その字を私に見せたのですが？

師：それはあなたが法を得たこと、法を学んでいることを啓示しているのです。

弟子：業力が非常に大きな人が、功が比較的高い人といつも一緒に煉るなら、功が高い人に対して何か影響がありますか？

師：ほんの少しの影響もありません。功の高い人から見ると、業力は何でもありません。

弟子：法輪はどのような状況で変形するのですか？

師：他の功を混ぜ入れて煉ったり、意念の中に他の功の意念を混ぜ入れて煉ったりしても変形します。外力により永遠に法輪を壊すことはできません。

弟子：宇宙の中の成、住、壊は自ら演化した結果ですか、それとも大覚者に制御されているのですか？

師：この宇宙はこのような存在形式なのです。同時にこの宇宙はまた相当偉大な覚者が制御できます。しかしそれも自然に生まれて自然に滅ぶという、宇宙の理に従っています。滅ぶかどうかは彼に関係なく、爆破しても彼に害を及ぼさず、彼は新たに造ります。宇宙の歴史はあまりにも長くて、佛道神は考える必要がないのですが、人にとってそれはとても恐ろしいことです。

弟子：私のお腹の中で法輪が回転し、熱を発して張ったりすることは正常なことですか？

師：おや、あなたのお腹の中に法輪があり、それは高級生命なのに、あなたはどうしてまだ不安を感じるのですか？法輪があなたを害するはずがあるのですか？！言葉を変えて言えば、それは佛なのですよ！

弟子：延吉には「文革」の前に五つの廟がありましたが、「文革」の時に取り壊されました。今再び建てられているそうですが、法輪大法の学習者はお金を寄付してよいのですか？

師：私が思うには、こういった事に関わらないほうがよいのです。他人が寄付するのは他人のことで、彼らは彼らの法門のものを修めます。

弟子：私は真剣に法輪大法を煉ると決心しましたが、いつもこのように思って自分に

要求することは、執着と言えますか？

師：自分に良い人になることを要求するのは、執着とは言えません。返本帰真したいと思うなら、人の本性が出たので、かえって執着を破ることができます。

弟子：私は居士ですが、楞嚴經を読んでもよいですか？

師：私たちには法輪大法を修煉する本があり、あなたはそれを読めばよいのです。将来はまた他の本も出版されます。あなたがいつも楞嚴經や金剛經、あれこれの經を見ると、その一門のものを修煉することになるのではありませんか？ つまりこのような問題です。私はあなたがそれを見ることに反対しません。あなたは那一門を修めればよいでしょう。二股かけてはならず、そういう意味です。

弟子：軽度の精神病がある人に教えることは？

師：あなたはこういった面倒を引き起こさないほうがよいと思います。その人は自分を制御できず、聞いても分からないからです。その人の頭が外来の情報によって制御される時、どんな魔でもその人を妨害できるので、その時にあなたは後始末ができません。その人が変になった時には、どんな魔でも彼を制御できるので、彼は良い作用を果たせないばかりか、大法のイメージを破壊することにもなります。我々がこれまで精神病の人に学ばせたくなかったのは、つまりこういう意味です。彼はまったく制御できず、その時になるとどんな魔でも彼を妨害して、何もかも破壊してしまうので、煉っていてもすべて無駄になります。

弟子：数日前、友人が家に来た時、憑き物がついてきました。翌朝、私が煉功すると、その憑き物も一緒に煉功して、その後去って行きました。これはどうすればよいでしょうか？

師：このような事に遭うと、私の名前を呼んでみてください。実はこれもあなたを試しているのです。こういった事はとても複雑です。

弟子：いかに大法を護りますか？

師：我々は人と争ったり闘ったりしてはいけません。その人を相手にしなければよいのです。修煉者が妨害に出くわすことは、つまり試練なのです。

弟子：法輪大法の悪口を言う人がいますが、どのように対処しますか？

師：その人に構わないでください。もしその人が強気で言い、横暴で筋を通さないなら、彼と同じようにするのですか？ その人に構わず、相手にしなければよいのです。実は、これも心性を試練するために現れたことです。

弟子：あなたが私たちにくださった法輪は、強くなることがありますか？

師：彼はますます強くなって、自分でも大きく変わったり、小さく変わったりできます。別の空間では変化することができます。

弟子：煉功する時にまだ入静することができませんが、邪法を煉り出してしまうようなことがあるのでしょうか？

師：そのようなことはありません。あなたは悪い事を考えず、自らを煉功者として律し、思想業力が頭の中に反映して生じた悪い考えを排除すればよいのです。

弟子：樹木には靈性があるとおっしゃいましたが、それは修煉できますか？ 佛になれますか？

師：人以外は、正法を得て修煉することは許されません。樹木だけでなく、万物にはみな靈があります。ただ正法を修煉して得道することが許されるのは人に限ります。

弟子：大法を煉っていますが、祖先の位牌を祀ることはできますか？

師：いわゆる祖先というのは、あなたの先天の祖先ではありません。それは得道した人でもなく、高い次元の佛でもなく、ただ低次元の靈魂なのです。その心性には限りがあるので、あなたの修煉を妨害するかもしれません。あなたにそのような心があるならしっかり修煉して、正果を得た後、その人たちを済度するようにしましょう。

弟子：煉功して慈悲心が生じると、涙が流れるのでしょうか？

師：二つの状況があります。涙を流す煉功者は、私を見ても煉功する時も涙を流します。これはどういう事でしょうか？ つまり、私があるあなたの身体をきれいにして、多くの良くないものを取り除いたと同時に、この上ない貴重なものを与えたのを副元神が見たため、非常に感激しているからです。しかしあなたの主元神はこれを知りません。なぜいつも涙を流すようになるのでしょうか？ 彼に見えたからです。もしあなたの主元神が本当にそれを見たら、どのようにお礼を言っても、私に対する感謝の心を表わしきれません。もう一つの状況があります。一定のレベルまで修煉したら、慈悲心が出て、涙が流れることもあります。しかしそれは状況によるのです。殺生や、苦しめられる人を見たとか、いずれにしても状況によって、涙が流れるようになります。これこそほかでもなく慈悲心が出てきたのです。

弟子：煉功している時、突然用事ができたらどうしますか？

師：用事ができたらどうすればよいかについて、私は話したことがあります。私たちは煉功を終了する時の動作にもこだわらないので、立ち上がってすぐに行き、やるべきことをやればよいのです。法輪はあなたが体外に出したエネルギーを、すべて回収してきます。

弟子：法輪椿法を煉る時、両腕に法輪の回転を感じて、初めて丸く抱いていると言えるのでしょうか？

師：そうとは限りません。回転を感じない人もいますが、この中の八十パーセントか

ら九十パーセントの人は回転するのが感じられます。

弟子：修煉する際に、金や銀のアクセサリーをつけたままで大丈夫でしょうか？

師：煉功する時はできるだけこういったものをつけないほうが良いのです。実は、それをつけるのは顕示心のためでしょう。結婚した人が指輪をつけるのは結婚した印なのでかまいません。気を練る場合にはそれは阻害の作用を果たします。金や銀も一種の黄色か白色の物質を発することができ、それは気のようなもので、一定の阻害の作用を果たすことがあります。なぜならそれは、常人の身体の中の気より強いので、阻害できるのです。しかし煉功を阻害することはできません。一部の人はそれで魔よけができると思っており、様々な心理状態があります。煉功しているのに、どうして邪なものを恐れるのですか？ 正法を修煉するなら、何も恐れることはありません。

弟子：煉功する時、いつも手が熱くなるのですが？

師：その通りです。病気はすべて陰性に属するものです。煉功者には時に陰陽がはっきり分かれる状態が現れます。身体の半分は冷たく、半分は熱いという状態です。それはさらに位置が換わることもあり、こちらが冷たくなって、あちらが熱くなるのです。これはすべて正常な状態で、陰陽がはっきりと分かれる状態に属します。

弟子：法輪大法を煉る人は、死去した人に叩頭して構いませんか？

師：あなたはもし本当の煉功者で功が出たのであれば、それは本当にあなたの叩頭に耐えられません。あなたが叩頭したら、それはきっとびっくりして遠くまで逃げてしまいます。もしそれが良くない生命であれば、あなたの叩頭で、それを殺すことができます。もちろん常人にはこういったことがわからないのです。修煉者はお辞儀をしたり、佛の礼儀を表す手の仕草をしたりしてもよいと思います。死去した人に叩頭してはいけません。それらはまだあなたの済度を待っているのに、あなたはなぜそれに叩頭するのですか。

弟子：心性が向上しないことによって、坐禅する時、痛くなることがありますか？

師：心性が向上しても、足が痛くなります。

弟子：下腹部で両手を合わせる時と、両手で法輪を時計回りに四回押し回す時、手はずっと蓮花掌のままですか？

師：そうです。すべて蓮花掌です。五式の功法の最初から最後まで、ずっと手はこの形です。

弟子：ある刊行物で発表されているのですが、狐が人に化けることは本当のことでしょうか？

師：宇宙はもともと非常に複雑なのですが、ただ人は信じないだけです。私たち煉功者はこういったことに関わらないようにします。これは私たち煉功者と関係がないので、こういう質問は出さないでください。

弟子：周易を研究していますが、法輪大法を煉ることはできますか？

師：その中には幾らか他のものを帯びているので、放下したほうがよいと思います。それは大法に比べるとあまりにも小さいので、大法を修める人が研究するに値しません。もし、それがあなたの正常な仕事であれば、別の事柄になります。

弟子：人という次元の業力は非常に重いのですが、どうして大根基の人が現れるのでしょうか？

師：一般的にはみな理由があり、みな理由があるのです。

弟子：神通加持法に力を使うと、気機と互いに矛盾しませんか？

師：手印をする時は前腕が上腕を導くので、前腕と手首の間、手の指まである程度の力を使います。神通を加持する時になると体を緩め、完全に緩めます。機と巧みに協調がとれています。

弟子：どの次元まで煉功したら、初めて法身が生まれるのですか？

師：法身はすべて佛の姿をしています。髪は藍色で、黄色の袈裟を着ています。修煉がその次元まで達したら、初めて法身を修め出すことができます。

弟子：薬を飲むことはできますか？

師：もし法輪大法を修煉するなら、薬を飲んではいけないのかと私に尋ねた人がいます。あなたが薬を飲もうと飲むまいと、私は構いません。私のところでは、煉功者は煉功者の基準に従って行なうことを要求しているだけです。あなたはこの基準を守れず、このような心性基準に従って行なわず、薬を飲まないことで問題が起きると、あなたは李洪志が薬を飲ませないと言うかもしれません。皆さん考えてみてください。あなたが自分を煉功者と見なすことができないうために問題が現れたので、薬を飲まない、当然危険が現れることがあります。常人とはつまりそのようなものです。学習者もそれを新しい学習者の入門条件や規定にしてはならず、相手にそれを悟らせることです。ただし助言することはできます。

弟子：子供を教育する時、やむを得ない場合、子供を叩いたり叱ったりするのは、自分に業力をもたらすことになりますか？

師：子供はしつけなければなりません。しつけずに子供を放任し、親としての責任を果たさなければ、あなたも徳を失うことになります。子供はやはりしつけるべきです。子供が言うことを聞かなければ、少しきつくしつけても構いませんが、子供を動物のように扱ってはいけません。それは決して、してはいけないと、はっきり分別してください。子供をしつける時にかつとなってはならず、本気で怒ってはいけません。あなた自身にも忍という問題があるのです。忍とは怒ってから耐え忍ぶのではなく、怒

らないことです。子供の本当の命はあなたが与えたものではなく、子供にも先天的に由来したところがあり、彼も独立した生命なので、理性的に子供をしつけるべきです。

弟子：もし憑き物の功を練ったら、どういう結果をもたらしますか？

師：それなら、あなたも取り憑かれて常に身体の精華が取られることになります。

弟子：法輪大法の修煉においては、功の爆発がありえますか？

師：ありません。代償を払った分だけ得ることになります。爆発することはありません。

弟子：煉功場では、早くから結跏趺坐ができ、しかも長い時間坐れる人は、よく煉功できていると思われませんか？

師：坐れる時間が長ければ、その人はこの方面でよくできているのです。全体的にその人の修煉がどうかと言うと、坐れる時間の長さや、機能で判断するものではありません。この人に機能が現れ、天目の次元が高いから彼のレベルが高いと思い、彼を崇拜したりしてはいけません！ 善し悪しを量る唯一の基準はすなわち、その人の心性の高さを見ることです。大法の基準で心性の高さを量り、人の修煉のレベルを判断するのは、将来、一定の次元に達したら、その人の身体の色からも、次元を見分けることができます。なぜでしょうか？ その色とは、赤、橙、黄、緑、青、藍、紫、有色、無色という九種類の色に変化するからです。白くなり、全身が白っぽくて白色になった時、この人はすでに世間法の最高次元まで煉ったことになります。無色になるまで煉った時、もうそれは透明体の過渡状態に進み、世間法を出ることになります。そのため赤、橙、黄、緑、青、藍、紫の色を見て、その人の修煉の次元を見分けることができます。最初は彼の身体は赤で、紅色です。羅漢法の修煉に至った時、また赤、橙、黄、緑、青、藍、紫が改めて現れますが、しかしその色は世間法修煉の色よりずっと綺麗で、透明なものになります。初果羅漢を出て、正果羅漢の修煉に入ると、また赤、橙、黄、緑、青、藍、紫ですが、その色はよりいっそう綺麗で、絶えず上に向けて昇

華するのです。つまり、あなたの身体から発する光や功の色まで、みなこのように変わります。

弟子：機制と気機はどう違うのですか？

師：機制というのはあなたの身体に植え付けて、あなたの功を生成したり伸ばしたりするなどの要素で、あなたの身体を変化させ、あなたに必要なすべてを修煉し出すことができます。元嬰が生まれることなども含まれており、それらを一括して機制と呼んでいます。そして気機とは、あなたの体外で植え付けた、あなたの手を動かさなくても、あなたの手を導いて煉功するものです。

弟子：朝鮮族の方が聞いても分かりませんが、法輪を得るのに影響がありますか？

師：ここに来た大多数の人はみな縁がある人だと思います。多くの人は漢民族の言葉を聞いても分かりませんが、病気はすでに良くなっています。なぜなら根基の良い人は得るべきものが必ず得られるからです。その中には根基が良いかどうかという問題があります。

結語

ここ数日間、私はずっと話してきましたが、もうこれ以上話しません。多くの学習者は私が贈る言葉をほしいと思っていますが、一人一人に贈ることはできません。皆さんが修めるかどうかはあなた自身のことなので、私は皆さんにまとめていくつかの言葉を贈ります。当初、私が功を伝える時には多くの魔難に遭遇しましたが、それは想像を絶することでした。当時、私はこのような考えをしっかりと抱いていました。非常に高いところの大覚者たちは、私がとても耐え難いことを受けているのを見て、「忍び難きは忍びうる、行い難きも行いうる」と言いました。私はこの二つの言葉を皆さんに贈りたいと思います。私がこの功を伝えることは今日までにして、まずしばらく一段落します。私も少し休んで整えます。

私は功を伝える過程で、学習者に対しても、社会に対しても責任を持つことを常に念頭においてきました。功を伝える全過程で収めた効果は比較的良く、わりと理想的なものでした。一部の少数民族の学習者は漢民族の言葉を聞いても分かりませんが、それでも同じように比較的理想的な効果を取めました。佛家には縁を重んじるという言葉があります。皆さんがここに坐っているのも、実は縁なのです。このような縁があるからには、皆さんはこの機会をつかんで失わないでください。このような縁があるから、それを大切に、すでに勉強し始めたので、それを続けていってほしいのです。そうすれば、高い次元を目指して修煉するつもりはなくても、努力した分は得られ、少なくとも身体を健康を改善でき、次元を高めることができるのです。それは必ず達成できることです。もちろん、我々の目的は、高い次元を目指して本当に圓滿成就できる人を導くことです。先日私は言いましたが、ここで何千人が法を聞いているとはいえ、私に言わせると、あまり樂觀視していません。どのくらいの人々が本当に修煉を続けられ、最も理想的な目標を達成できるのか分からないからです。皆さんが決心して、修煉を続けていくことを私は願っています。先ほど贈った言葉のように、最後まで修煉し続けていく人こそ真の黄金なので、最後までやり遂げた人こそ本当に圓滿できるのです。

佛を修める方法自体はそれほど難しくありませんが、常人社会の中で、常人の執着心を放下することは最も難しいことです。しかし幸いにも私は今日、このような道理、高い次元の法を皆さんのために伝え出したので、皆さんはこの法に従って修め、煉功していくことができます。昔は多くの人が高い次元へ修煉したいと思っても法を得られず、法がなければ上に修めることができませんでした。今の便利さはまさにこの点にあり、この法を皆さんのために、家の玄関口まで送り届けています。昔は多くの人、各地域にもそのような人がいてどこかへ名師を探しに出かけ、修めて学びたいと思っていました。我々の法門は人心をまっすぐに指すため、最も便利な法門で、修めることが最も速いと思います。あなたはどこかへ弟子入りに行かなくてもよく、私はすでにこの法をあなたの家の玄関口まで届けてあげたので、あなたが修煉できるかどうかを見てください。修煉できるならば、あなたはすぐに修め、修煉できなければ、今後二度と修煉のことを考えなくてよいのです。つまりこのような道理です。講習会の全過程において触れた問題は比較的次元が高く、話した内容も皆さんがこれまで聞いた

ことのないものばかりでした。気功師だけでなく宗教の中においても、多くのことをこのように高くはつきり知ることは許されません。そのため、私は前人が行なったことのない事を行い、大きな門を開いたと言ったことがあります。しかも多くの事はすでにはつきり伝えたので、これ以上まだ修められないと言うなら、それはあなた個人の問題です。もちろん我々は皆さんに対して責任を持ち、法も理もはつきり説明し、さらにあなたを守らなければなりません。

我々の煉功場は、一般の場ではありません。煉功場全体に覆いが被せられており、他の功法の人が入って煉りたくても、我々の学習者の中に入って来ても、彼は我々のこの覆いの中には入れません。それは風船に覆い被されているようなもので、あなたが煉功場の真ん中まで入ったとしても、その覆いの中に入ることはできません。この場全体のエネルギーは強く、私が整理するまでもなく、私の法身が直接この事を行なっているからです。あなたには私の法身がいて守っているのです、彼は必ずそのような事を行なっています。私は皆さんにどれだけのものを与えたのでしょうか？ 私もこれ以上詳細に話したくはありません。最終的な目的は、皆さんに本当に法を得させ、修煉できるようにする、これだけが目的です。皆さんは今後の修煉の過程において、絶えず向上し、絶えず自分の功を高め、皆さんが圓滿成就できることを希望しています！

広州での説法 質疑応答

李 洪 志

法輪大法の録音テープを複製してはならないことについて、少し話します。講習会でこれまで録音は許可しなかったのですが、私が本格的に法を伝え始めてから、録音を許可するようになりました。済南や大連、長春、合肥での幾つかの講習会の講義内容を一つにまとめて、現在すでに第三冊目の本である『轉法輪』の印刷を開始しています。これこそ、我々の修煉を指導する最後の本です。私が正式に発行を認めた録音テープを除いて、他のテープの質と効果は見たところ、すべてそれらと比べられないと思います。さらに、私の話はよく口語を使っていますが、完成する本は私の整理を経ているので、口語の多くは取り除いています。一部はやはり私の東北の方言を帯びていますが、理解の上で問題が生じやすいので、録音の講法資料から部分的に抽出して写し出さないでください。この本を出版した後は、我々の修煉の拠り処として定めます。間もなく出版できますので、皆さんは総会に連絡して注文してもかまいません。

弟子：すでに佛門に帰依した人が、観音經と大悲呪だいひじゅを毎日唱えることはできますか？

師：あなたが佛門に帰依したという話は漠然としています。我々も佛門ですが、あなたは佛教に帰依したと言うべきです。毎日、観音經や大悲呪を唱えることができるかといえば、観音經を唱えるにしても、大悲呪を唱えるにしても、実質宗教の修煉方法に基づいて修めることになります。これはやはり不二法門の問題であり、専一に修煉できるかどうかという問題です。勿論私は、あなたがその法門に帰依して修煉することに反対しません。あなたが修めたいなら存分に修めればよいのですが、ここでは皆さんに専一に修めてほしいのです。その心が捨てきれない人もいますが、その心を捨てきれなければ、ここで苦しく我慢しなくてもよいのです。あなたは心の中でいつも気をもんでいます、自分で良いと思うものを修めればよいのです。しかし、私はあなたに責任を持たなければならないので、明白に話します。あなたに教えますが、現在の宗教界は浄土ではなく、和尚が自分を済度することさえも非常に難しいのです。

真に修める人はとても少なく、勿論真に修める人はまだいますが、いなくなったらすべて駄目になってしまいます。何を修めるかは自分で決めればよいのですが、しかし同時に修めては絶対にいけません。

弟子：他の気功書や、他の気功師が書いた本を保存することができますか？

師：我々はすでにこの問題について話したことがあります。どの法門を修め、どの道を選ぶかは自分で決めます。一部の気功師は本当に良い気功師であっても、気功を普及するために出てきて、彼自身は悪いものは持っていないにしても、彼はそれらのものを追い払う力はありません。そのため、彼の場合は非常に乱れています。彼は誰をも師と称し、彼らの本の中の情報や、それらのものは非常に乱れているのです。一般的な常人社会のテキストや技術書などは問題ありません。ただし、それらの乱れたものや良くない本は保存することだけでなく、買うこともしてはならず、なおさら見てもいけません。人類社会の道徳に重大な影響を与えるからです。気功書は我々の法門のものでないかぎり、決して保存してはいけません。

弟子：道家が修めるのは副意識ですか、主意識ですか？

師：みな同じです。しかし、主意識を修める人が来た次元は極めて高く、あるいは彼の主意識が極めて特殊でなければ、こうして行なうことはできません。普遍的に伝わっている修煉法は、みな副意識を修煉しています。

弟子：今生の主意識が、来世で副意識になることはありますか？

師：何ともいえません。このような規定はありません。

弟子：両手で結印する時は、腹部との間に隙間を空けますか？ 腹部に触れたら駄目でしょうか？

師：これはすべて昨日の講義で話しましたが、あなたはしっかり聞いていませんね。

結印する時、手は身体に着け、わずかに触れます。第五式の功法、神通加持法で両手を結印する時、手は足の上に置いてかまいません。そうしなければ、坐禅する時、両腕は何キロもあるので非常に重く、背筋がそれによって曲がってしまいます。結印する時の手は足の上に置き、重みを軽減させます。

弟子：佛展千手法の「弥勒伸腰」で、伸ばした後すぐに続けて「如来灌頂」になるのですか？

師：そうです。この二つの動作はつながっています。「弥勒伸腰」の後、掌を回して緩めますが、緩めることはつまり「如来灌頂」になります。ただし、灌頂するという意念はまったくありません。気の中へそそぎ込むという概念はなく、自動的な機制が作用を果たします。

弟子：元始天尊、釈迦牟尼佛が修めたのは主意識ですか、それとも副意識ですか？

師：このことに関しては、私はいかなる人、いかなる名前も指して言うてはいけません。皆さんに教えますが、昔から伝わってきたものの絶対多数、九十五パーセント以上の功法は、副意識が修煉しています。功法自身がそのように要求しているからです。これは天機なので、昔は決して話してはならないことでした。

弟子：旋機とは何でしょうか？

師：私が言うこの旋機は、昔の中国古代の修道の本に書かれた玄機、つまり玄妙の玄とは違うものです。我々のこの旋機は回転の旋と機能の機であり、機制の機、機器の機でもあります。旋機とは、回転する機制という意味です。天体から星まで、星からミクロの物質まで、すべては運動していますが、このような機制を我々は旋機と呼んでいます。

弟子：気功雑誌の表紙に先生の写真がありますが、それにも法身が存在していますか？

師：私の写真にはすべて存在しています。私の写真、私が書いた文章、あるいは印刷した本の中にもあり、印刷物も同じです。これは不思議なことではありません。

弟子：私の頭上に、いつもあるものが回転していますが？

師：この類いの質問のメモを今後は私に渡さないでください。あなたの身体のあれこれの反応は、もしあなたが煉功者であれば、すべて良いことです。それが回転していることや、法輪が回っていることもあなたは分かっていますが、私に言わせないと気が済まないのですか。様々な感覚をもう取り上げないでください。何千何万という感覚はあまりにも多いのです。すべて私に聞くな、あなた自身が悟るものはなくなります。実はすべて良いことですが、今後またあなたは誰に聞きますか？

弟子：『法輪功（改訂版）』を学ぶ時、少し書き写しました。たくさんのページ数があるので、家においていれば、家族に勝手に取られると心配で、どうしたらよいでしょうか？

師：大丈夫です。まとめて保存しておくか、あるいは輔導站到渡して保管してもらい、将来、貧困地域の農民に送ります。

弟子：佛教と佛法、佛学の違いを教えてくださいませんか？

師：佛教の中の法は、佛法の中のほんのわずかな一部分にすぎず、佛法全体を代表することはできません。釈迦牟尼は、修煉方法には八万四千の法門があると言っていますが、佛教の中には十数の法門しかありません。天台宗、華嚴宗、浄土宗、禪宗、密教など十数の法門しかありません。これほど歴大な佛法は、決して八万四千法門にとどまりません。現在の宗教がどうして佛法のすべてを概括することができるのでしょうか？ それは佛法の中のほんの一部分にすぎません。それは佛法の中のわずかな一部分で、宗教を形成したため佛教と呼ばれるのです。佛学とは、常人の名詞と認識です。

弟子：静功を煉る時、なぜ入静できないのでしょうか？

師：静功を煉る時に入静できない原因は、私たちが常人社会の中で執着している多くのものが妨害しているからです。大法に対する認識が向上するにつれ、執着するものがますます淡泊になり、静功を煉る時、次第に入静できるようになります。あなたが今すべて放棄できたら、次元はとっくに向上し、修煉も相当に高くなっただけです。今少々の雑念があっても大丈夫です。あなたは複雑な常人社会で次第に心性を向上させ、常人が執着するものを放棄するにつれ、徐々に清浄になります。心性も執着心を放棄するとともに次第に向上して、次元も高まり、それは互いに助け合って成り立つものです。その時になれば、あなたは完全に入静することができます。

弟子：神通とは何でしょうか？

師：神通とは、佛家では人体の超自然的な機能を神通と呼んでいます。最も低い次元において常人は超能力と呼んでいます。

弟子：加持とは何でしょうか？

師：加持は功を伸ばすことではありません。一塊の功を載せてあげてあなたを高めたり、また一塊の功を載せてあげたりして、あなたの功を高めさせるようなことではありません。功とは、自分の心を修めることによって得るもので、誰かがあなたに載せてあげるものではありません。あなたが信じられなければ、今すぐ私は一つの功柱をあなたに載せてあげ、あなたを一挙に出世間法のレベルに到達させることができます。しかしあなたがこの門を出るとすぐに落ちてしまいます。なぜならその功はあなたのものではなく、あなたの心性の基準がそこに達していないので、載せることはできないのです。というのも、ある特殊な空間の中に、心性の基準の尺度が同時に存在し、それに目盛りがあります。心性がそれほど高く到達しなければ、功柱もそこまで高く達することはできません。昔、功を発するとエネルギーを消耗して、実に惜しいと言う人がいますが、そのように理解してはいけません。なぜならあなたが功を発した時、

一定のエネルギーを出して功柱が短くなりますが、あなたの心性の基準がそこにあるため、煉功中に苦を嘗めなくても功はすぐ元通りに補えます。あなたの心性や基準、果位がそこにあるためです。勿論、さらに向上しようとするなら、心性を引き続き向上させて、初めて功が高まります。さもなければ、何をしても無駄です。加持とは、身体を高度に浄化することで、功の中のものの演化を助けるだけです。

弟子：私の運命にたくさんのお金がありますが、これは功の向上とどんな関係があるのでしょうか？

師：何種類かの状況があります。自分の徳と交換することによって求めた福運もあれば、以前から積み重ねてきた人もあり、高い次元から持ってきた人もいます。様々な状況があるので、比較的複雑で、こういった問題を一律に見てはいけません。大きな徳を持っている人は欲しいものを何でも手に入れることができます。なぜなら徳は非常に大切なものだからです。確かにこのような状況です。この徳は功に転化でき、その人の修煉の次元の高低と、果位の大小を決めます。もし、常人社会で福の報いだけを求めるなら、これをもって他の人と金銭や財物に交換することができます。ある人は何をしてもたくさんのお金を儲けられますが、その人の徳が大きいからです。ある人は何をやっても儲からないのは、徳が少ないからかもしれませんが、絶対とは言えません。勿論、一部の人の状況は非常に複雑ですが、私は一般的な規律だけを話しています。徳の少ない人は物乞いをして、ありつけないかもしれません。人から食べ物もらう時も、あなたはその人に徳をあげて交換しなければならず、人にあげる徳がなければ、食べ物もらうこともできないからです。交換は、宇宙の均衡を保つ「失わなければ得られず」という特性が作用を果たしているのです。

弟子：佛像が古くなったら、どのように処理すればよいのでしょうか？

師：佛教には規定があるでしょう。保持したくなくなったら、寺院に持っていけばよいのです。

弟子：講義を聴いている時、なぜあれこれとくだらないことを思いめぐらすのでしょ

うか？

師：精神を集中して聴けばよいのです。主意識を強くしなければならず、実は思想業力が妨害しているのです。

弟子：まだ病気の治療ができますか？

師：もしあなたが病院の医師やマッサージ師であれば、私に言わせればあまり問題ありません。もしあなたが自分でこれをやろうとしたり、この関係の仕事をしたり、あるいは自分で開業するというなら、すべて常人の中のことです。しかし、もしあなたが功を用いて病気治療をしようとするなら、これは絶対にいけません！ 私がここで伝えているのは、病気治療と健康保持というものではなく、真の修煉です。真の修煉は非常に厳粛な問題です。覚者になろうとするなら、厳しく自分を律することができなければ、そのような不甲斐なさであれば、どうして達成できるでしょうか？ これは非常に厳粛なことです。本当に多くの苦を嘗めなければならず、腹を決め大法に従って修めなければなりません。本当に修煉しようと思うなら、こういったことに関わってはいけないと私は思います。

弟子：主意識は人の靈魂なのでしょうか？

師：靈魂という言い方は、非常に漠然としています。一方、人の身体はとても複雑なもので、それが何を指して言っているのかは、非常に不明瞭です。そこで、我々のところでは、昔のような言い方を根本から排除し、完全に現在の人体科学と結び付けて話しているので、非常に明快です。

弟子：時々、気が散りますが？

師：あなたが今、完全に入静に達することができないのは正常なことであり、それは次元が向上する具体的な現れです。もしあなたが本当に入静できるなら、あなたの次元はもう低くありません。

弟子：以前、他の功を学んだことがあります。その中の一部のもの、例えば呪文などですが、時折、脳裏に何げなくぱっと現れてきますが？

師：それをすべて取り除いてしまわなければなりません。これは思想の一般的な業とは違います。必ずそれを取り除かなければなりません。

弟子：どうして悪い思想を取り除くのは難しく、しかも時々それがかえって強くなったと感じるのですか？

師：あなたがそれを取り除こうとしているので、それがあなたの修煉を妨げ、それで反応が起きたのです。非常に強く反応する人もいますが、必ず主意識を強くもって、それを排除しなければなりません。あなたが分別できて考えが動揺しなくなったら、私の法身がそれをきれいに取り除いてあげます。

弟子：私は法輪大法を煉っている者ですが、妹は憑き物を祀っていますが？

師：法輪大法の学習者は何も恐れることはありません。常人でも常に良くないものに遭ったりします。しかしそれはあなたを傷つけたり、邪魔したりはできません。ただしあなたは心が動揺することなく、それらのものを排除しなければなりません。あなたが大法をしっかり修めるなら、私の法身がそれを処理してあげます。

弟子：天目が以前開いていましたが、その後見えなくなりましたが？

師：以前開いて、その後閉じてしまったのには、多くの原因があります。閉じられたものもあり、傷められたものもあります。ただし修煉しているうちにすべて修復しています。開く必要のある時にまた開くので、これを気にせず成り行きにまかせましょう。

弟子：神通加持法を長時間坐れないのですが、どうすればよいでしょうか？

師：要求は煉る時間が長ければ長いほどよいのです。第五式の功法は私が独修した時のもので、少しも変えずに皆さんに伝えました。主な目的は、あなたが高い次元で修煉する時、修める法があり、煉る功があるようにするためです。今あなたが煉るのは難度が高く、それほど長時間坐れません。あなたは時間の長さを調整し、神通加持にどのくらいの時間を使い、入定にどのくらい時間を使うのかを自分で決めてください。そうしてあなたが次第に向上していくにつれ、きっと長時間坐れるようになります。

弟子：とても残念ですが、私は外国に行くため、講習会の最終日に参加できませんが？

師：では今後、本を多く読むようにすれば問題ありません。独学しても圓滿できますが、真剣に修煉するかどうかにかかっています。

弟子：どのような人が人の主元神を生むことができるのでしょうか？

師：こういった事に構ってどうするのですか？ あなたの心は知識を求めするために使うのか、それとも修煉するために使うのですか？ 実は私がすべて話しました。この膨大な宇宙の中の様々な物質が運動することによって、生命を生じさせることができます。人体においては、主元神と副元神に分かれています。どちらも生命ではありませんか？

弟子：先生が講義されている時、突然、頭頂にまげを束ね、背が高く、白髪の道士の姿で現れたのが見えたが？

師：私は下りて来て、この事を行なうために非常に長い時間をかけて準備をし、佛、道、神になったことがあります。見えたなら、見えたまでのことです。

弟子：家で煉功すると、先祖は怖がりますか？

師：あなたは執着が多いですね。今、世にいる両親や子女の生命さえ左右できないの

に、世にいない人のことを気にかけてどうするのですか？ 正法の修行は誰に対しても良いものをもたらします。私のこの法門は最も便利な法門であり、常人の中で修煉するのです。私は度々強調してきましたが、修煉は厳粛な問題であり、あなたはこれもあれも気をかけ、こちらに対する情も断ち切れず、あちらに対する情も断ち切れません。昔、出家は何を意味していたのでしょうか？ 今の和尚はなんとも言えませんが、昔の和尚は出家したら両親さえ認めず、完全に世間の縁と断絶し、名前まで新しく付けました。なぜ法名を付けるのでしょうか？ 世の中の一切の欲望を完全に断ち切り、その人に対するいかなる気がかりな事をもなくさなければ、心を静かにして修めることができないからです。修煉というのは厳粛な事で、あなたはこれらのことを考えないで、ただ修煉していくことだけを考えればよいのです。ただし、家の中で先祖を祀ってはいけません。それはあなたに対しても死んだ人に対しても良いことです。人間と鬼が同じ家に住んではいけません。世間の縁は終わったからです。

弟子：法輪大法は、株の売買に対して影響がありますか？

師：(学習者は皆あなたを笑っています)。あなたは賭け事に執着しています。あなたに教えますが、賭け事に負けてビルから飛び降りる人もいます！ 株を売買する時の心とはどんなもののでしょうか。今の人は善し悪しの分別も付きません。私にマージャンをやってもいいですかと聞く人もいますが、それは賭け事で他人のお金を狙っているではありませんか？ それは賭け事ではありませんか？ いずれにしても、私は皆さんにこう言いますが、ここでの講義は常人にいいかげんに聞かせているのではありません。我々は本当の修煉者に対して責任を負い、煉功者に聞かせているのです。もしあなたが社会でどんなことでもやるというなら、やりたいようにやればよいでしょう。それなら修煉する必要はありません。

弟子：私には七歳の息子がいますが、近ごろ、夢の中でいつも先生と一緒に煉功していて、昼間は先生自ら煉功しているのが見えると言っているのに、法輪大法を学びたがりませんか？

師：それなら、彼が学んだものは何か、見えたものが本物かどうか考えてみてください

い。正法が広く伝われば、魔は方法を考え尽くして破壊します。本人が修煉しなければ、それは問題があります。

弟子：速い時空の中では人の一生はすでに終わりましたが、現在、なぜ私たちは修煉を通じて運命まで変えることができるのですか？

師：あなたの主体の生命は終わっていないので、それらの空間の時間を反転させることもできます。これは私が講義の中で話すつもりです。ここでついでに皆さんに一つのことを話しますが、人の運命は自分で変えることはできません。いかなる常人もあなたの運命を変えることは不可能で、覚者でさえ無条件にあなたの運命を変えてあげることはできません。人間は自分の生命を左右できず、なおさら他人の生命を左右することは不可能です。働いて大金を稼いで財を成し、家庭を整えて、家族に良い暮らしをさせてから、修煉を始めると言う人がいます。これは全くおかしい話です！ 人にはそれぞれ運命があるので、肉親であっても、あなたは他人の人生を変えられるはずがありますか？ さらに言うと、難が何もかもなくなったら、あなたはどうやって修めますか？ 家族にどれくらい大きな業力があるのか、あなたは知っていますか？ 彼らがどのように一生を歩むべきか、あなたは左右できるのですか？ 左右できません。これは信じられない、多くのお金を稼いで財を成したら、子供に相続させればと思う人がいるかもしれません。私はそうとは限らないと思いますが、天災、人災や火災で財を失くすかもしれません。その人にこのような福運があるかないかによります。このような福運がなければ、何も相続できません。つまりこのような意味です。人にはそれぞれ運命があるので、誰かが人の運命を変えることができるというわけではありません、これはいけません。

それでは修煉者の一生なら、変えることはできますか？ できます。二つの方法で変えることができます。人が修煉の道を歩めば、彼の一生を変えることができます。人が修煉したいと思うこと、これこそ佛性が現れてきたのであり、その人を無条件で助けることができます。しかし、その他の場合、勝手にやってはいけません。なぜなら、あなたの人生の中には修煉ということがないため、変えてあげるためには、それらをすべてご破算にして、按排し直さなければならないからです。これは変えられる

ことです。もう一つの情況は、あまりにも常人のものに執着する人が、不正な手段によって、あるいは何らかの方法で人を害し、もしくは、あなたは人に害を与えることなく、自分の努力などを経て、何らかの事を行なって手に入れたかのように感じているかもしれません。実は、あなたが変わえられるものはとても小さなものに限られており、あなたが努力して行なったことは、努力しなければならなかったことだったかもしれません。あなたがそのように行なわなければ、手に入れることができないので、そのように按排されたのです。しかし、確かに変えられる小さなことはありますが、大きな方向は変えられないものです。ほんの少しでも変えたら、業を造ることになるかもしれません。そうでなければ、人の善し悪しは見分けられません。あなたの運命の中にそのものが按排されていないのに、あなたがどうしても欲しいと思い、不正な手段で手に入れたなら、あなたが得たものは他人のもので、そうすれば、あなたは他人を害し、他人に借りを造ったことになり、すなわち業を造ってしまいます。つまりそういう意味なのです。現世で返せなければ、来世で返すことになります。

弟子：私は心性が低く、他の功を混ぜて練ったので、数日後、法輪がなくなりました。どうしたらいいのでしょうか？

師：修煉は厳粛なことで、忠告を聞かずにどうしても他の功を混ぜて練る人がいます。結局、すべて台無しになりました。この法輪と我々のすべての機制は、相当久しい年代、相当長い歴史時期を経て、何代もの人によって形成されたものです！ そのようなものは決して常人が形成したものではなく、相当に貴重なもので、数え切れないほどの大覚者がそれによって修煉し、成就しました。あなたは彼を壊してしまい、別の功法を混ぜて練れば、彼を台なしにしてしまいます。少し次元の高いことを教えますが、ある意味から言えば、法輪は一つの宇宙です。彼はあなた自身の生命、あなたの元神よりも何倍貴重なのか分かりません。あなたが勝手にそれを駄目にしてしまいました。皆さん考えてみてください。私はあなたを済度するために、こういうものを持ち出しました。学ぶことができるなら学び、学ばないなら仕方ありません。法輪を変形させた人に、私は安易に再び法輪を与えたりはしません。その人が再び学びたくて、一心に学ぼうとしても、またその人が本気で学びたいかどうか、続けられるかどうかを見なければなりません。本当に学ぶことができるなら、一式の機制を与えるこ

とができます。その人は煉ることによって、次第に法輪を形成することができます。

弟子：李先生がもし佛であるなら、すべての法はみな邪なものであると言っ
てはいけないのではありませんか？

師：学習者の皆さん、すべての法がみな邪なものであると私が言ったことがあ
りますか？（ありません！）この人は憑き物に支配され、何を言っているのか分
からなくなりました。主意識がはっきりしない人は済度できません。今は末法
時期ですから、非常に乱れています。さらに言うと、それらの乱れに乱れた邪
道のことを法と称してよいのでしょうか？ それらに何の法があるのでしょうか？
法はただ一つで、真・善・忍にほかなりません！ 他の正法や正教は、すべ
て宇宙のそれぞれの次元で実証し悟った理なのです。

弟子：夢の中で心性を守れないのですが、どうしたらよいのでしょうか？

師：それはあなた自身の心性が確固ではなく、自分に対する要求がまだ高
くないからです。原因は、普段の法を学ぶ基礎がまだ固まっていないから
です。真に修め、着実に修めるようにして、初めてそれらの事を思想の中
で重視するようになります。

弟子：講習会に参加したことのない人が、先生の本の要求通りに煉れば、
法輪を形成することができますか？

師：皆さんは知っていますが、私が伝えているのは修煉であり、高い次元
の修煉です。決して病気治療や健康保持のものではないので、人に対する
要求も高いのです。あなたが煉るとすぐに法輪が得られるわけではあり
ません。あなたがどんなによく、どんなに長い時間をかけて煉っても、我
々が要求している心性の基準に従って行なわず、自分に厳しく要求せず、
徳を重んぜず、法を学ばなければ、何も得られず、何も形成できません。
あなたが我々のこの法の要求に従って行なうなら、何でも得ることがで
きます。独学しても得るべきものは、同じく得られます。得られないもの
は何もありません。本の中の字はすべて私の法身なので、自分で法輪を
形成する必要もなく、あ

なたは自然に得ることができます。しかも私の法身はあなたを見守ることになります。

弟子：社会において、法輪大法の学習者の前で法輪大法を攻撃する人がいます。私たちはどのように法輪大法を守るべきでしょうか？

師：その人を相手にしなければよいのです。その人と争ったり闘ったりする必要もなく、彼が何を言っても相手にしなければよいのです。相手にせず、聞こうとしなければよいのです。

弟子：法輪大法の弟子は分娩室に入っても構わないでしょうか？

師：それは何の関係がありますか？ 一部の質問は非常に幼稚なものです。大法を修煉すると、恐れるものは何もなく、一正が百邪を圧するのです。また、分娩室は邪なところではなく、実際子供にとっても良いことです。

弟子：気功師でなく作家が書いた気功書の中には、憑き物や邪なものがありますか？

師：皆さんに教えます。彼が作家であれ、またはどのような人であれ、気功師ではなくても、彼らが書いた気功書は、やはり憑き物や邪なものに操られて書いたものです。彼の思想がどこからきたのか、彼は自分で考えたものだと思っています。一部の作家は気功に関する本を書きたいと思い、気功師の功がどこからきたのかを知らないので、偽気功師に尋ねると、やはりこういったものを招いてしまい、書いたものはすべてそれらのものです。今の社会はとても乱れていて、様々な偽気功があります。たとえ本の中に邪なものがなくても、気功師でもない人が書いたもので、修煉できるのでしょうか？

弟子：煉功以外に他の本を探して読んでいます。多くの法門を学びたいと思っているのではなく、主な目的は一部の名詞や専門用語が分からないので、多く読んで理解したいと思っているだけですが？

師：弁解しないでください。我々のところではあなたに責任をもちます。それらの法門が講じることはその法門のものであり、その法門の要素を帯びています。我々のところでそれを使うことができますか？ 我々のところでどのように講じてどのように教えているかにかかわらず、その他の専門用語は、我々のこの一門の内涵ではありません。動作や魔が憑依する本のどの文字もそれらのものであり、読むとあなたの身体に入ります。修煉と佛学の知識について、私は歴史上一部の修煉者の物語を選んで出版する予定です。いずれも正しくて良いものなので、一般知識の書物として皆さんに認識してもらいます。

弟子：講習会で先生の解答を記録した紙は、どのように処理しますか？

師：保存しておきましょう。それから皆さんに教えますが、在席している一部の人はすでに筆記することが習慣になっていますが、講義に集中できない人は、往々にして筆記する人です。その人の注意力を記録することに使えば、漏れなく記録することもできなければ、全部聞きとることもできません。ただ静かに聞いたほうがよいのです。あなたが全部筆記することはできないので記録に照らして行なうとき、その記録が不完全なので、断章取義の可能性があります。なぜならあなたは完全に記録できないからです。あなたが記録に照らして行なおうとすれば、場合によっては良くない効果をもたらすかもしれません。今話したことは講習会を開催して以来、たびたび起こることでした。以前は多くの方がこのようにしていました。これは常人の中の理論ではないので、そのようにすれば、往々にして良い効果を取められません。筆記すれば、漏れなく聞くことも記録することもできません。将来、我々が本にまとめたら、それを読めばよいのです。

弟子：煉功の効果は、気分と関係がありますか？

師：気分が良くない時は煉功してはいけません。特に怒っている時にはなおさらいけません。正法を修煉するには忍をしなければなりません。忍とは良くない気分が生じた後で忍をするのではなく、怒ってから忍をすることでもありません。あなたは良くない気分を抱いて、何を煉ろうとするのですか？ 心の中で怒りや恨みを抱え、さ

らに怒りによって生じた様々な心があれば、入静することができますか？ 煉功して良い効果を取められますか？ 法の要求に従って行なわなければ、正法の修煉ではなくなり邪法を練ることになります。この動作を煉れば、この法のものになるとは限りません。多くの師が人々に教えました、その人は師の要求する心性、道徳の基準通りに行なわなかった、結局練りだしたものは邪なものばかりでした。その師が教えたものは良い功であっても、同じ功法でも同じものを煉り出すとは限らず、本当にその心性基準に従って行なわなければなりません。修煉というのは極めて厳粛な問題です。

弟子：古代と現代の医学書を見ると、法輪大法の修煉に影響がありますか？

師：これは何ら影響ありません。医学書を見るのはどんな影響もありません。ただ、今の医療気功の本は見えてはいけません。

弟子：あるヨガの本は神の経典と言われ、本の中でこの神は宇宙のすべてを創造したと言っていますが？

師：こういったことを聞いてはいけません。何がヨガですか。末法時期はどこも浄土ではありません。

弟子：労働を通して得るものも、徳をもって交換してきたものですか？

師：払った代償の多さとも関係があります。一般的には労働自体は代償を払うことですが、得るものが払ったものより多ければ、徳をあげなければいけません。

弟子：心性だけを修めて、煉功しないなら？

師：それならば、あなたは単なる良い人にすぎず、修煉者ではありません。将来は良い人になることしかできず、来世に福報を得ます。

弟子：法輪を回すのは四回のみですが、なぜ九回回してはいけないのでしょうか？

師：四回回せば十分です。多く回すとあなたはきっとお腹が痛くて、お腹が張るでしょう。今功を学ぶ時は大丈夫ですが、できるようになってから正式に煉功する時、多く回したら駄目です。多く回すと、お腹が張るでしょう。

弟子：出産後一ヵ月以内で、煉功できますか？

師：勿論できます。これは問題なく、激しい運動はありません。

弟子：先生の講習会には参加したことがありませんが、第五式の功法が終わった後、幾つか他の動作が現れますか？

師：それはすなわち、別のものが彼女を操っているのです。この問題はすでに話したことがあります。私が伝えたのはこの五式の功法だけです。彼女がとても素晴らしいと思って歓喜心が生じると、それに従って動き出します。あなたがそうしなくては動作はすぐ止まり、それもすぐにはなくなります。あなたがそれに従って動けば動くほど嬉しくなり、あれ、なんて素晴らしいと思ったら、それはあなたを操ることになります。しかし、それらのものは動作が簡単であっても、すべてあなたの身体を壊すものです。あなたがやり出した幾つかの動作ですが、すべてあなたの身体にあるものを破壊するものです。一瞬の間にあなたをだめにしてしまうかもしれません。

弟子：カトリック教を信仰しながら、また法輪大法を煉っていますが？

師：この問題を話すと、非常に高い話になります。東洋人として、私がここで皆さんに教えられるのは、あなたはひたすら修めれば良いということです。大法、正法に出会うのは容易いことではありません。これしかあなたに教えられません。今日の宗教が人を濟度できるなら、私も大法を伝えに来ることはありませんでした。いずれにせよ皆さんは悟りましょう。現在の人間にはあまり高いことを言っても受け入れられません。

弟子：法輪大法を煉る若者に、異性に対する恋愛感情があるのは許されるでしょうか？

師：私は皆さんに話したのですが、この次元であなたに何もかも放棄させることはまったく不可能で、あなたもなし遂げることもできません。勿論一部の人はこういった事に淡泊になっていますが、しかし皆さんに教えますが、社会の中で修煉する人に、このようにすることを提唱しません。ただし、法輪大法では確かに専修する人がいますが、将来、我々が寺院を持てたら、彼らに修煉する場所を提供してあげることができます。多くの僧侶が法輪大法を修煉したら、寺院の中にいると、大きな困難に遭うかもしれないので、将来はこのような修煉場所を提供してあげます。しかし常人の中で修煉する人にとって、このようにすることを勧めません。みんなが法輪大法を修煉して結婚しなくなれば、子孫を残すこともできなくなり、人類は絶滅してしまうので、それではいけません。現段階では結婚して所帯を持つことは構いません。常人の中で修煉するには、最大限に常人のこの状態に符合しなければなりません。例を挙げて言うなら、あなたが結婚しなければ、あなたの両親は心配します。両親はあなたを理解できないし、他の人も理解できません。常人の状態に符合するのは、我々の修煉にとって良いことでもあります。なぜなら、最も複雑な環境こそ、高人が現れるからです。

弟子：大師、あなたの恋愛の過程をお話しいただけますか？

師：あなたは法を学びに来たのではありませんね。何をしに来たのですか？ また何を知りたいと思っているのですか？ 修煉はとても厳粛な事で、あなたはいまだに情に動かされ、これらに執着しています。差は何と大きいことでしょうか！

弟子：法輪大法を修めて成就したなら、他の世界へ行けますか？

師：行きたいところならどこへでも行けます。修煉が成就したらですよ。今はこのように質問していますが、将来本当に成就したその日、あなたはきっと穴があったら入りたくなります！ あなたは自分の言っていることが何か分かっていません。あなた

は今人間の考えなので、神の境地の思惟はありません。

弟子：静功を煉る時には清浄無為で、いかなる意念も持たないよう要求されますが、心性の面でも、このような心理状態に達しなければならないのでしょうか？

師：その通りです！ しかし徐々になし遂げられることです。普段からこのことに注意しなければなりません。どの程度まで入静しても、自分がここに坐って、ここで煉功していることを分かっていなければならず、この僅かな意識を保たなければなりません。そうでなければ、朦朧として何もかも分からなくなり、修めているのはあなたではなくなってしまうです。

弟子：学校で、学生が大学の入学試験に合格しようと努力して学び、両親の期待に応えようとする行いは真・善・忍に背きますか？

師：これは真・善・忍に背きません。どれが執着に属し、どれが属さないかは分別しにくいものです。皆さんに教えてもよいのですが、個人の目的の達成や、個人の嗜好や欲望を満足させるために行なったことは執着です。しかし公のため、大衆のため、他人のために行なったこと、あるいは努力して仕事や勉強をやり遂げることは当然すべきことです。皆さん考えてみてください。学生としてのあなたの本分は、勉強をきちんとこなすことです。なぜならあなたは学生だからです。そこで、私の目的は大学に受かることだと思う人がいます。勿論、勉強する目的は絶えず高い段階に、小学校、中学校、大学のように進むことで、いつまでも小学校に留まるわけにはいきません。確かにそうです。だとすれば、大学へ入学したいと思うことも間違いではありません。しかし、もしあなたがよく勉強せず、大学入学、大学入学と頭の中でいつも大学に行くことばかり考えていれば、私に言わせるとそれは執着です。では皆さん考えてみてください。別の角度から言うと、あなたが学生ならば、あなたの本分は勉強をきちんとし、両親や学校、先生の期待に背かないようにすることです。先生はあなたに授業をし、両親は学費を払ってあなたを学校へ行かせています。あなたが両親や学校の先生の期待に応えようと、自分で勉強をきちんとやったのなら、自然と大学に入学することになりませんか。あなたがいつも大学、大学と考えても、よく勉強しなかった

なら大学へ入ることができますか？ あなたは大学へ入ることばかりを考えない方がよいのです。考えても入学できなかつたら、無駄になってしまいませんか？ あなたは大学へ入ることを考えず、努力してよく勉強するだけでよいのです。あなたが勉強をきちんとやれば、大学への入学が実現するのではありませんか？ 大学院へも進学できるのではありませんか？ つまりこのような道理なのです。これらの事自体はとても簡単ですが、分別しにくいのです。また、科学研究者が研究を行なうことは執着と言えますか？ あなたの研究成果やあなたが行なったことは公益事業であって、社会のため、人々のために奉仕することなので、これらの事を立派に行なうことは、あなたの本分です。一人の労働者としても、あなたがもらう賃金に申し訳が立つように、立派に行なわなければなりません。そうでしょうか？ 煉功者はどこでも良い人でなければならぬからです。

弟子：煉功している時に、完全に無我の状態に入り、周囲のいかなる音も聞こえず、自分の身体が消えたかのような感じがしましたが？

師：この状態はとても良いことです。我々の煉功は入静することを要求し、二種類の状態が現れることがあります。決して他の功法のように、そこに坐っていると何もかも分からなくなることはありません。他の功法の場合、何時間も煉功して出定すると、あれっと、そこに坐っていたのはただ十数分に過ぎないような感じがしますが、時計を見るとすでに非常に長い時間が経過しています。彼は嬉しくてたまらず、自分は定力がとても高く、よく煉ったと思っています。他の法門の修煉者なら、みな彼はよく煉ったと言いますが、我々のところではとても悲しいことだと言います。とても悲しいことです！ 皆さんは知っていますが、我々の修煉は、あなた自身が真に自分を修煉しなければならず、本当にあなた自身に功を得させます。そのため、非常に深く入定した状態であっても、自分がそこで煉功していることが分かっていなければなりません。あなたにはきっと質問で言った状態が現れ、足や体、腕や手などがどこに行ったのか分からず、自分の頭さえもなくなってしまい、一つの意念だけがそこにあるかのようなのです。意念の中で、自分がそこで煉功していると分かっていますが、これはとても良い状態です。その他に、我々にはもう一つの状態があり、あたかも卵の殻の中に坐っているかのように動けず、非常に美妙的なのです。しかし自分ではそこで煉

功していることが分かっています。このような状態が現れることもあります。

弟子：私は夜中に目が覚めた時、自分が法輪大法の動作を煉っていることに気付きました。法輪の回転や、エネルギー流を強く感じました。

師：もし本当に法輪大法の動作なら、とても素晴らしいことです。それはあなたの元神が煉っており、あなたの煉功を助けているのかもしれませんが。もし他の動作なら、きっと問題があります。

弟子：私は前の四式の功法を行なう時、体内である力によって身体が揺れるようになりますが？

師：多くの人とはとても敏感です。あなたの身体の中で法輪が回る時、身体もそれに従って動きますが、あなたは揺れたりしないでください。敏感でない人は、回転する力が大きくても感じません。皆さんの状態は様々で同じではありません。

弟子：以前、私たちは密教を長年にわたって修煉していましたが、今すでに機能がでていて、大師の法身と通じ合うことができます。これらが本当のことなら法輪大法の修煉に対して、補助作用がありますか？

師：補助作用がないばかりか、いかなる補助作用もありません。密教は最も低い次元の宇宙にある如来の法理ですが、宇宙の法をどうして補助することができますか？皆さんに言いますが、あなたが見たものは本物か偽物かもわかりません。たとえ見たのが本物であっても、私の法身と通じ合う程度に達するのは非常に難しく、法身があなたとこうして連絡することもないので、あなたが以前に学んでいたものが進化したもので、あなたを騙しているのです。だからこのようなことに注意しなければならず、機能で誰が高いかを見分けることができず、修煉者の果位の高低は心性によって表れるのです。

弟子：先生の大法に照らして日記を書き、自分の足りないところを反省してよいでし

ようか？

師：私に言わせれば、それは書かなくてもよいと思います。どうしても書きたいのであれば書いても構いません。心でどこが間違っているか分かれば、次に注意して法を学び、自分が向上すればよいのです。

弟子：師父の著作を読む時、数行の文字が眩しく感じるがありますが、確認してみれば、それはちょうど自分が抱えている問題です。これは先生の法身が私に悟らせているのでしょうか？

師：これはみな大法の中で帯びる法力です。一つ一つの字はすべて佛、道、神の法身なのです。

弟子：一時期、何か間違ったことを行なったり言ったりすれば、必ず先生の法身から処罰を受けたのですが、また一時期、間違ったことを行なったり言ったりしても、先生の法身はまったく関わってこられないのですが？

師：私に関わっても、あなたが間違ったと知っても改めようとしなければ、いつまでもそのように悟らせるわけにはいきませんよ！ 話を変えますが、多くの学習者は私の法身と通じあいたいと思っています。その目的は、何らかのことを尋ねたくて、修煉がどうなっているかを知りたいためです。皆さんに教えますが、皆さんが一心に修めさえすれば、知るべきことは必ず分かってきます。知るべきでないことなら、あなたが知るべき時になっていないだけです。日頃、本を多く読んで理解すれば、どんな問題も解決でき、すべて本の中にあります。認識できない問題があっても、疑問をもっていることにも、本当にこの法を学べば、どんな問題もなくなり、すべての問題はたちどころに解決されることに気付きます。

弟子：功を開いて悟りを開いたら、つまり正果を得ることができ、法輪世界へ行くことができますか？

師：悟りには漸悟と頓悟があります。最後になって本当に完全に悟りを開くことを圓滿成就と言います。しかし三界内でしか修めることのできない人は、功を開いて悟りを開いても圓滿成就とは言えず、正果を得ることもできません。私が言っているのは、それほど大きな努力を払うこともできず、それほど大きな決心をして修めることもできない人もいます。そうであれば、正果を得ることができず、法輪世界へ行くこともできません。三界内で悟りを開く人もいますが、その人はここまでしか修めることができないからです。大法を修める人はすべて法輪世界へ行くとは限りませんが、より高い果位で圓滿成就した人にはより高い世界があります。

弟子：人がこの物質空間に堕ちて来たのは、情が生じたからですか？

師：すべてがそうではありません。上には情がなく、三界内だけに情があります。その人が堕ちて来たのは、上の基準に符合しなくなったためです。常人のこの空間において情は最も重いので、情は執着心が生じる根本です。

弟子：憑き物と元神はどのように区別しますか？

師：今のあなたには区別できません。いつもこういった事に関心を持たないでください。なぜなら、その憑き物はあなたの身体と同じ大きさで現れることがあり、あなた自身の以前の身体が現世に現れてくることもあるので、前世の身体か憑き物か、あなたははっきりと区別することができません。憑き物は身体の中にもあり、身体の外にもあります。頭の上でしゃがむものや肩の上でしゃがむもの、もしくは首の後ろにへばりついているものは、比較的判別しやすいのです。しかし身体の中に入ってしまったものは、あなたには見分けられません。大法を修める人には、憑き物のことはまったく存在しません。それは絶対に許されないことです。

弟子：お尋ねしますが、佛より上の者を何と称するのでしょうか？

師：何が佛より上の者ですか？ それほど高いことは、一般の常人が永遠に知ることは許されません。私は佛家と道家について大まかに説いたことがありますが、彼らよ

り上の者もやはり佛であり道です。あなたはそれを知識と見なしていれば、この門や講習会を出ると、何日かすると次第に何も思い出せなくなります。私が説いたことは、あなたは概略しか分からず、しかもあやふやで、はっきり説明できません。修煉できなければ、頭の中の記憶からそれは抹消されてしまいます。常人はこれらのことを知ることが許されないのです。

弟子：佛法の中で、情の本当の意味は何ですか？

師：情は宇宙大法、宇宙の特性の最も低い次元における一種の要素です。私はこれまでずっと、こういう根本的なことについて話したことはありません。佛教ではいつも執着心、あれこれの執着心を話しており、我々のところでも様々な執着心について言及しました。しかし、佛教では執着心の根本は何であるかについて語りませんでした。我々のところでは、それは情があるからだとはっきり説いています。勿論、修煉して正果を得ようとするなら、基本的に情を取り除かなければなりません。

弟子：煉功する時に舌は上あごに当てて橋渡しをする必要がありますが、入れ歯をしているので橋渡しをする術がありません。どうすればいいのでしょうか？

師：入れ歯をつけていても影響しません。あなたの口の中にたとえ鉛の板を入れても構いません。功はそれを突き抜けるのです。構いません。我々は気を練るのではなくて、功を煉るのです。

弟子：先生の前世は誰ですか？

師：私は李洪志そのものです。決して釈迦牟尼佛ではありません。

弟子：以前、先生が講義の中で言及された法輪聖王は、釈迦牟尼が妙法蓮華経で述べた法輪聖王と同じ人でしょうか？

師：歴史上で釈迦牟尼佛は確かに法輪聖王について話しました。昔、釈迦牟尼佛は何

度も法輪と法輪聖王のことについて話しましたが、後の人は釈迦牟尼佛の話した事を回想しているうちに、それを全面的に反映させることができなくなりました。そのため、後の人も釈迦牟尼佛の説いた本来の意味を理解できず、曲解することが生じました。その後、さらに銀輪、鉄輪、銅輪などの言い方が現れましたが、どれも後の人がでっち上げたものです。釈迦牟尼佛が法輪を回すなどなどと伝わっていますが、釈迦牟尼佛自身が法輪を回すと言ったのではありません。釈迦牟尼佛が将来そのような事が起こることを知って、予見したのです。

弟子：夜間、神通加持法を煉る時、坐ったらすぐにうとうとして眠ってしまいますが？

師：これは絶対にいけません。必ずこの欠点を克服してください。そうでなければ、修煉するのはあなた自身ではなくなってしまうます。我々は修煉していることがはっきり分かっていなければなりません。坐るとすぐに眠くなるのは、実は煉功しておらず、ただ坐って眠っているだけです。これも妨害です。

弟子：極楽浄土の衆生には煩惱と魔難がないので、どうやって修めるのですか？

師：あなたに教えますが、煩惱がなければ、修煉することもできなくなります。そのため、極楽世界で修煉することはとても難しいのです。

弟子：先生の法身の法号は？

師：私の法身は、すなわち私であり、同一の体です。これは少し理解しにくいですが、いかなる法号もなく、つまり李洪志です。

弟子：修煉中の疑問を、修煉がよくできていると思う古い学習者と検討するのは？

師：学習者の間で互いに検討するのは問題ありません。とても良いことです。

弟子：仕事をする時、無意識のうちに前額の両眉の中間のところから、ピンク色の光

や藍色の光、銀色の光が何度も放たれたのですが？

師：これはつまり天目が開く現象で、様々な現象がたくさんあります。このようなエネルギーの光が、どうして私たちの身体の中に存在するのかと私に聞く人がいました。昨日見た一つの質問にまだ答えていません。あなたに教えますが、見たその光は、天目の次元が高くない時の現れにすぎません。しかしその存在する物体は実在の物質です。あなたの天目の次元は高くないので、別の空間の生命体が光のように見えたのですが、そのエネルギーが強いからです。もしあなたの天目の次元が高ければ、あちらの物体は目で見るとこちらの物体より、さらにはっきり実在していることに気付くはずで、それゆえ昔の修煉者は、常人社会はまったく見せかけの幻だと言ったのです。

弟子：あなたはすべての執着心を取り除かなければならないと言いますが、しかしあなたが衆生を普く済度すること自体は、執着ではありませんか？

師：なんと愚かな人でしょう！ 溺れて死にかけている人を見て、救ってあげることが執着と言えますか？ 私はあなたを済度しに来たのであり、修煉しに来たのではなく、あなたはこの事をはっきりと分別しなければなりません。しかも私はもっと大きな事を行なっていますが、ただ人間世界で法を伝えているにすぎません。

弟子：衆生を普く済度して、苦難から解脱させるために、心に生じた慈悲は、情と言えますか？

師：あなたが今の基礎の上に立って話す慈悲は、実は情の作用です。慈悲は情ではありません！ 常人には情があるものです。昇華して上がったあと情がない状況で、何が慈悲か、初めて本当に理解することができます。

弟子：天目が比較的高い人が、いつも学習者の修煉がどこまで進んでいるのかを話していますが？

師：その人は法輪大法を破壊しています。皆さんに教えますが、どんな時でもこうい

ったことを信じてはいけません。ある人がどのくらい高くまで煉ったとか、誰かにいいかげんに言うことは絶対に許されません。顕示心に駆られてこういった事を話したがる人がいますが、天目が開いても、あなたはその人がどこまで修煉したかが見えるとは限りません。極めて特別によく出来た人は本当に見えたとしても話しません。我々は互いに切磋琢磨するために、あなたのどこそこの功がどうなったとか、良いものを煉り出したなどを話しても構いません。しかし、あなたはどこまで煉ったとか、私はどこまで煉ったとか、彼はどこまで煉ったとかを言うならば、それは法を破壊しています。このような現象は、絶対に彼に見せることはありません。それは人の執着心を助長することではありませんか？ 互いに顕示すればどのような現象も現われ得るのです。私はやはりこの言葉ですが、皆さんはどんな時でも、心性の修煉の高さをもって基準としなければなりません。心性が高くない人こそ、こういったことをするのはです。心性が高くないのに功が高いはずがあるでしょうか？ 功が高くなければ正確に見ることができのでしょうか？

弟子：新しい学習者でも、講習会で師父から法輪や気機、法身を与えられ、いずれも極めて貴重なものです。「失わなければ得られず」の宇宙の理に従って言うならば、私たちはこれによって何らかの代償を払わなければならないのでしょうか？

師：法身はあなたを保護しますが、決してあなたに与えたものではありません。実際、私はあなたに法を得させ、修煉させ、返本帰真させるだけです。あなたの向上したい心だけがほしいのです。

弟子：密教の中の法輪と、先生が説いた法輪とは区別がありますか？

師：同じものではありません。あの法輪は意念であり、かつ人の意念によって制御するものです。私のものは本当のものであり、形、実体があります。

弟子：私は香港の天壇大佛を見学しましたが、今の社会で、どうしてこんなに大きな佛像を建てたのでしょうか？

師：それは常人がしたくてしたことです。現在の佛教では、より大きな寺院を建てたいと思う人がたくさんいます。それはみな常人のことです。

弟子：修煉して圓滿成就すれば、上で先生にまた会えますか？

師：あなたが真に修めるなら、圓滿成就しなくても私に会えます。圓滿すれば、勿論会うことができます。

弟子：専修弟子とは何でしょうか？ 真修弟子とは何でしょうか？

師：専修弟子とは寺院のような修煉形式で修めれば、つまり専修弟子です。真修弟子とは真に修める弟子のことです。

弟子：私は学生ですが、日頃、坐禅の姿勢で本を読んだり、宿題をしたりしていいでしょうか？

師：日頃、坐禅の姿勢で本を読んだり、宿題をしたりするなら、単に足を組む練習であり、煉功とは言えません。それでも良いところがあって、足を組む時間を延ばすことができますが、単に足を組む練習です。

弟子：三花聚頂の時の元嬰は、本人と同じ大きさでしょうか？

師：それは不可能なことです。三花聚頂の時の元嬰は一、二歳の子供のような大きさですが、それでもよく煉った人に限ります。数カ月の赤ちゃんぐらいの大きさの人もいます。

弟子：生命体が生まれた時、宇宙の特性と同じ、真・善・忍しかないはずですが、どうして先天の性格があるのですか？

師：性格というのは人の性格の問題です。せかせかして、せっかちな性格の人がいて、

どんな事をするのも速いのです。ぐずぐずして、何をするにしてもとにかく遅い人もいます。性格は性格で、これは別の事です。なぜ本源物質が異なる物体を構成できるのでしょうか、木になったり、鉄になったりして、つまり同じ事です。しかし特性はすべて真・善・忍です。

弟子：先生が打たれた大手印は、説かれた法の意味と同じでしょうか？

師：それはより高いものになります。いずれにしても、人が法を得ることは容易なことではありません。この縁の由来も容易なことではないので、この機会を逃さないようにと皆さんに教えています。

弟子：人は修煉して、彼の元神を生んだ両親のいる次元を超えることができますか？

師：今、あなたは妄想をたくましくしないでください。皆さんに教えますが、今のあなたはどれほど低いのかさえ分からないのに、さらにそんなに高いことを考えています。ある人がどれくらい高く修められるかは、その人の忍耐力とその人の身に付いている徳と業の物質の比率によります。つまりあなたの根基とあなた自身の忍耐力という要素が、あなたがどれくらい高く修められるかを決めるのです。それで、あなたがそれほど高く修めようとしても、それほどの強い忍耐力がなければ、その時になると、きっと気が狂ってしまいます。しかし絶対ということでもありません。ただ、今のあなたは人間の思惟なのです。

弟子：赤、橙、黄、緑、青、藍、紫、有色、無色は異なる次元を代表していますが、どの方面から見分けられますか？ 天目が開いていない場合、顔色から見分けられますか？

師：それは見分けられません。それは常人に見えるものではないので、人間の目では見分けられません。

弟子：以前、私はある功を学んで間違っって横道にそれてしまったことがあるので、あ

る物体がずっと体内を動き回っています。今は法輪大法を修煉することを決心しました。しかし何か妨害に来る夢を見るのですが？

師：あなたが何を修めたいか、何を煉りたいかは、あなたの心次第です。すべて自分の一存で決まります。大法を修めようとする心が確固としたものになれば、もう誰も妨害できず、もはや妨害することも許されなくなり、私も許しません。

弟子：元神の年齢が若かったら、高く修めることはできないのでしょうか？

師：元神が若いかわ老いているかに関係なく、それによって決まるものではありません。

弟子：大法を聞いた後で、修煉はととても差し迫っていることを知りました。どのようにすれば、勇猛邁進する大きな忍の心を増やすことができますか？

師：忍ができるかどうか、忍がどの程度までできるかは、すべてあなた次第です。忍の能力を増やす何の訓練法もありません。あなたが苦を嘗める中で耐える力によって決まります。心の中に法があり、慈悲を持って周囲の一切に対処すれば、どんな事に遭遇してもよく行なえるでしょう。

弟子：功身と法身にはどんな違いがありますか？

師：皆さんが功身を持つことはあり得ませんし、これからも持つことはありません。修煉が圓滿成就してからは、法身しか持つことができません。宇宙の中の一切の生命は功身がありません。

弟子：様々な心を取り除く試練は世間法で一通り経験しますが、出世間法に達してから、各果位でまた一通り経験するのか、それともある果位の上中下の各層でそれぞれ一通り経験するのでしょうか？

師：修煉過程の中で、全体の道はすべて按排されており、悟りを開くまでの道はつま

り一つの修煉過程です。その修煉過程の中であらゆる心を全部取り除かなければなりません。世間法の次元、出世間法の次元ということではなく、圓滿成就するまで一括してそのように按排してあげています。

弟子：宇宙の中の成、住、壊とは、あらゆる悪いものを爆破させて、また新たに組み合わせるといえることでしょうか？

師：以前はそのようにして、悪いものを壊滅してまた作り直しました。人類は幾度も壊滅させられましたが、一部の人にはこれを理解できません。あなたは常人の立場に立ってこれらの問題を考えるはいけません。先日、私はこんな道理を説きましたが、相当高い次元の佛道神から人を見れば、人間はあまりにも微小なものですが、さらに高い次元の大覚者から見れば、如来さえもみな常人です。そして、もっとも高い大覚者から見ると、人間はまるで細菌や微生物にも及ばないのです。人類の道徳が退廃し、地球が腐ったリンゴのようになってしまったら、それを捨てるのは、当たり前なことではありませんか？ その境地にいなければ、これらのことは非常に認識しにくいのです。

弟子：真に修める弟子のために、どうか主元神を浄化してくださいませんか？

師：すべきことはすべてやりました。あなたには分からないことがあるので、むやみに考えないでください。将来、あなたたちは最も素晴らしいのです。

弟子：以前、観音像の前で線香を焚く占い法を使う人がいましたが、今、師父の法像で観音像を開眼させたので、まだこの占い法を使えますか？

師：あなたはその線香を焚く占い法を使って何をしますか？ それは常人のやり方ではありませんか？ 修煉者として、何を占うのですか？ あなたは何を知りたいのですか？ 難があるかどうかを知りたいのですか？ その難を避けたいのですが、避けてしまったらあなたは向上できなくなり、それでどうやって修めるのですか？ または儲けられるかどうかを知りたいのですか？ あなたがしっかり仕事をすれば、

よくできたら事業が自然に大きくなり得るべきものは当然得られます。これらのことはすべて常人の事なので、大法を修める人がするべきではありません。勿論、小道をやる人なら使っても構いません。

弟子：専修弟子の修煉は寺院の中の和尚の修行と同じだと、先生はおっしゃいましたが、常人社会を離れたら、どのように心性を錬磨するのですか？

師：専修弟子がどのように修めるかは、この講習会で話していません。それは将来の事です。専修弟子でも常人の中に行かなければいけません。昔の和尚は行脚にでかけて、常人の中で物乞いをしながら、苦を嘗めて金銭や物を蓄えることも許されませんでした。常人の中で行脚することは、つまり常人の中で錬磨する良い機会なのです。

弟子：結跏趺坐を練習する時、足を組んでから、帯で固定して練習してもよろしいでしょうか？

師：このことに対して、特殊な要求はありません。自分の状態によって行いましょう。

弟子：国は……？

師：国に関することや、常人の中の具体的なことについて、私は解釈しません。政治に関係する問題も私に聞かないでください。私たちは政治や国の法規に干渉しません。我々煉功者はどのように行い、いかに無為になり、いかに行なうべきかについて、すでに話しました。

弟子：人々がみな心法に従って律するなら、人類世界は佛家の浄土になることが可能ですか？

師：人類の道德水準がみな上昇すれば、それは可能なことです。可能というよりそれは必然的なことであり、今の状況から見ればそのようになります。しかし誰でも佛になることは不可能です。人の心性の高さは同じではなく、忍耐力の大きさも同じでは

ないからです。人類社会は必ず存在していきます。なぜなら、それは大法は上から下までにおいて最も低い次元での体現なので、天国と同じようになるはずがありません。

弟子：煉功者がもし骨折したなら？

師：煉功しても三日坊主で、まともに煉ることも、心性の基準に基づいて自分に要求することもできない人がいます。そのような人は法輪大法の弟子とはいえず、どんな事でも起こり得るのです。その時にあなたは、法輪大法の弟子が骨折したと言います。しかしあなたに教えますが、真に修める人は普通、骨折するようなことはありません。ごく少数の人は、もし前世にそのような業の借りがあつたら何とも言えないので、注意しなければなりません。輔導員は新しい学習者に煉功を強要してはいけません。強要すれば問題が起きるので、それは私のやり方ではありません。大法は自分の心が変わることを講じています。強要すれば、強制することになるのではありませんか？この問題には特に注意してください。

弟子：新しい友人に法輪大法を紹介してから、自分の心性と身体の状態が悪くなったことに気付きました。それは人に法輪大法を話したせいですか？

師：それはあなた自身の感覚にすぎないでしょう。学びたい人は、あなたの話を聴いただけですぐ学びたくなりますが、あなたには状態が悪くなるなどのような感覚はありません。それは身体を浄化している状態で、業を取り除いている現れです。

弟子：私は中学の教師です。生徒たちに法輪大法を教えたいと思うのですが、それが正しいかどうか分かりません。

師：それは勿論正しいことです。高く理解することはできなくても、身体を鍛練することができます。本当にこの法が理解でき、皆が善い人になろうとして、心が善に向かうなら、私に言わせれば、それは素晴らしいことではありませんか？もし彼らが高い次元へ修煉したいと思うなら、あなたは大きな功德を積むことになります。

弟子：引越しの時に、不注意で先生の写真を擦ってしまいましたでしたが？

師：故意ではないので、誰もあなたを咎めることはありません。

弟子：周りの人に煉功のことについて聞かれたら、皆に伝えて、教えてもよいでしょうか？

師：皆に学びたい願望があるなら、教えてあげましょう。相手が進んで聞いてきたのに、教えないわけはありません。それは法を広めることでもあります。

弟子：法輪大法について話したあと、固く信じていた私は何故か、法輪大法の功法の原理に疑問を抱くようになったのですが？

師：これには多方面にわたる原因があります。あなたの悟性の問題か思想業力の問題があり、また自分の理解が深くないので、相手に話しても、信じてもらえません。あなたは初心者なので、これらの原因があなたに対する妨害になるかもしれません。一般には、外部からの妨害は非常に少ないのですが、多くはあなたの思想業力と、あなた自身の大法に対する理解が浅いことによって、もたらされたのです。それに相手が信じないことで、あなたにこういった考えが生じることもあります。

弟子：冬に、神通加持法を煉った後で足を解いてから、身体がとても冷える感じがしたのですが、このような現象は正常でしょうか？

師：初期に煉功する時、一挙に高い境地に達することはありません。そこに坐っている時に身体が気持ち良く、ホカホカするというようなことは初期にはありません。煉功の初期段階には身体に業力があり、こういったものは黒くて冷たい性質なのです。煉功自体は業を消去するのですが、少し寒く感じるという現象が存在します。それに冬場なので、あなたの身体が一挙に変わることはなく、それは不可能なことです。今後は良くなっていきます。

弟子：以前、私は心性をよく守れませんでした。今から修めてもまだ間に合うでしょうか？

師：今は、多くの新しい学習者が修煉し始めたばかりではありませんか。ただし、着実に時間を切り詰めて努力しなければならず、年をとった人は特に注意すべきです。

弟子：人が困っているのを見て助けると、自分の業力が徳に転化するのか、それともその人の徳を取ることになるのでしょうか？

師：人が困っているのを見て助けるのは、善い行いをすることでしょう。その人を助けて良い事をしている時、もしその事がとても困難であるなら、あなたは苦を嘗めるので、あなた自身の業力が転化されます。普通、自ら進んで人を助けるのは自分の意志によるものなので、徳の転化はありません。もしその事が一定の価値があるのなら、それは別の事になります。それから、いつも難に遭うことは、業を返しているのか、それとも何らかの因縁関係によるものかもしれません。修煉者にその因縁関係は見えないので、もしそのことばかりに心を使えば、きっと悪いことをすることになってしまいます。そのために、我々は煉功者に徳を守ることや無為を教えるのです。我々が説いたのは次のような意味もあります。常人は徳を積むことを言いますが、それは常人が常人の事をするので、常人の次元の法によって制御されているからです。ところがあなたは修煉という次元の法によって制御されているので、それらのことに執着するのは正しくありません。

弟子：もし真に法輪大法を修めるなら、正果を得て圓滿成就するまで、先生は難を安排してくださるのですか？

師：そうです。修煉過程において、誰もが難に遭わないといけません。その上、その難も自分が造った業なので、難の中から自分の心性を向上させるのです。様々な面倒な事に出遭う時、どのように対処しますか？ 煉功者としてどのように振る舞いますか？ 他の人と同じように対処してはいけません。圓滿成就するまでの修煉の全過程で、そのような問題にぶつかることはあります。しかも、圓滿成就に至るまで、あな

たが法に対して確固としていられるかどうか、この方面の試練もあります。もし根本的にあなたが法に対して信じていないなら、他のことは話にもなりません。

弟子：中か下かの根基しか持たない人にとって、極楽世界と法輪世界のどちらがより簡単に修煉できますか？ 宇宙の真ん中の大道に沿って修煉するのが速いか、それとも周辺の小道で修煉するのが速いのですか？

師：大法修煉を他のものと比較してはいけません。修煉の過程で、どのように修煉するかにかかわらず、修煉の要求と基準は同じです。修煉によって達した高さはつまりあなたの次元なのです。宗教の中でそれを果位といい、つまりその高さの果位を得ることになります。

弟子：広州では多くの人が関羽を祀っていますが、先生の写真で関羽を開眼させてもよいでしょうか？

師：関羽は、歴史上佛教では彼を伽藍菩薩と称しますが、人々が拜んでできたものです。ではなぜ道家も関羽を祀るのでしょうか？ それは彼の副元神が修めて成就したのです。また一部の商売人も関羽を財の神として祀っていますが、それはすべて人々が拜んでできたものや、憑依した動物ばかりです。私の法身で開眼してどうするのですか？ 佛は決してあなたがお金を儲けるかどうかに関わりません。根基の良い人、あるいは修煉者が難に遭う時、佛や菩薩は助けてあげるかもしれません。それはあなたを常人という苦しい環境から救い出し解脱させるためであって、お金を儲けさせることではありません。もし人間にどんな病気もなく、どんな難もなく、快適で、神仙より心地よく暮らしているなら、あなたに修煉するように言っても、やろうとしないでしょう。そのために苦を嘗めたくないでしょう。ここで存分に楽に暮らしているのに、極楽世界なんていく必要があるのでしょうか。そんなことがありえますか。生々世々に造った業は返さなくてよいのですか？ 業を返すのに、楽に暮らすことがありえるのでしょうか？ 実は、拜んでできたものや憑き物などのようなものは、決して無条件にあなたを助けることはありません。それは、あなたの身体から欲しい物を取ります。ですから、金を儲けることは決して良いことではありません。勿論、財の有無

には複雑な原因があって、求めて得られるものではなく、自分の前世がもたらしたもののなのです。

弟子：肉親の情や、愛情、友情は、慈悲心から生まれた愛との違いをどのように考えるべきでしょうか？

師：現在のあなたは、まだ人に情がない時の気持ちが分からないので、慈悲心が何かも分かりません。今あなたが想像した慈悲はやはり情から出ているものなので、本当の慈悲はあなたが感知することができません。人間の嫉妬心、歓喜心、闘争心、不服の心、恐怖心など、いずれにせよ、様々な欲望や執着を取り除かなければなりません。好きか嫌いか、何かの事をやりたいかやりたくないか、何かを食べたいか食べたくないか、何に対して嬉しいかどうか、このすべてはこの情から生じるのです。人間はこの情のために生きています。一方、情がなく生きています高級生命はどのような様子でしょうか？ みな眉をつり上げて目を怒らしているのでしょうか？ そうではありません。人がこの情を取り除いたら、慈悲心が生じてきます。大覚者はどうして人を済度できるのでしょうか？ 彼には慈悲があり、衆生を哀れに思うからです。

弟子：足組みを練習するために、あお向けに寝ているとき、足を組んだままでよいでしょうか？

師：これには特に反対しません。足を抑えたり、または何らかの方法で足組みを練習したりしても構いませんが、皆もそうするように勧めるわけではありません。この方面の業力がある人、また修煉がなかなか向上できない人は、悟性が上がりず動作ばかりを煉っています。このような人たちは無理に重みをかけて抑えたり、あるいは何か強制的な方法で練習したりすれば、いきなりポキッと骨が折れるかもしれません。そうであれば法輪大法を煉るためにこうなってしまったと人に言われるので、我々に大きな損失をもたらすことになります。ですから、皆さんに同じようにすることを要求しません。人それぞれの状況は異なり、とても複雑だからです。

弟子：時に夢の中で見たことが現実になりました。これは……？

師：夢の中で見たことが、翌日あるいは数日後、その事が本当に起きました。また、何かを行なう時にまるで以前この事をしたことがあるように感じます。しかし記憶の中にそうしたことがないのに、感覚ではいつかそうしたことがあるようです。多くの人にはこのような感覚があります。あなたの前世、あるいはずっと昔にそのような事をしたことがあり、もしくは、あなたが前もって将来発生することの中に入って行ったのかもしれませんが。見えたのはつまりこれが原因です。

弟子：真と忍が矛盾する時があります。例えば、人が嘘を言ったのを聞いたら、真に基づいて指摘するのか、それとも忍をしますか？

師：やはり私が言ったように、煉功者として徳を守り、徳を失わないようにします。今の常人はすでにこのようになり、平気で嘘をつきますが、それは常人のことなので、あなたがどうすることもできません。もし指摘して相手の痛いところを突いたら、その人は本当に歯ぎしりするほどあなたを恨みます。ですから、我々はいかに自分をしっかり修煉するかが、一番重要なことです。本当に重大な悪人や悪事、大事な原則的な問題に出遭ったら、例えば殺人や放火に遭ってもあなたが手をこまねいているなら、私に言わせると、それはあなたの心性が良くないのです。つまり、あなたがどのようにこれらの問題を見るかのことです。

弟子：法輪大法の学習者は、^{カッサ}刮痧を学ぶことができますか？

師：法輪大法を修煉するあなたが、こういったものをして何をするのですか？ あなたが自分に刮痧をするのですか、それとも他の人に刮痧をしてあげるのですか？ 皆さんに教えますが、それはまじないであって、以前中国の東北では、跳大神は、このようなことをやります。そのような人は、憑き物にとりつかれて妄りな挙動を行い、彼らはこのようなことをするのです。

弟子：武術をやる人が同時に法輪大法を修煉すれば、破壊的な影響を受けるでしょう

か？

師：受けません。純粋な武術なら受けません。しかし一部の道家の武術は内修のものを帯びているので、妨害を受けます。例えば、太極拳、形意、八卦の類いのものは、すると混ぜ入れてしまうので、してはいけません。それは気功に属するものなので、私があなたに植え付けたものが乱されることとなります。勿論、どうしてもあなたに法輪大法を修煉させるということではないので、もしあなたが太極は良い、形意や八卦が良いと思うなら、してもかまいません。ただし私は一つの理を言っています。煉功や修煉は厳粛な問題であり、専一でなければなりません。

弟子：私が煉功している時、無意識のうちに、自分の身体のそばに自分と同じ形の影が煉功しているのが見えたのですが？

師：一般的に、副元神は身体から離れて修煉することは許されず、いつもあなたと一緒にいて、あなたと同時に修めて煉るのです。勿論、絶対ということではなく、個別の状況もあります。あなたの身体を調整してあげている間に、彼が出てくることもあります。

弟子：講習会の二日目と三日目に、木の繊維のようなもの、またはぼろ布のようなものを吐き、次の数日間、咳と共に血を吐き続けましたが？

師：それは良いことでしょう。私が話したように、下痢をしたり、吐いたりする人もいます。いずれにしても、あなたの身体を内臓まで浄化してあげて、あなたは初めて本当に修煉できるようになるのです。浄化してあげなければこのような汚れた身体でいる限り、功が出ることはありません。ですから、そのような現象は非常に良いことです。血の塊のようなもの、膿や血を帯びたものを排便する人もいます。皆さんに教えますが、人間は何でも食べ、どんな良くない事もするので、身体を目茶苦茶にしましたのです。いずれも、排出させ浄化してあげなければなりません。今後皆さんはしっかり修煉しましょう。多くの方は修煉しなければ、悪性の病気に罹ることになります。修煉してから身体を調整している時に、すべて排出することになります。

弟子：三花聚頂に達したら、生死から抜け出すことができるのでしょうか？

師：法輪大法で三花聚頂という次元まで修煉した時、世間法修煉の最高次元に入ったこととなりますが、まだ三界を出ていません。さらに修煉していけば、浄白体という状態に入ることになり、身体が完全に高エネルギー物質に取って代わります。その時になって、世間法と出世間法の過渡段階に入ることとなりますが、多くの事はこの過渡段階でやってあげるのです。勿論、あなたは世間法修煉を出たら、初めて本当に生死の輪廻から抜け出して三界を出ることになります。

弟子：坐禅している時、痛くて耐え難くなりますが、それ以上我慢して坐禅し続けるのは、執着心ではありませんか？

師：執着心ではありません。あなたが我慢している時、苦痛に耐えており償いをしています。それは執着心ではなく業を消去しています。昔、一部の人はそれが分からず、坐禅している時、足が辛くなったらすぐ崩し、身体を少しほぐしてから坐禅し直します。また辛くなったら、また足を崩して身体をほぐしてから煉功を続けます。彼はそうのように煉ることがとても良いと思いますが、実は何の効果もありません。本当に坐禅して足が痛くなり、その痛さが激しくなった時、とても大きな業力が消去されていくのが見えます。消去された物質は消えてなくなるのではなく、白い物質に転化されます。あなたが苦しい目に遭って代償を払ったので、それを徳に転化することができます。坐禅する場合の痛みは通常、断続的に現れしばらく痛くて耐えきれないほど辛くても、それが過ぎると大分和らぐようになります。しばらくすると、また痛みが激しくなります。それは心性を修めることと関わっているので、心が辛くなります。「その筋骨を勞せしめ、その心志を苦しめる」ので、坐禅する時にあなたの心が辛くてたまらなくなり足を崩してしまえば、それは忍ができていないのです。

弟子：先生の要求する通りに真剣に心性を修煉すれば、今生でも必ず出世間法を成就できますか？

師：誰がそのようにあなたに教えられるのでしょうか？ あなたはこのような決心がありますか？ あなたの忍耐力や我慢できる程度は、あなたの一存で決められます。「師は入口まで導くが、修行は各自にあり」なのです。

弟子：昼間にはある方面の心性を守れたのですが、夢の中では守れませんでしたか？

師：昼間、はっきり分かっているながら心性を守ることは容易いことです。あなたが心性をしっかり修めているかどうか、しっかり守れるかどうかを確かめるために、睡眠中あるいは深く入定する中であなたを試練すれば、最もよく分かるのです。このような問題は誰にでも起こりますが、守れなかったなら、まだ堅実ではないということです。

弟子：憑き物がついている人が法輪大法を学びに来れば、憑き物は殺されるのでしょうか？

師：我々のこの法は、こういった動物に聞かせないので、それらはこの会場に入る勇気はありません。もし入って来たなら、ただちに処理されます。我々はいつも三日目に、学習者の身体を徹底的に浄化してあげています。

弟子：煉功の時に入静してから、何かの動物が自分に近づいたり、そばで様子を伺ったりするのが見えたが？

師：それに構わないでください。もしそれがあなたに近づこうとしたら、先生の名を呼んでみてください。もしそれが好奇心のためにちょっと見てみたいのならば、気にかける必要はありません。あなたに近づくことは許されません。

弟子：第五式の功法の「柱状加持」を煉る時、両手の間にとっても強い気流がありますが？

師：加持というのは、エネルギー団、つまり様々な機能を加持することです。その大

多数は球状のもので、球状の機能であり、この類いの機能は最も多いのです。そのような機能は一万種にもとどまりません。掌を向き合わせるのは柱状の機能を加持するものです。打ち出したものは、レーザー光のようなもので、例えば掌手雷のようなものです。両手の間には非常に強烈な気流がありますが、敏感で感じる人もいれば、感じない人もいます。

弟子：先生が言われる副意識は、一般に言われる靈魂のことでしょうか？

師：過去の名詞をここで当てはめないでください。私は、現在の人体科学と現在のこの科学を結びつけて話しているので、最もわかりやすく説明しています。三魂七魄やら、あるいはあれやこれやは、非常に曖昧なものです。あなたの五臓六腑はすべてあなた本人の姿かたちで、あなたの身体のすべての細胞もあなた自身の姿かたちです。あなたの功の微粒子も、すべてあなた自身の姿かたちです。いわゆる三魂七魄とは何を指しているのでしょうか。とても曖昧なものです。それに、あなたには主元神や副元神もいます。ここで話したことは決して迷信などではなく、現代科学でも、すでにこの問題を認識しています。マウスの細胞組織を薄く切り、何らかの方法でその画像を送らせ、千里以上も遠く離れたところでそれを受信したら、一つ一つの細胞の画像はマウスの姿かたちになっています。これは私が神秘めかして話しているのではなく、科学技術が今日まで発展してきた、迷信だと思われていた多くのものが、今はすべて科学によって実証されています。科学がそこまで発展しておらず、あるいは我々に認識されてもまだ広く知られていないものが、存在しないとは限りません。

弟子：先生の講義中、前方一面に黄色い菊の花が見えました。何かの意味を表しているのでしょうか？

師：あなたに見えたのは一塊一塊の黄色の光であり、菊の花ではありません。その黄色の光の中には奥妙なものがあり、この学習者の根基は非常に良いのです。

弟子：私は科学技術者ですが、縁あって先生が伝授される法輪大法を遠路はるばる聞きに来ました。数回の受講中に毎回先生の法身が見えてとても嬉しかったのですが、

しばらくすると見えなくなりました。歡喜心のせいなのでしょうか？

師：そうではありません。多くの方はぼんやりとしているうちに何らかの景象が見えましたが、なぜまた見えなくなるのでしょうか？ あなたに見えた時、意識の中で見えたと思ったので、注意してよく見てみようとする、すぐに消えてしまうからです。あなたは注意して見てみようとする、目を使ってしまいます。なぜなら、普段習慣的に、目でものを見ているからです。無意識のうちに天目でものを見る時は、目を開いていても閉じていても同じなのです。目を閉じて見ることに慣れた人もいれば、目を開いて見ることが習慣になった人もいます。あなたが注意深く見てみようと思うと、目を使ってしまいます。目を使えば視神経を通してしまい、この通路を通らないので見えなくなります。つまり、あなたはまだうまく使えないからです。

弟子：それぞれの人は、それぞれの次元までしか修められないのでしょうか？

師：勿論、これは絶対というわけではありません。皆さんに教えたが、それには忍の問題があるので、絶対というわけではありません。

弟子：海外の雑誌に先生の法輪大法を掲載し、宣伝してもよろしいでしょうか？

師：法輪大法を広めることは、私はここ数年来、進んで行なったことはありません。すべて学習者が進んで行なったのです。私たちには投稿する人すら非常に少なく、新聞に載ることもあまりなかったようです。我々の講習会がこんなに大きくなったのは、いずれも皆さんが身をもって受益し、法輪大法が素晴らしいと感じたからこそやって来たのです。今日一人が参加したら、次に家族全員が参加しに来て、その次には親戚友人までも連れて来るので、このように多くなったのです。皆さん自身が素晴らしいと感じるのは、私に言わせると、これは最も説得力があり、宣伝より良い効果を取られます。勿論、宣伝することも必要不可欠なことです。以前、私たちを助けてこの事を行なう人はあまりいませんでした。当然ですが、進んでやる人たちも我々学習者自身なので、その事をしてよろしいです。

弟子：もし家に犬を飼っている場合、家で煉功することができますか？

師：こういったものは非常に靈氣を得やすいのです。靈氣を得ると、人を害するようになります。佛教には昔「殺さず、飼わず」という言葉がありました。このことを絶対視せず、適切に対処できれば大丈夫です。

弟子：この数日間、私はどこに行っても、法輪大法の音楽が聴こえる気がしますか？

師：それは天耳通といい、とても素晴らしいことです。天上もこの煉功音楽を聞いています。

弟子：資料集に線を引いたり、注釈を書いたりすることは駄目なのでしょうか？

師：私の書いたもの、あるいは私が話したものに、皆さんはそこに線を引かないでください。特に『轉法輪』という本は、多くの天目が開いた人が見ると、金色の光を放ち、どの字も私の法身であることが見えます。人には業力があり、修煉して世間法を出ていない弟子の身体はやはり清らかではなく、あなたが書いたものは真っ黒なものであり、なぜならあなたの身体がまだ高度な浄化に達していないからです。あなたが書いた一点一画はすべてあなた自身の姿かたちであり、同時に業力をも帯びています。

弟子：私は軍人です。時には一、二週間も出張して煉功ができません。法輪は回収されるのでしょうか？

師：そんなことはありません。それはあなたの仕事だからです。修煉とは、修は第一のことであり、最も重要なことです。法輪大法の修煉者が厳しく自分の心性を要求し、普段とてもよく行なっているのなら、仕事で一定期間外出しても、あなたの法輪や功は弱まらないばかりか、向上することさえもできるのです。なぜでしょうか？ 私は話しましたが、本当にあなたの次元の高さを決める功は修によってできるもので、煉によってできるものではないからです。動作と手法によって煉っても、ただすでに持っているものを強化して加持するだけです。以前、多くの人が出張して半月後帰って

から、その功はかえって高くなりました。どこへ行っても良い人であり、常にこの法に従って自分に要求すれば問題ありません。帰ってから多く煉功して補えばよいのです。

弟子：戦争に行ったことのある人は、修煉ができますか？

師：ここで次のような問題を話してみましょう。昔、宗教の中では、殺生して特に人の命を殺めたら、修煉することは非常に難しいと言いました。戦争の時代を経てきた人や、戦場に行ったことのある人は、この問題にどのように対処しますか？ 皆さんに教えますが、私が説いた人の執着心を取り除くこととは、すべて自分の主観的願望であり、私利私欲のため、常人社会で執着心のために行なった殺生を指します。一方、戦争のような状況は天象の変化、社会の変化がもたらしたことです。あなたはただ天象の変化、社会の変化という運動の中の一分子にすぎません。もしその分子としての作用がなければ、このような天象の変化も成り立ちません。ですから、この問題を分けて考えなければならず、これは別々の事です。

弟子：聞くところによると、神話小説『西遊記』は修煉の本だそうですか？

師：それは修煉の本ではなく、ただ生き生きとした修煉の過程を描いたものです。この物語は九×九、八十一の難を描き、つまり多くの魔難に遭遇しましたが、魔難の現れ方もそれぞれ違います。彼はそのような形の魔難の中で修煉してきましたが、最後の最後になっても、まだ一難が足りずだめだったので、やはりその一難を彼に嘗めさせなければなりません。つまりそのような趣旨でしょう。

弟子：男性が足を組む時、左足を先に組み、右足を後に組むのでしょうか？

師：男性が半跏趺坐をする時、左足が上にあり、右足が下になります。女性は右足が上で、左足が下です。結跏趺坐をするときは、外側から下の足を持ち上げれば、結跏趺坐になります。どうして男性は左足が上で、女性は右足が上なのでしょう？ 結印も同じです。男性は純陽の身体に属し、女性は純陰の身体に属するからです。煉功

は陰陽のバランスを重んじるので、純陰あるいは純陽を抑制し、不足の陰あるいは陽を増強して、陰陽のバランスがとれるようにします。女性であれば、陽を強化して陰を抑制するので、そのような作用があります。

弟子：先生の講法の録音テープを聞いていますが、ある日の朝、私は目を閉じてベッドで横になっている時、そばで誰かが話しているのが聞こえました。すると私は急に全身が重くなり、身動きが取れないように感じました。それから、あごの骨が誰かに力強く押された感じがしました。すると、もともとぴったり閉じられなかった口が、自然に閉じられるようになりました。その後、周りの人からもあごの骨が低くなったと言われましたが？

師：それは数人の法身が、あなたの身体を調整してあげたのです。

弟子：鏡に向かって目を閉じて煉功している時、いつも無意識のうちに鏡の中に、白黒写真のネガと同じような自分の影が見えますが？

師：天目が開いたばかりの時、ものが白黒に見えるので、白いものが黒く見え、黒いものが白く見えます。

弟子：足を組んで静功を煉っている時、耐え難くても足を下ろしたくないので、その時先生の話をお思い出すのは、意念を加えることになりますか？

師：それは意念を加えることではありません。先生のお話を思い出すのは忍を増し、堅持しようとする事なので、それは意念などではなく、精進の現れです。

弟子：煉功場で、古い学習者が私の身体に何かが憑いていると言いましたが？

師：他人のでたらめな話を聞かないでください。多くの学習者は天目が開いた後、自分の心から幻覚が生じ、しかも、憑き物と前世から持って来た形象とを区別できません。それに、その形象はあなたの主元神とは限らず、副元神の形象かもしれないので

すが、彼はこういうことをまったく見分けられません。一部の学習者のでたらめな話を聞かないでください。見分けられずでたらめに言うと、それこそ法を乱すことです。

弟子：解決できない難題にぶつかった際に、先生の写真を見ていると、先生の写真や法輪の周囲がきらめくことがあります。その時に、私はいつも涙が流れ、気持ちも晴れますが？

師：これは一つの現象です。真に修める弟子は、様々な現象に出会います。あなたに精進するようにと励ましているのです。

弟子：真・善・忍という基準を用いて、どの功法が正法なのか、邪法なのか見分けることはできるでしょうか？

師：それは勿論です。宇宙の特性は真・善・忍であり、我々の功に特有なものではありません。それは宇宙の特性なのです。我々は真・善・忍に従って修めているのです。真・善・忍の特性に符合しないものは、すべて邪なものです。

弟子：気機があるだけで、私は一生懸命修煉すれば、どのぐらいの時間をかければ、法輪を形成できるのでしょうか？

師：それはあなた自身が苦に耐えられるかどうか、修煉する決心を固めたかどうかによります。もしあなたが本当に決心して修煉し、以前の自分の間違いを真剣に反省して、以前よりさらによく行なうことができれば、もしかすると、あなたにまた法輪を与えるかもしれません。それも有り得ることです。つまり、こういった事は絶対的なことではありません。

弟子：修煉の道のりでたくさんの魔難に遭った人が、努力を通じて法輪大法を修煉することができますか？

師：縁があり法輪大法を修めたいと思うなら、誰でも修めにきてよいのです。しかし、

修めたくなければ、無理強いして来させないようにと、私は強調します。その人に興味がなく、信じないのに、あなたがどうしても行きましようと言って、無理に学ばせようとするなら、私に言わせると、これはいけません。

弟子：私には二十八年間、憑き物が憑いています。法輪大法を学んでから、今でもそれが離れませんが、どうすればよいのでしょうか？ 修煉して正果を得て成就できるのでしょうか？

師：これほど長い間憑いていても、あなたは追い払おうとしません。法輪大法を学ぶ目的は、それを追い払うことですか？ それを追い払うために法輪大法を学ぶのなら、それは求める心をもって学ぶことになります。この法を伝え出したのは、人に真に修煉をさせるためであり、身体を調整して病気を取り除いてあげる目的も、すべてあなたに修煉させるためです。もしあなたが病気を治すために来たのであれば、こういった事をしてあげるわけにはいきません。私が説いているのは一般の気功ではなく、さらに高い次元のものです。どのように対処すべきか、自分で考えてみてください。トラブルがあるのは、多くの場合、自分に問題があるからです。二十八年どころか、二千八百年でさえも一瞬のことです。

弟子：普段は心性のことに對して耐え忍ぶことができるのに、夢の中ではどうして忍を守れないのでしょうか？

師：修煉がしっかりできていないからです。真に修煉するのは非常に厳肅なことです。常人の中でたいしたことがないと思って、いい加減にしていれば、夢の中できつと関を乗り越えられません。

弟子：周囲の同僚や友人に関心を寄せ自発的に助けることは、先生の言う無為と矛盾しているのでしょうか？

師：やはり私が言ったその言葉ですが、今、あなたにあらゆる有為の事を放棄させるのは不可能なことです。今のあなたはできるだけ自分で悟って、自分が思うように行

なえば、次第に多くの事が放棄できるようになります。少しずつ進めばよいでしょう。周囲の人に法を得させようと助けることは、別のことです。

弟子：大法輪を回すとは、どんな意味でしょうか？

師：それはすなわち大きな法輪を回すということです。どれくらい大きいのでしょうか？ いずれにしても相当に大きいのです。私がどれほどの大きさの天体の中で法を正すかによって、それほどの大きさの法輪を回すのです。

弟子：いわゆる陰陽の目で鬼が見えれば、その人は天目が開いているのでしょうか？

師：いずれにしても、皆さんに教えますが、常人に見えないものが見えれば、つまり天目で見たものなのです。当然、この天目の主通路はここにあるのですが、他に山根の部位で見る人も比較的多いのです。勿論、わずかの人は肉眼を通して見える人もいます。

弟子：私は坐禅する際に、時々上半身が後ろへ倒れ、坐ってられないほど両足が上へ上がりますが？

師：それは私が話したように、脈が通ることです。後ろへ倒れるのは、あなたの体の前面はよく通っていますが、背面がよく通っていないため、重く感じるからです。どちらもよく通るようになれば、体は浮き上がろうとして、舞い上がるような感じをもたらします。

弟子：煉功は専一でなければならぬ問題について、分からないことがあります。法輪大法を煉る人は、今までの生活の中の趣味をもつことができるのでしょうか？

師：今のあなたはこのように行なってもよいのです。今すぐ七情六欲をすべて放棄することが、あなたはできますか？ まったくできません。なぜなら、一部のものはあなたの観念の中ですでに自然な状態として形成され、自分の良くない心理状態を察す

ることができなくなっているからです。つまり皆さんは修煉の過程で厳しく自分に要求し、様々な執着心を次第に取り除き、徐々に向上してきた時、自分が出した質問を思い出すと、あなたはきっと恥ずかしくなるでしょう。

弟子：法輪大法は、異なる時期に人類に劫難がやってきた時、人類を救ったことがありますか？

師：私は次のように道理を話します。人類に危険な時期がくるにしても、あるいは劫難があるにしても、私はそれに言及していませんが、人類がこのように道徳が滑落してはいけないことに、我々は気付いています。滑落し続けることは確かに危険なのです。だからこそ、我々が今日行なっていることは、皆さん考えてみてください。高い次元へ向けて功を伝えることはすなわち、人を済度することなのです。人類を救って良いことをするとは、どんなことでしょうか？ 私は自分の力でできる範囲のことをしています。あなたの聞くことは高すぎるので、はっきり教えることはできません。

弟子：忍とお人好しの違いはどこにありますか？

師：お人好しをどのように理解しますか？ あなたはその基準をどのようにしていますか？ 複雑な環境の中で、誰かを指摘するだけですぐに非難され、周囲が全部このような状況であれば、仕方がないと思い我慢すれば良いだろうと思うでしょう。常人として、自ら他人の非難を買いたくないなら、私から言えば、この人はあなたが言うようなお人好しとはちょっと違います。能力があっても手を出さない人が私に言わせれば、これこそお人好しだと私は思います。一方、我々が講じる忍というのは、自身の様々な欲望や執着を我慢し、不必要な煩惱を招かないようにすることで、これもまたお人好しと違います。

弟子：もし何か生命の危険に遭遇したなら？

師：あなたが本当に修煉する人なら、今後の修煉の道を按排する時、こういったものを按排することはありません。すべての事には因縁関係があり、偶然に存在するもの

ではなく、あなたにそれを按排しなければ、遭遇することはありません。それはあなたの修煉と何か関係でもありますか？ あなたの修煉と関係のないことを、我々はできるだけ按排しません。本当にあなたが殺されたら、まだ修煉できるのですか？ ただし、修煉できない常人、あるいは努力しない人、三日坊主の人、それに法に従って自分に厳しく要求しない人、そのような人はまだ修煉者とは言えません。そうすると、常人が遭遇するはずのことに、彼も遭遇することになります。彼は常人なのです。

弟子：気持ちが落ち着かない時に、煉功できますか？

師：情緒が不安定な時、煉功してはならず、あなたも入静できません。ふんぷん怒っていて、あなたは真・善・忍の忍ができていますか？ できていないでしょう？ それなのにあなたはそれを煉ってどうするのですか？ そうではありませんか？ 忍は怒ってから耐え忍ぶのではなく、まったく怒らないことです。

弟子：他人の思想が私の頭の中に入って来ることがあり、私は入静できず、ひどい時にはぐっすり眠れないのですが、これが良いことかどうか分かりませんが？

師：他人の思想を知ることができる機能があり、他心通とも言います。あなたが他人の考えが分かるのは本来良いことですが、自分をしっかり制御しなければなりません。今の人間の頭の中ではどんな悪い事でも考え、見知らぬ人でさえ、あなたに初めて会った時、あなたのことにに関して良いことを考えません。そのため、あなたはできるだけそれらの事に関わらないようにしてください。例えば、私がここに坐って、こんなに口を酸っぱくして皆さんに話しても、会場ではどんな考え方もありますが、私はまったくそれを感じ取ろうとしません。

弟子：神通加持法を煉っている時、時々甘いものが口の中に落ちるのですが、何か分かりませんか？

師：それはあなたの周天が運行する時、脈から流れてきたものをあなたは感じたのです。すべての人がこのようではなく、それぞれの状態はみな同じではありません。

弟子：目を閉じて入静すると、夢と同じように大脳の中で比較的固定した景色や人物が現われ、古代のものがあつたり現代のものがあつたりしますが、それは幻覚ですか？

師：それは幻覚ではありません。ほかでもなく、あなたの天目が原因でもたらしたことです。

弟子：人の執着心とは、一種の習慣的な思惟のことですか？

師：一般の常人について言えば、それはすでに当然のことになっています。口を開けばすぐ個人の利益を語り、頭が働けばやはり個人の利益を考えてしまい、これはすでに当然なことになってしまったのです。しかしそれは先天的なものではなく、後天に形成されたものです。このような良くないものが多くなれば、次第に自分の考えが複雑になってしまいます。

弟子：以前、私は他の功法を練っていましたが、ある日『科学と気功』の雑誌を見ていた時、先生の写真が目に入ると、たちまち楽しい感覚が生まれ、突然ある種のものゝ百会穴から脳の中に入り、それで法輪大法を学ぶことに変えましたが？

師：それはあなたの根基がとても良く、大法を得る縁があつたのです。あなたが好感を持ち、学びたいと思ったので、ただちにあなたを助けたのです。私の法輪はどこにでもあります。

弟子：法輪大法の書籍とカセットテープなどは、なぜ藍色を基調にするのですか？

師：これには特別な理由はありません。常人の目で宇宙を見ると、空は深い藍色で青々としているので、我々はその趣を使っています。もともと法輪大法は、宇宙の特性や宇宙の演化の原理に従って煉っており、これほど大きなものです。そこで、我々は宇宙の色を表現するためにこのようにしたのです。ただし絶対というわけではありません

ん。この色は、この空間では人の肉眼で見るとこのようですが、他の空間では決してこうではありません。それに、他の色に変化したりもします。

弟子：私は神通加持法を煉る時、定印を結んでから、もう一度煉功を始める時の手印をする時があれば、他の動作をする時もありますか？

師：これは正しくありません。あなたにもう一度手印を結ばせて、これは邪なものではないですよと認識させた上で、次にすぐさま邪なものを持ってくるのです。自分自身がはっきりと分かりながら修煉しなければならぬと、皆さんはくれぐれも覚えておいてください。私はこの話を非常に重く言っています。私は非常に強い功を持ってあなたの頭の中に注ぎ込んでいますが、それでも駄目な人がいます。そのような人はなかなか歡喜心を放棄できません。何かの機がやってきて彼を誘導すれば、すぐ歡喜心が生じて嬉しくなり、それに従って練ってしまいます。それはあなたがはっきりと分かりながら練っているのですか？ あなたは自ら煉ろうとしているのですか？ あなたは誰のために煉っているのですか？ 煉功するその人が功を得るという問題は、非常に厳粛な問題です！

弟子：先生が集団煉功を強調されるのは、邪なものや魔の妨害を避けるためでしょうか？

師：そうではありません。あなたには私の法身があり、法輪もあって、あなたを守ることができます。そのようになっています。集団煉功の目的は、皆さんが何かの問題にぶつかる時に、互いに切磋琢磨し探究してさらに向上できるようにするためです。

弟子：私は普段家で煉功する時、心はわりに穏やかですが、時に良くない信息に心を妨害されることもあります。一年来、ずっと先生にお会いすることを待ち望んでいましたが……。先生、私には低い霊がついているのではないのでしょうか？

師：法輪大法を煉っているのに、低い霊が憑くことがあり得るのでしょうか？ それは前世の縁がもたらしたものです。あなたが大法を学ばずに、私に会いたいとばかり考

えるのはやはり執着なので、そのために一年以上引きのばされましたが、まだ悟れていません。

弟子：時々ベッドで横になっていると、突然全身が麻痺して、誰かに押さえられているかのように、手足の動きがとれませんか？

師：多くの人は煉功すると、手や身体が動けなくなるかのようなことが起こり得ます。このような現象はとても複雑で、良い現象です。煉功する時、このような状態が起こることがありますが、定功と呼ばれる功があり、自分でも感じられます。そのために、手足が突然動けなくなる感じがする人がいますが、これは一種の現象です。もう一つの現象は、あなたの主元神が身体から離れることです。それから、師父があなたの身体を調整してあげる時も、あなたを動けないように固定させるときもあります。

弟子：入静するため、先生の名を唱えていますか？

師：私は入静できない原因を話しました。名を唱えれば、少し良くなりますが、一念が万念に代わる作用しか果たせません。根本的に清静に達しようとするなら、執着心を取り除いて、初めて達成することができます。

弟子：先生が説かれる真・善・忍の道理と、私たちカトリックの『聖書』の道理は根本的に同じですが、これは私が感じたことです。そのため、私はキリストを信奉しながら、法輪大法をやっていますが？

師：大法に対して認識の過程があるのは許されることです。今後、あなたが分かっからまた話しましょう。

弟子：煉功中に、何かが自分を傷つけるのが見えた時、先生の名を呼びますが？

師：そうです。そのようにすべきです。煉功中に何か恐ろしいことが現れた時は、私の名を呼んでよいのです。しかし、呼ばなくても傷つけられることはありません。名

を呼ぶこと自体は、大法と師父に対して信じているかどうかの問題でもあります。実は法身がずっと見守っているのです。

弟子：今回、私は広州で法輪大法を学んで、帰ってから故郷の人を集めて一緒に学んでよいでしょうか？

師：勿論よろしいです。故郷の人を集めて学んでいいのです。もし学ぶ人が多くなり、しっかり学んでいたら皆さんをまとめて煉功点を作ってもいいのです。法を広めるのは、すなわち人を済度することです。

結びの言葉

今日でこの法はすべて話し終えました。さらに多く話すことができるでしょうか？分けて話せばさらに話すことができますし、私はここに坐って一年話しても話せますが、そうすることは我々の今後の修煉に対してあまり良くありません。多くのことは皆さんに悟ってもらうことで、具体的な問題を私も皆さんに話してはいけません。具体的な問題を皆さんにすべて話してしまったら、あなたは何を悟るのでしょうか？あなたは何をするのでしょうか？あなたが修煉する機会や環境、条件さえも無くなってしまいます。ですから、皆さんが具体的な問題にぶつかったら、どうやってうまく対処するかは、この法に照らして行なわなければなりません。皆さんに話すべきことは基本的にすべて話しましたが、他の講習会で録音した私の講義を参考にすることもできます。この十回の講義の期間に、私は皆さんにたくさん話をしました。この講習会で私が皆さんに責任を果たしたかどうかは、皆さんはきっと自覚しており、これらの事については私も話しません。我々の講習会は全体的に見ると、始終よく行なってきましたし、最後に圓滿に終了しました。

皆さんの中に遠路はるばる地方からやって来た人は三千人あまりにのぼります。最も遠いのは黒龍江省、新疆から四、五千キロ、八千里以上離れた人たちです。道は非常に遠く、皆さんはとても多くの苦を嘗めたと思います。お金の余裕がなく、毎日インスタントラーメンやビスケットだけを食べて済ませる人さえいます。何のためでし

ようか？ 皆さんがここに来たのは、この法を学び、この法を得るためです。そうではありませんか？ ですから、皆さんもこの法はとても貴重であると分かっています。勿論、十回の講義の中で、私はできるだけ皆さんの要求を満足させて、できるだけ皆さんのために便宜をはかり、できるだけ多く話して、皆さんに理解できるように明確に分かりやすく話して、今後の修煉で皆さんが法に則って歩むことができるようにしたのです。つまり、十回の講義の中で、皆さんは私のやっていることを見ており、高い次元へ皆さんを導くことも、皆さんの身体を浄化することも、その目的は、皆さんが今後修煉できるようにするためです。そして、十回の講義が終わってから、皆さん自身の修煉を見ることとなります。修めることができるかどうか、乗り越えて行けるかどうか、それはすべてあなた自身によります。しかし、私が思うには、皆さんはここに坐っているから、即ち縁がある人です。帰ってから頑張ってみて、その効果を見てください。続けられるなら続けて修めていきましょう。代償を払っただけ、その分得られることとなります。これは間違いのないことです。

我々にはたくさんの経験があり、多くの学習者には多くの自らの修煉体験があり、これらは我々に多くの経験と様々な教訓を提供できると私は思います。要するに、今日ここに坐っている皆さんはこの八日間、十日間、あるいはもっと長い時間を無駄にしてはいけません。人間が真に何かを得ることは非常に難しいことで、せっかく得たのにそれを大事にしなければ、将来後悔しても仕方ありません。中国人には「この村を通り過ぎれば、この店に二度と出会えない」という言葉があります。そうではありませんか？ この講習会を通して皆さんはすでに分かったかもしれませんが、私のような講義をする和尚、または修道者は一人もいません。わが国において、本当に高い次元へ人を導き、本当に高い次元の法を説いているのは、私しかいません。しかも、全世界においても私しか行なっていません。いずれにしても、その目的はこういった歴史時代に、このような人心が非常に複雑な環境の中で皆さんに正法を得させ、本当に向上でき、真に修煉できるようにさせるためです。あなたはたとえ修煉しなくても、この講習会を受講してから、きっと良い人間になれると思います。私はそう信じています。

多くの学習者は「先生、私はあなたの講義を聞いた後、自分の世界観も変わりました

た」と私に言いました。確かにその通りです。人々は今のような時流の中で、間違っ
たことを正しいこととし、悪いものを良いものとし、悪を善とし、そのような観念を
すでに形成してしまいました。人々が皆このような時流の中で執着を持って求める時、
私がいきなりあなたの観念とまったく異なる認識を話したら、多くの新しい学習者は
聞いてから、それが良いと分かっている、すぐに理解できるとは限らず、はっきり
説明できるとも限りません。今後、あなたは引き続き学び、煉功し、聞いていけば、
次第に理解できて認識を深めることができるのです。そこで、私は皆さんがこの講義
を受講した後、何もかも忘れてしまわないように、帰ってから本を多く読み、録音を
多く聞いて、絶えず向上するよう希望しています。

もうこれ以上多くは話したくありません。最後に、皆さんに一つの言葉を贈ります。
今後の修煉の過程で、もしあなたがとても耐え難いと感じた時、行い難いと感じた時、
この言葉を思い出してください。どんな言葉でしょうか？つまり「行い難きは行いう
る。忍び難きも忍びうる」ということです。皆さんが大法の中で修煉し功成って、圓
満成就できるように希望します！